

令和2年度青森学術文化振興財団助成事業

SDGs時代の地方創生における
高等教育機関の役割に関する調査研究②

成果報告書

青森大学附属総合研究所

SDGs研究センター

2021年3月

本報告書について

本書は、青森学術文化振興財団の令和2年度助成事業「SDGs時代の地方創生における高等教育機関の役割に関する調査研究②」の成果報告書である。2030年を達成目標に掲げるSDGs（持続可能な開発目標）の推進には、その担い手の育成と地域の活性化を同時並行で進める必要があり、地域社会における知と人材育成の拠点である高等教育機関に課せられた役割そして可能性は非常に大きい。本調査研究の趣旨はそこにある。

教育分野のSDGs推進は、2015年にユネスコ主催の「世界教育フォーラム（開催地：韓国仁川）」で採択された「仁川(インチョン)宣言：2030年に向けた教育：包括的かつ公平な質の高い教育及び万人のための生涯学習に向けて」の宣言により、SDGs推進における持続可能な開発のための教育（ESD）の重要性が一層高まり、2020年度から小学校で実施される新学習指導要領「2030年の社会と子供たちの未来」で主体的な社会参画、地域貢献活動を促す社会に開かれた教育課程が盛り込まれた。高等教育の分野においては、昨今の大学教育の質的転換の流れを受けて、アクティブラーニングや文理融合、国際化、地域貢献など、学びの仕組みに他者や他分野、地域社会とのつながりや関わりを導入し、知識の量より、非認知能力の育成や習熟度、社会参画を目指す学習機会の提供が求められている。

本調査研究は、昨年度同様、上記の教育改革の潮流を明示的に捉えつつ、令和元年度の本調査研究の結果で示された下記4点の重点事項を踏まえて実施した。

1. 大学全体におけるSDGsの積極的導入
2. 内なる国際化の推進
3. 正課外活動および学外活動参画の支援スキーム
4. ルーブリック（学習到達度を観点と尺度の二つの側面で示す評価表）の利活用

しかしながら、2020年度の調査は、COVID-19のパンデミックを受けて、移動と交流という人間の基本的行動様式が世界規模で制限されたため、多くの変更が生じた。その反面、オンラインの利活用が増えたことにより、教育と交流の選択肢が増えた。一つは、全学部共通の新生必須科目において、大学で学ぶ意義についてルーブリックとSDGsの概要を交えてオンラインで行い、大きな学習効果を確認できた点である。また、海外協定大学との共同ゼミにおいては、海外渡航の制限のため、オンラインによる学生とのマンツーマン語学レッスンを実施し、語学力と外国語によるコミュニケーション力の向上につながった。さらに、今年度は高大連携・支援の教育プログラムを複数回実施した上、合計7回実施した勉強会の大半をオンラインと対面形式のハイブリッド方式で行い、県内外の参加を多数得ることができた。これらの成果は、人とモノ、情報が都市部と異なり、十分でないといえられがちな地方の高等教育機関が教育の質向上を進める上で利点と考えられる。

最後になったが、本調査研究の遂行にあたり、多忙の中、協力支援して下さった青森大学教職員、青森学術文化振興財団の皆様、そして地域の多数の関係者の皆様にこの場を借りて深く感謝申し上げたい。今回の結果が、SDGsの推進に取り組む地域の高等教育機関の関係者にとって、参考になることを願っている。

2021年3月

青森大学附属総合研究所

SDGs研究センター長 藤 公晴

目次

1. 概要と背景	5
各具体的事業と関連ページ、資料のリスト	8
2. 各事業の実施内容と結果	9
① 正課教育	9
② 学内外関係者の普及啓発	18
③ 正課外活動実施および参加支援	21
3. 学習発達度の調査と尺度の整理	23
4. 考察と提言	34
5. 参考文献	36

資料編

1. 学問のすすめ スライド
2. 学修計画書アンケート結果
3. 青森山田高校 SDGs 共同教育プログラム中間アンケート結果
4. 青森県黒石商業高校 SDGs ワークシート
5. 青森県黒石商業高校 SDGs アンケート課題
6. グローバル英語 学習効果アンケート
7. 卒業研究・論文 SDGs 研究センター賞 申請書と評価シート
8. 第7回勉強会アンケート結果
9. 高校生科学研究コンテスト
10. 大島からはじめよう 発表スライド
11. 教育の質向上に関する提案書

1. 概要と背景

概要

本調査の申請を行った2020年11月の時点における、青森県内におけるSDGs推進動向については、青森県基本計画「選ばれる青森」への挑戦や第6次青森県環境計画において、SDGsの理念を踏まえた各種施策が示されたことに加えて、あおもり創生パートナーズ株式会社による青森県内企業319社を対象とした「SDGs達成に向けて動き出す県内企業」の調査レポートや、八戸工業大学と島守盆地地区による「しまもりSDGs実践プロジェクト」など、SDGs達成年度の2030年に向けた動きが本格化してきたと言える。

本調査研究は、青森大学SDGs研究センターを主体とするSDGsの普及啓発と国際交流、地域活性化の三つのテーマ軸をもつ、中長期的な研究プロジェクトの2年目に当たる萌芽的研究調査である。とくにSDGsと関連づけた普及啓発ならびに学習機会の提供を主軸にしなが、現在青森大学と協定を結ぶ台湾実践大学による共同ゼミや高大連携、正課外活動など、①地域課題の解決に資する学習機会の提供②学習到達度の調査③そうした取り組みを高等教育機関が推進する可能性と課題の整理を主目的とする調査研究である。

今年度の調査研究は、昨年度同様、上記の趣旨および文脈を明示的に捉えつつ、令和元年度の本調査研究の結果で示された下記4点の重点事項を踏まえて実施した。

- ① 大学におけるSDGsの積極的導入
- ③ 内なる国際化の推進
- ④ 正課外活動および学外活動参画の支援スキーム
- ⑤ ルーブリック（学習到達度を観点と尺度の二つの側面で示す評価表）の利活用

上記4点については、①大学におけるSDGsの積極的導入を進める上で、②～④の取り組みを2020年度の重点事業として進めた。特にSDGsの多分野横断系の指向と地域社会の課題解決に向けた幅広い参画を踏まえると、教育の国際化に加えて、高等教育機関の正課外活動における学習および社会参画の機会提供は不可欠といえる。

しかしながら、2020年初頭以降のCOVID-19のパンデミックを受けて、今年度調査においては、移動と直接交流の機会を減らした一方、オンラインの利活用による勉強会の実施や海外協定大学との新たな交流と学習機会の提供に着手し、一定の成果をあげた。また、都市部の大学と異なり比較的感染者数が少ないことから、感染防止対策を講じた上で屋内外の勉強会を実施することができた。こうしたハイブリッド的な教育機会は、地方の高等教育機関にとって、教育の質向上を進める上で大きな利点であることが見えてきた。さらに、2020年度調査研究では、SDGsを活用した高大連携と初年度教育の拡充にも着手できた上、ルーブリック（学習到達度を観点と尺度の二つの側面で示す評価表）の活用を多様化させることができた。

このような人材育成の試みを調査研究に直結させ、さらに定着を図ることは、SDGs の目標 4「質の高い教育をみんなに」とくに SDGs にかかる教養や資質の向上に関連する 4.7「持続可能な開発のための教育(ESD)、グローバル・シチズンシップ教育、開発教育、異文化理解教育等」の推進につながる。この詳細は事業報告とともに後述するが、予算や人員という内的な制約条件と、少子高齢化と人口流出、進学者数の確保といった外的な制約条件を抱える地域の中小規模の大学にとって、SDGs の運用による創造的な教育機会（人材育成）の提供は、教育の質的転換を進める上で意義深い。本調査研究は、そうした地方の高等教育機関の教育の質的転換を進める上での制約条件や効果的なアプローチについて実証的に整理することをねらいに掲げている。

背景（大学教育の質的転換と学習指導要領の改訂）

ここでは本調査の背景について、高等教育の質的転換を中心とした教育改革の潮流を踏まえながら整理する。特に 2020 年度は、新学習指導要領の導入と大学入試改革、教学マネジメントの導入、高等教育の無償化など、初等中等高等教育における教育の質的転換を図る大きな節目であり、本調査はこうした教育の質的転換を踏まえて、地方の高等教育の SDGs 化に向けた課題整理を実証的に取り組むものである。こうした文脈を踏まえた調査の方向性を整理するものであるが、昨年度報告書の記載内容と重複する部分があるため、高等教育の質向上と初等中等教育における新学習指導要領の導入を中心に論点整理を行うこととする。

大学教育の質的転換

大学教育の改革は、少子化や地域活性化、初等中等教育の改革の流れ、そして研究力の国際競争やイノベーション創出といった諸課題と絡み合いながら、教育の質的転換に向けた取り組みが急速に進んでおり、SDGs の活用も重要視されていることを最初に指摘しておく。

まず、高等教育の質向上に関する主要な動向として、中央教育審議会（2012）による平成 24 年「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ」の答申を挙げられる。同答申では、学生の「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」「統合的な学習経験と創造的思考力」等を育み「学士力」を向上させるため、教員主体の講義型学習から学生主体のアクティブ・ラーニングへの転換の必要性を掲げており「ディスカッションやディベートといった双方向の講義、演習、実験、実習や実技等を中心とした授業への転換によって、学生の主体的な学修を促す質の高い学士課程教育を進めること」（9 ページ）の必要性を強調している。

そうした教育の質的転換を踏まえて、平成 30 年の同審議会の「2040 年の高等教育のグランドデザイン」では、SDGs との関係に明示的に踏まえながら、その「はじめに」で次の三つの方向性を示している（3 ページ）。

1. 高等教育機関がその多様なミッションに基づき、学修者が「何を学び、身に付けることができ

るのか」を明確にし、学修の成果を学修者が実感できる教育を行っていること。このための多様で柔軟な教育研究体制が各高等教育機関に準備され、このような教育が行われていることを確認できる質の保証の在り方へ転換されていくこと。

2. 18歳人口は、2040年には、88万人に減少し、現在の7割程度の規模となる推計が出されていることを前提に、各機関における教育の質の維持向上という観点からの規模の適正化を図った上で、社会人及び留学生の受入れ拡大が図られていくこと。
3. 地域の高等教育の規模を考える上でも、地域における高等教育のグランドデザインが議論される場が常時あり、各地域における高等教育が、地域のニーズに応えるという観点からも充実し、それぞれの高等教育機関の強みや特色を活かした連携や統合が行われていくこと。

上記を踏まえつつ、特に地方創生を進める上で高等教育機関には次のような機能的な位置づけを同グランドデザインで示している（14ページ）。

高等教育機関、特に大学の自発的研究機能は、教育機能とともに、地方創生にとって極めて重要な役割を担っている。それぞれの地域の社会、経済、文化の活性化のリソースや、特色・誇りの源泉であるとともに、地元産業や新規の企業立地における好条件ともなり、さらには地域における国際交流の推進、国際化への対応への直接的な拠点となる。

新学習指導要領

2020年度から小学校で実施される新学習指導要領「2030年の社会と子供たちの未来」で主体的な社会参画、地域貢献活動を促す社会に開かれた教育課程が盛り込まれた。この新学習指導要領は、中学校では2021年度、高校では2022年度から実施される。この学習指導要領では、「生きる力」のその先の力を育成する「社会に開かれた教育課程」を重要視し、特に高等学校においては「総合的な学習の時間」が2022年度から「総合的な探究の時間」に変わり、下記の通り、生徒が主体的に課題を設定し、情報の収集や整理、分析を進める能力を高めつつ、自己の在り方や生き方を考えながら、課題を発見して解決する姿勢を育むことを目指している。

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

こうした能力を育む教授法として、主体的で深い学びを実現する「アクティブ・ラーニング」や、子どもや地域の実態に即した教育を実現する学習管理として「カリキュラム・マネジメント」の定着が求められている。また、導入する学習分野については、学びに向かう力、人間性、知識及び技能、思考力・判断力・表現力の3つの力をバランスよく育成すること。また英語教育の充実化やプログラミング教育の導入などが求められている。そして、高等学校で2022年度に導入する「総合的な探究の時間」においては、自己のあり方や生き方と不可分な課題を見つけ、解決する姿勢を育むため、キャリア形成などの将来の目標を意識しながら課題を探し、関わる姿勢の育成が求められている。

各事業の分野とリスト

以上を踏まえて実施した事業は下記表の通りで、各関連ページと資料番号を付記した。

事業分野と各タイトル	日程	関連ページ/資料
1. SDGs を活用した創造的な学習機会の提供		
① 正課教育		
a. 初年度教育、一般教養課程	5/15	9 ページ/資料 1, 2
b. 高大連携（青森山田、青森県立黒石商業）	6 月～3 月	10 ページ/資料 3～5
c. 実践大学共同ゼミ		13 ページ/資料 6
d. 文理融合による県産ものづくり	11 月～12 月	15 ページ
e. 卒業論文 SDGs 賞	2 月	17 ページ/資料 7
② 学内外関係者の普及啓発の実施		18 ページ
a. 勉強会実施	5 月～2 月	18 ページ/資料 8
b. 高校生科学研究コンテスト	2 月	20 ページ/資料 9
c. 普及啓発イベントの共催 Blue Peace 共催	7 月～	20 ページ/資料 10
③ 正課外活動実施および参加支援		
a. 学生の普及啓発イベント実施と参加支援		
④ 教育の質向上に関する提案書	12 月	19, 21 ページ/資料 11
2. 学習発達度の調査と尺度の整理（アンケート、ヒアリング）	5～7 月	23 ページ
① 2020 年度 自己分析と学修計画		24 ページ/資料 2
② 2020 年度 青森山田高等学校特進コース SDGs 共同教育プログラム 中間アンケート	12/24	25 ページ/資料 3
③ 2020 年度 青森県立黒石商業高等学校 SDGs 講義ワークシート	2 月	26 ページ/資料 5
④ グローバル英語 2020 についてのアンケート	2 月	27 ページ/資料 6
⑤ 青森大学 SDGs 研究センター第 7 回勉強会 「野外の遊びと学びの接点を探る」に関する参加者アンケート	2 月	29 ページ/資料 8
⑥ 青森大学 SDGs に関する学生アンケート	9 月	31 ページ/資料 12

2. 各事業の実施内容と結果

1. SDGs を活用した創造的な学習機会の提供

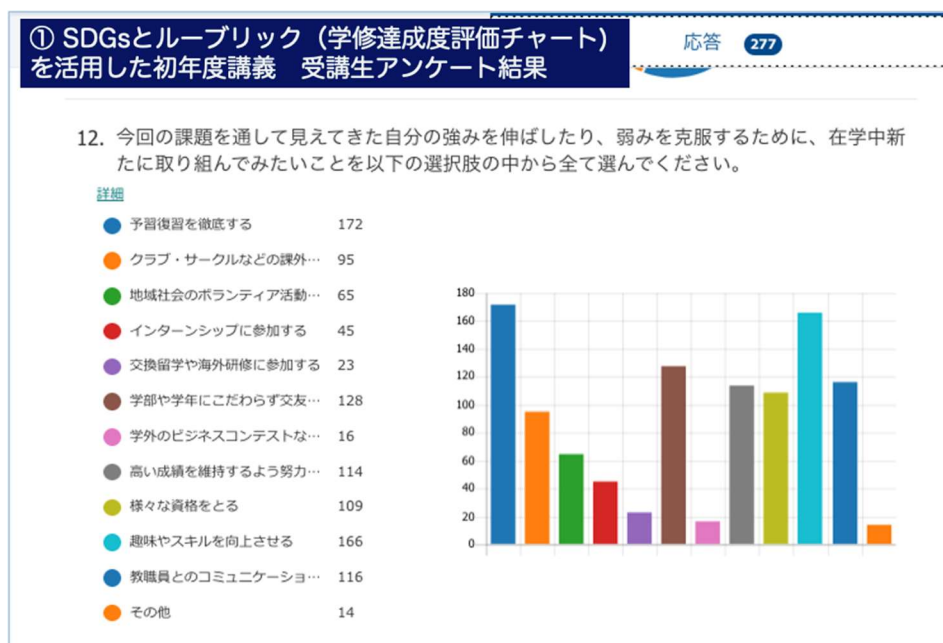
① 正課教育

a. 新入生科目「学問のすすめ」で SDGs とルーブリックの紹介、学修計画書の作成

昨年度調査の実績と一般教養科目の SDGs 導入の実績とを踏まえて、2020 年度前期開講の新入生全員を対象とする導入科目「学問のすすめ」第 4 回目（5/15）で「青森大学の教育プログラムの紹介+SDGs について」の講義をオンラインで実施した（資料 1）。

この講義では、大学で学ぶ意義、青森大学の特徴、非認知能力を向上させることの重要性について。青森大学のルーブリックや SDGs、短編ドキュメンタリーを用いて説明した後、SDGs に関わることが個々の学習目的の明確化や意欲の向上、さらには生き方を耕すことにつながるという意義を紹介した。また、SDGs の実践事例を通して垣間見える登場人物や社会の

変容を学び、受講生の能力の強みや弱み、また向上させたい能力を自己分析するオンライン課題を与えて、受講生はその科目全体の課題としてアンケート形式による学修計画書（資料 2）を作成、提出した。



この学修計画書とは、名称の通り、各学生がその大学、その学年で何を目標にどのような事柄に取り組むのかという、個々の目的意識と分野、達成に向けた手順を記すもので、各大学が教育の質的転換を進める上で、学校教育法が定める第三者認証評価のプロセスにおいて、審査の対象となる項目でもある。具体的には、ディプロマ・ポリシーに基づく課程修了時の資質・能力を学修目標として設定し、それに対する到達度合いを尺度で示す評価基準表として作成したルーブリック評価を学期ごとに行って学生の学修成果を把握し、当該学生の学修目標に対する到達度を客観的に評価し、必要な指導・助言を行うための基礎資料として、学修計画書が用いられる。

今回の初年度教育の学修計画書の作成については、大学の教育プログラムと SDGs の関係、また個々の非認知能力や対人コミュニケーション能力向上との関係の理解を促した上で、

全ての学生に自己分析を踏まえた学びの目標についてオンライン形式で作成・提出させた上で、在学中の成績管理や指導などに活用する重要な書類である。後述するが、この学修計画書の課題は本調査研究における尺度の整理の一環として取り組むものであり、SDGs を学び、関わることを通して、どのような能力分野が育まれるのかが可視化され、本人と指導教官らで共有できるものである。

b. 高大連携・支援

・青森山田特進コース総合的な探究の時間

今年度、青森大学の系列校、青森山田高等学校特進コース2年(26名)の総合的な探究の時間において、今般の新学習指導要領実施(上述)と大学入試改革を鑑み、SDGsの活用を通じた体系的な地域課題の解決を見据えた学習機会を、本学4学部のゼミなど下記6つのチームが創意工夫で提供した。



- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1. 地域資源の商品化 ツバキ油 | 薬学部 大越 絵実加 |
| 2. 読み聞かせ、読書、子供の発達 | 社会学部 秋田 敏博 |
| 3. 野外体験と観光、地域の魅力発掘 | 総合経営学部 佐々木 豊志 |
| 4. プログラミング教育の可能性 | ソフトウェア情報学部 角田 均 |
| 5. 森林資源の活用と集落の活性化 | 社会学部 柏谷 至 |
| 6. 海の廃棄物の現状と対策 | 社会学部 藤 公晴 |

今回は初の試みで、位置的にも離れているため、スケジュールの調整など十分に対応できなかった課題も残ったが、「学び機会を開く」と「地域社会の課題に自ら触れて、その解決策に関わり、キャリアを含めて自己の開拓に役立てる」という観点で、大きな効果があった。全体プログラムとしては、以下の表の通り、7月に青森山田高等学校特進コース1、2年生50余名を対象にSDGsの経緯や意義、可能性について講話を行い、10月27日はZoomを活用して、その基本的な利用について教えた上で、このSDGsプログラムの考え方と取り組み方についてディスカッションを行った。Zoomの接続、利用はほぼ全員にとって初めてだったので、細かなトラブルが多かったが、生徒同士助け合い貴重な経験になったようだ。中間報告会を12月25日(金)実施し、今回の共同プログラムの評価と学習効果に関するアンケートを実施した結果、全体的には高い評価を得ることができた(資料3)。なお、最終報告会を3月11日(木)に青森山田高等学校で内外の関係者と特進コース1年生を迎えて実施した。

青森山田高校特進コース SDGs 共同教育プログラム予定表

7月	【全体講義】 SDGs って何？ 高校自主勉強 (問いを立てる練習、テーマを見つける練習)
8, 9月	9/1 【全体講義】 SDGs って何？Part 2 メニュー紹介 9/2 【薬】 卒業研究発表会 (ポスター) 13:00-16:30 9/9 各テーマのメンバー決定
10月	9/19 【薬】 平内夜越山椿種子採取 など 10 【全体講義】 課題の調査テクニック、Zoom を試してみよう 高校自主勉強、各チームの活動参加 2、3回 【全体】 中間報告会 12/14
11, 12月	【全体】 まとめる力・合意形成 勉強会 高校自主勉強、各チームの活動参加 2、3回 【全体】 発表する力 勉強会
2, 3月	高校自主勉強、各チームの活動参加 2、3回 【全体】 報告会 3/11 午後

薬学部官学・高大連携 ツバキ油試作品開発プロジェクト(薬学部 絵実加教授、佐藤 昌泰准教授、三浦裕也教授)

9月19日にツバキ自生北限地帯として天然記念物に指定されている平内町の全面的な協力のもと、ツバキ油の試作品(ヘアケア椿油、椿油とホタテ胡粉を組み合わせた石けん)開発に向けて、平内町夜越山森林公園で種子採取アクティビティを実施した。当日は青森山田高校の生徒18名(2年生8名、1年生10名)と教員3名、大学から教員4名、薬学部学生アシスタント5名が、平内町役場スタッフ6名の支援を受けながら、怪我もなく無事プログラムを終えた。薬学部の学生らは今回の成果を踏まえて、学会発表の準備に奔走している。



読み聞かせグループ(社会学部 秋田 敏博教授)

9月下旬より、青森大学読み聞かせサークルの学生とともに、火曜日午後を中心に高校を訪問し、対象生徒6名を対象に、読み聞かせに関する講義や演習をおこなった(9/29, 10/13, 20, 27, 11/10, 17, 24)。こうした講義を踏まえて10月31日にア



スパムで実施したイベント時に、青森大学読み聞かせサークル、青森中央高校読み聞かせ隊などと共に対象生徒4名が参加し、読み聞かせブースを運営した。また、11月14日実施の甲田小学校の放課後児童会では特進コース生徒3人で読み聞かせを開催し、11月28日にも甲田小学校放課後児童会を訪問した。12月以降も可能な範囲で訪問した。

観光人材グループ(総合経営学部 佐々木豊志学部長、観光文化研究センター長)

8月上旬、八甲田外来帰化植物駆除のアクティビティを八甲田ロープウェイの協力のもと実施予定だったが、強風のため急遽毛無岱への高山植物観察・ハイキングに変更した。以降、主に観光文化研究センターの様々なイベントへの参加機会を経て、11月22日の発酵文化ツーリズムの講演会に生徒7名が参加した。12月19日、20日に雪板の制作と体験プログラムをモヤヒュッテで実施した。

ICT 小学生プログラミングプロジェクト(ソフトウェア情報学部 角田 均学部長)

11月15日(日)の午後、東奥日報主催の小学生プログラミング教室のプレテストに青森山田高校特進科の2年生2名が参加しました。東奥日報新町ビル2階の7C'sを会場に橋本小学校4～6年生の生徒9名が参加、プログラムを作成してドローン飛行にチャレンジしました。青森山田高校生2名とソフトウェア情報学部の学生2名がサポートを担当し、参加した生徒たちの初めてのプログラミングをサポートしました。プログラミング教室の本番を12月5日(土)、午前と午後に20名ずつの小学生が参加して、東奥日報新町ビル3階の会場で開催した。

森林バイオマスの利活用(社会学部 柏谷至教授)

「七和薪循環プロジェクト」は、青森県五所川原市七和地区にある山林やりんご園、屋敷林等の樹木を薪として製造・販売して、森林・里山の適切な維持管理や地域経済の活性化、地球温暖化対策への貢献を目指す取り組みである。一般社団法人「七和まちづくりネットワーク」、NPO法人「グリーンエネルギー青森」、青森大学柏谷研究室が連携して取り組んでいる。

平内町海洋漂着物チーム(社会学部 藤 公晴)

11月13日に社会学部2年生3名が、特進コース2名を対象に平内町夏泊半島の海洋漂着物問題とその解決策に関するプレゼンをZoomで行なった。学生3名は前期の環境社会学(担当:金二城教授と藤 公晴)で各自が取り組んだ課題を対象生徒2名に紹介し、海洋漂着物の問題の複



雑さと参加の重要性について生徒達と話し合った。2月中旬に平内町夏泊半島東海岸のゴミの漂着の様子を見学した。

・青森県立黒石商業高等学校におけるSDGs出張講義・ワークショップ

黒石商業高等学校では、同高校の2年生74名を対象に2回の講義・ワークショップを出張講義で実施し、1回目の2回目の間にSDGsに関するドキュメンタリーをそれぞれ鑑賞し、個別課題をオンラインアンケートで実施した(資料4&5)。今年度は初の試みであったため「支援」であったが、今後のより効果的な連携プログラムを考える上で参考になった。

具体的には、第1回目講義を2021年1月に実施しSDGsの経緯や概要の説明を行い、第2回目に向けた課題としてYahoo! JAPAN CREATORSプログラムの「DOCS for SDGs」の作品群から各自が好きなものを選び、その内容とSDGsとの関係性、登場人物や描写から各自が考える「伸ばしたい能力」についてアンケートに答えた。第2回目は、アンケートの結果を全員で共有した上で、グループディスカッションと全体ディスカッションを実施し、最後に利他的行為と主観的幸福感の関係、国別のSDGsの推進と幸福度ランキングの関係について紹介した。アンケート結果を見る限り(資料5)、大人数を対象の従来の講義形式であっても、短編ドキュメンタリーという実在のストーリー群の中から、各自の関心に基づいた作品を選び、その内容とSDGsとの相関、個々が伸ばしたい能力について分析することで、SDGsに関わることが人格形成と社会課題の解決、生き方にも関係することの理解を促す手法として一定の学修効果があることが確認できた。

c. 青森大学と台湾協定大学、実践大学の共同ゼミ(鹿内 史 ソフトウェア情報学部 講師)

コロナ禍で台湾の協定大学、実践大学との共同ゼミが適わない今年度のグローバル英語(4単位)では、Zoomによる学生マンツーマン英会話レッスンを11月上旬から12月中旬にかけて計10回実施した。

具体的には、実践大学の応用外国語学部 (Department of Applied Foreign Language) の

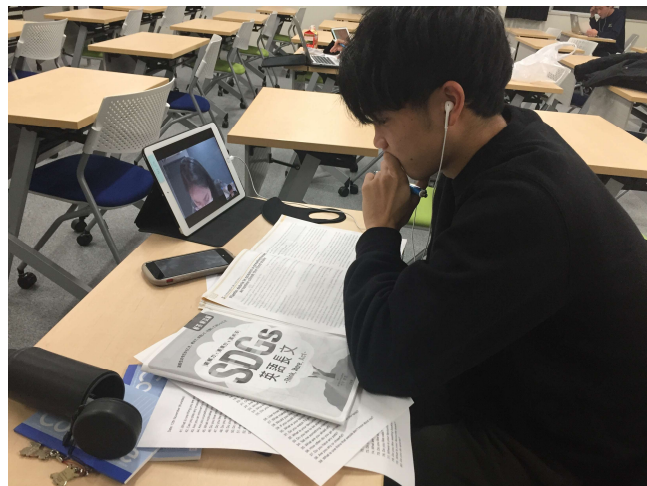


Dr. Michelle Chen 学部長を中心に、同学部で英語教授法を専攻している学生5名が、毎週月曜と木曜の18時から1時間マンツーマンで本学学生5名(総合経営学部2名、社会学部1名、ソフトウェア情報学部2名)に英会話をオンラインコミュニケーションアプリケーションのZoomを介して集中的に教える仕組みに落ち着いた。台湾国内の大学でも国際化が突出して進んでいる実践大学には、英語のみの学部やプログラム(ETP- English



Taught Program)も複数あり、学生たちの英語力は全般的に非常に高い。参考までに、世界の英語人口約17.5億人の約8割が第2言語として英語を使用しており、こうした英語ネイティブ以外の人々との英語コミュニケーション力の向上も教育の国際化を進める上で重要な観点である。こうした点と日本の地方の高等教育機関（一部の優良大学を除き）の英語カリキュラムの実情を踏まえると、同世代の学生によるマンツーマン形式の英会話は双方にとって得ることの出来ない学習機会でなかろうか。英会話を教える側である英語教授法を専攻する学生にとっては、教育実習の一環になり、実践大学側にとって今回初の試みとなった。同様に、英会話を学ぶ側（青森大学の学生）にとってもマンツーマン指導は初めての機会であり、効果も高かった（資料6）。

今回の学生によるマンツーマン教育の試みは、オンラインによる語学教育という可能性だけでなく、英語教授法（TESOL- Teaching English to Speakers of Other Languages）を学ぶ海外協定大学の学生による実習・演習として、本学の英語教育の一部を担うことの有効性を示している。この点は、現在本学で実施している日本語教員養成プログラムの履修者が、海外協定校の日本語習得を目指す学生らに対して、同様の語学指導支援の可能性も示しており、協定大学との交流の質向上、言いかえると本学の教育の国際化、質向上につながるものと考えられる。



また、教育の国際化に対する従来の考え方は、海外留学（短期と長期）を勧め、交換留学や語学研修などの派遣を主軸にするものであったが、そのような国際化は手間と費用がかさむ上、受益者が限られていることから、近年、外国人教員の受入や海外協定校からの留学生の受入、ダブルディグリー、国際交流の仕掛けづくりなどの「内なる国際化」への注目が集まっている（水松2018; 太田2011）。こうした動向ならびにコストを踏まえると、今回のZoomによる学生同士のマンツーマンセッションの試みは、教える側にとっても教えられる側にとっても利点がある上、コーディネート次第で今後より広範な導入の可能性はある。

d. 文理融合による県産ものづくり(卒業研究と学会発表)



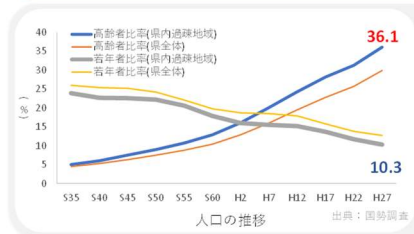
本プロジェクトでは、青森大学の薬学部（三浦 裕也学部長、大越絵実加准教授）を中心に、地域の自然資源（湧水、白樺、山椒）を活用した、青森県産ものづくりアイデア（白樺樹液トニックウォーターwith山椒未成熟果実 / 白樺樹液シードル など）の試作品を学生と地域の関係機関の協力を得ながら制作するもので、

2019年度春から実験に取り組んでいる。高校生や大学生が、地域の課題を解決する取組は、若者の起業への意欲向上や地域への定着を図る観点からも効果的である。

本研究は「国民一人一人が夢や希望を持ち、豊かな生活を安心して営むことができる地域社会の形成」に寄与することを目標としている。薬学部は、このSDGsの取り組みを通じて、地方創生につなげることを目的に、新たな付加価値を生み出すことを目標にしている。

また、SDGsの目標に明示的に関連づけたアウトリーチ活動も実施した。実験過程については、4月上旬から白樺樹液を採集し滅菌処理などを行い、7月から山椒の未成熟果実の採集、凍結乾燥させた。その上で、大学周辺の湧水2カ所で試作品用の水を複数回採集し、トニックウォーターの開発に取り組んだ。

【青森県の課題と国内の動向】



- 青森県の72.5%が過疎地域に指定。(29市町村/40市町村)
- 年齢階層別人口の推移[過疎地域]
 - 高齢者比率(65歳以上)の上昇
 - 若年者比率(15~29歳)の降下
 - 過疎地域における就業人口の減少(41.4%減。1960年~55年間)

【日本のSDGsアクションプラン2020】

- ビジネスとイノベーション
- SDGsを原動力とした地方創生
- 次世代・女性のエンパワーメント

Japan. Committed to SDGs

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/index.html>

【地方創生】

SDGsの理念を踏まえながら地域の強みを生かした

- 地域産業の振興
- 安定した雇用の確保
- 活動を支える基盤の整備が求められている。

【白樺樹液の採集】

2020年3/19~4/20の間に白樺の幹、周径計測：地面から高さ60cm~80cm地点に1cmの穴をあけ、流れ出る樹液を採集した。加熱により10倍濃縮し、甘みの変化で、Gold、Medium、Amber、Darkと名前を付け、分画した。(メープルシロップのグレード名を参考) この結果から、流出する

時期によって、甘み・風味が変化することが明らかとなった。続いて、これらの甘み・風味の変化がどのような科学的根拠に基づくのか、検討を行った。

白樺樹液の品質評価

科学的根拠に基づく高付加価値の製品開発を図るため、青森県量子科学センター(QSC)六ヶ所村施設の微量元素分析(PIXE)技術などを応用して品質を調査しながら、試作品の素材を開発した。

本試作品のアウトリーチ活動については、青森大学附属総合研究所の観光文化研究センター主催(佐々木 豊志教授)の体験型観光商品開発セミナーで取り組みの紹介を学生と地域の観光関係者に行った。以上の結果より、採集時期による甘み・風味の変化は、含まれる元素の違いに依存することが明らかとなった。春、芽吹く頃の白樺の生育に、これらの元素の変化が必要であることが示唆された。本研究は、2020年のみのデータのため経時変化の再現性を調べるため、引き続き数年の追跡データは必要であると考えられる。

情報発信

学会発表 日本薬学会第141年会(広島Web開催)(2件)2021年3/26-29

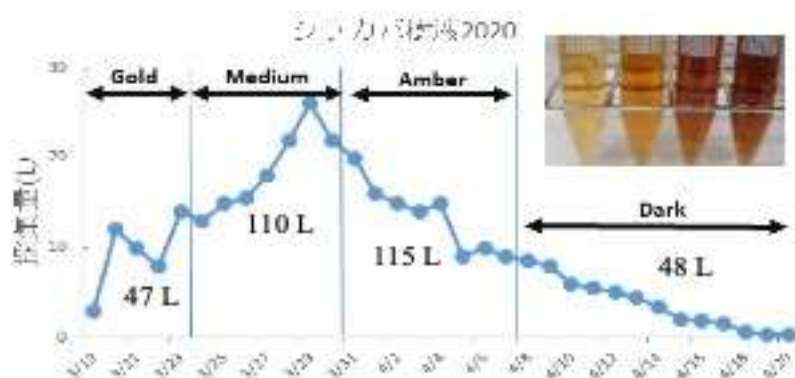
1. 柴田 雅之1、堀松 星翔1、盛 愛1、今 藍理1、網野 佳奈1、岡島 未槻1、三浦 裕也1、佐藤 昌泰1、大越 絵実加1,2 (1, 青森大薬、2, 青森大SDGs研セ) 27P01-301S「地方創生SDGs(持続可能な開発目標)に基づいた北東北の特色ある天然素材の開発」
2. 多田智美1、堀松星翔1、盛愛1、今藍理1、網野佳奈1、岡島未槻1、三浦裕也1、佐藤昌泰1、大越絵実加1,2 (1, 青森大薬、2, 青森大SDGs研セ) 27P01-302「地方創生SDGs(持続可能な開発目標)の取り組みにおける高校生の意識調査」

謝辞

この研究を遂行するにあたり、ご協力いただきました下記の方々に深く感謝いたします。

サンプル内容	Gold	Medium	Amber	Dark
味	++	+	±	-

東北大学サイクロン・ラジオアイソトープセンター
石井 慶造 名誉教授
青森県庁エネルギー総合対策局エネルギー開発振興課 村松 忠佳 様



[白樺について]
白樺とは、カバノキ科カバノキ属の落葉高木の一つで、白い樹皮と三角形に近い形の葉を持つ木本植物である。北・中央ヨーロッパや北アメリカなどにも広く生育し、暖かい地方では病害虫の発生が多いため、育ちににくく、寒い地方では生長が早いという特徴を持つ。樹液には、糖質やアミノ酸、リンゴ酸、ミネラル類などが豊富に含まれ、便秘や痛風の改善効果、健胃・整腸効果で知

られている。また、最近ではストレスをやわらげる効果もあると考えられている。白樺は甘味料であるキシリトールの原料としても有名である。そのため、白樺の樹液は古くから世界各国で健康飲料として愛されている。白樺の樹液は、幹に小さな穴を空けるだけで簡単に採取することができる。樹液は、水のように透過し、ほんのりとした甘みを持つ。古くから北欧、ロシア、アイヌの北国の先人達はこの樹液水を春の自然の恵みとして飲む習慣があった。白樺は海外では「パイオニアツリー」(先駆樹種)、「ナース・ログ」(森の看護婦)、マザーツリー(母なる樹)などと呼ばれ、神聖で神秘的に満ちあふれた樹として祀られてきた。春、芽吹く頃の白樺の幹に傷を付けると、大量の樹液が吹き出す。樹液は人工甘味料キシリトールの原料になる。樹液に含まれる成分にヒトの表皮の保湿を促進する効果があることから化粧品にも利用される。

[山椒の効能・効果]

ミカン科サンショウ属の落葉低木。山椒の実には、内蔵機能を高めたり、胃腸を健康にしたりする働きが報告されている。また、発汗や代謝を促したり、中枢神経を刺激したりして、身体や脳の各機能を活発化させる効果も知られる。

胸苦しきの緩和、食欲増進、冷え性の改善、便秘解消、心臓病や動脈硬化など、生活習慣病の予防、抗うつ効果

成分：サンショオール、ゲラニオール、リモネン

サンショウ未成熟果実の青森県産ミネラル水加熱3倍濃縮抽出液に独特の「しびれ感」があることを発見した(成熟サンショウには見られない)。



e. 卒業論文 SDGs 研究センター賞

今年度、全学部の卒業研究・論文を対象にSDGs 研究センター賞を設け、募集を行った結果、薬学部と総合経営学部から計5件の応募があった。賞の設置は、今般各学部で進む卒業判定の複合化(厳格化)を踏まえて、より質の高い卒業論文の制作に向けた学生と教職員の意識の喚起と、SDGs との関連づけを通じた全学的な普及啓発を目的とするものである。このことは、SDGs との関連づけを明示的に本文で論じているものだけでなく、本文でSDGs との関連づけを行っていない作品についても、社会の課題解決に向けた課題設定と分析、意味づけに着目し審査を行った(資料7)。表彰式は今年度事業完了後の3月11日のため本報告書には掲載しない。

受賞区分	氏名	指導教官	タイトル
最優秀賞	釜菴 麻侑花	森 宏之	食品ロスの現状と課題
優秀賞	堀松 星翔	大越 絵実加	中高生を対象とした薬学的な概念形成を図る化学実験教材の開発とプログラムの実践的検証
優秀賞	小柴 圭太	松本 大吾	地方で行う先進的な学校教育の一考察：インドネシア2校と比較して
佳作	ワイバ ゴビンダ	佐々木 豊志	日本とドイツのエネルギー政策の違い
佳作	竹内 啓太郎	福井 雅之	Quercetinは肺がん細胞の増殖を抑制する

② 学内外関係者の普及啓発の実施

a. SDGs 研究センター勉強会

令和2年度のSDGs研究センターの勉強会は、以下の表の通り合計7回実施した。各回概ね30名程度の参加が学内外からあり、のべ200名以上の参加者（教職員、学生、一般）があった。特に第4回勉強会は、日本エコツーリズムセンターと青森大学観光文化研究センターとの共催のもと、青森大学祭期間中の夜、室内実施でなくキャンパス中庭で焚き火を囲みながら実施した。

第1回 (7/3)	石井重成氏	ポストコロナ時代のローカルキャリアとキャリア支援: 釜石の地方創生と『ローカルキャリア白書』を事例に
第2回 (8/7)	佐々木豊志氏	SDGs時代の幼少年期の自然体験と人間形成
第3回 (9/11)	高橋博志氏、柏谷至氏	地域に根ざすバイオマスエネルギー: その可能性と課題
第4回 (10/3)	喜來大智氏、小柴圭太氏、後藤欣司氏、佐々木豊志氏	学生が歩く“みちのく潮風トレイル(10分の1)”青森発
第5回 (11/13)	相澤久美氏	SDGs時代のパートナーシップ: 「聴く」ということ
第6回 (1/22)	竹内健悟氏	弘前藩庁日記に記録された鳥の話: 津軽地方の人と野生生物の関係
第7回 (2/22)	佐々木豊志氏、盛健一氏	野外の遊びと学びの接点を探る

第4回勉強会では、全国ネットワーク組織の日本エコツーリズムセンター経由のオンライン



参加者が、各地から30名ほどあり、キャンパスへの直接参加者を含めて合計40名近くにのぼった。このようなオンライン形式の実施形態は、全国ネットワーク組織である日本エコツーリズムセンターと共催という、新たな協働と普及啓発の可能性が広がったといえる。

第6回勉強会では、SDGs研究センター客員研究員の竹内健悟氏を迎えて「弘前藩庁日記に記録された鳥の

話: 津軽地方の人と野生生物の関係」を実施した。このテーマは、同氏が昨年9月に出版した「弘前藩いきものがたり—弘前藩庁日記に記録された鳥獣の話」(北方新社)をもとにした。参加者はオンラインと会場分をあわせて37名で、秋田県と宮城県からの参加者3名も含まれる。講演では、鳥の種類と種類ごとの関わり(調理、幕府への献上、駆除など)、



数の推移など、鳥を中心にした当時の多様な文化について詳細かつ興味深く理解できるものだった。また、藩政記録の解読から垣間見える18世紀の津軽地方の自然ならびに人の関わりと、今日の状況との対比は、岩木川や津軽平野で鳥類の生態調査、自然環境管理に精力的に取り組む竹内氏ならではの切り口と功績で、今後の人文系環境学という学術分野と、津軽地方の自然環境の再評価にも資するものと推察される。

また、第7回の最終回は、正課外教育(上述)における雪上の野外活動の教育的効果を整理することを目的に、教育関係者を調査研究の協力者として広く募った(資料8)。当日の午前中はイグルーと雪板(スノーボードの原型)、スノーハイク(歩くスキーの一種)の体験を行い、午後は講話の後、参加者約30名とのディスカッションを実施し、参加者はそれらをもとに「青森大学SDGs研究センター第7回勉強会「野外の遊びと学びの接点を探る」に関する参加者アンケート」に答えた(資料8)。なお、本調査の詳細については、

学習発達度の調査と尺度の整理(アンケート、ヒアリング)で紹介する。

今回はこうした勉強会の様子を含めて、SDGs研究センターの普及啓発の動画として、業者の協力と学生の参加を得ながら作成した。

各回異なるテーマを切り口にしつつ、青森大学のような地域の高等教育機関における教育の質向上の方向性や課題について学び合うスタイルをとっており、これらの成果をもとに2020年12月中に青森大学における教育の質向上に関する提案書をまとめた(資料11)。

b. 高校生科学研究コンテストにおける SDGs 研究センター賞設置

今年度で8回目を迎えた青森大学の高校生科学研究コンテスト。8校123名の生徒が参加した。発表テーマは35件あり、主に物理、数学、天文、ゲーム、工学系の発表をA会場で、生物、化学、農学、食品、環境系の発表をB会場で実施した。

今年度コンテストから、SDGs への社会的関心の高まりと人材育成の重要性を踏まえて、SDGs 研究センターで独自の賞を設けた。各エントリー作品が、SDGs との関係を示しているかという観点より、それぞれの研究が地域社会ならびに地球規模の諸課題の解決・改善とどのように関連づけているかを注視し、それぞれの社会貢献の可能性を評価した(資料9)。その結果、五所川原高等学校の天然藍染めと化学藍染めに関する研究(班員:田中 智也さん、新岡 嵐瑛さん、秋田谷 怜実さん、亀海 彩さん、安田 光来さん、担当教員 佐々木 成俊先生)にSDGs 研究センター賞を贈ることに決定した。

なお、今年度のコンテストは、令和2年12月13日(日)に予定されていたが、開催前に本学関係者の新型コロナウイルス陽性が確認されたことに伴い、本学での開催を中止とし、エントリーチームから送られた成果発表の動画と書類をもとに審査した。

c. 普及啓発イベントの共催

Blue Peace(代表 Mihai-Florin Apostu-Oota ミハイ 太田氏)は2020年度秋から平内町夏泊半島の大島で海岸漂着ゴミの収集活動に取り組み始めた青森市の市民グループで、これ



まで SNS による積極的な情報発信を通して、多くの市民を巻き込んだ活動を展開している。今年度9月に実施した夏泊半島大島における収集イベントへの参加以降、同グループの会議や打ち合わせに参加し、2月14日の同グループのオンライン・ネットワーク会議にSDGs 研究センターとして下記の通り共催し、海岸漂着物の取り組み

に関する制度の概要とBlue Peaceのような市民組織の役割について話題提供を行った(資料10)。結果的に80名ほどの参加者になった。同オンライン会議の配信会場として、リコージャパン株式会社青森支社(問屋町)のオフィスを無償で借りることができた。青森県における海岸漂着ゴミ対策と市民が自主的に収集する意義、SDGs の骨子について話題提供した。2021年度は、地域の研究センターとして、同グループの活動の協力支援を行いつつ、学生による参画や参加者の満足度の調査、さらには同グループの支援を得ながら初年度教育への導入を図る計画である。

BLUE PEACE 大島から始めよう オンラインカンファレンス

目的 綺麗な海を守るには、何が必要かを考える
そのためには ⇒ 他団体の話を聴き、認識を共通にして、つながる。

主催 BLUE PEACE (ブルー ピース) 隊長 Mihai- Florin Apostu-Oota (ミハイ)

共催 青森大学 SDGs 研究センター

会場提供 リコージャパン株式会社 青森支社

日時 2021年2月14日(日) 10:00~12:00 (120分)

場所 オンライン (zoom) ※BLUE PEACE メンバーはリコージャパンから配信

発表者

- ① BLUE PEACE 代表 Mihai- Florin Apostu- Oota
- ② BLUE PEACE 副代表 小田切 勇治
- ③ 青森大学 SDGs 研究センター センター長 藤 公晴
- ④ 青森市古川中学校 1年 工藤 ゆきの
- ⑤ 三津谷 肇・あゆみ
- ⑥ むつ湾クリーンアッププロジェクト 高橋 秀壮
- ⑦ 松風塾高等学校 校長 成田 博昭
- ⑧ HIRANAI PROJECT REbirth 江戸 梢

司会 境 香織 (フリーアナウンサー)

当日の動画 : <https://www.youtube.com/watch?v=m-oU0TuubB>

③ 正課外活動実施および参加支援

学生の普及啓発イベントの実施と参加支援

昨年度事業と同様、正規の教育課程の対象にある、課外活動や学外の関連行事への参画を通じた普及啓発や能力向上の機会を青森大学の学生サークルのメンバーを中心に設けた。こうした行事は夕方や週末など、所定の講義やゼミの時間外で、学生らの創意工夫、言い換えると自主性や主体性、他者とのコミュニケーションを集団的な活動の中で育むことができる。また、学外で行われる普及啓発の機会に参加することで、各分野の専門家や実践者との親交を築くことで、キャリア開拓にもつながる。こうした偶発的な出会いや発見が学生の学習意欲の向上にも資する上、本事業の地方創生における高等教育機関の役割の整理という趣旨にも合致していることから、以下の機会提供を行った。ただし、COVID-19 の影響があったため、機会提供は少なくなった。

1. SDGs 研究センター勉強会 1~7 回企画運営
2. 奥入瀬溪流と白神山地とフィールドワーク支援
3. みちのく潮風トレイルの 100km 調査支援
4. SDGs 動画作成委託業務の支援

④ 教育の質向上に関する提案書

2019年度助成分の調査研究等の成果や取り組みを踏まえて、「青森大学の教育の質向上にかかる提案書」をセンターで作成し、金井学長宛に12月3日に提出し受理された（資料11）。

このような提案書の背景には、本学の教育の質の向上と特色ある教育機会の具現化に向けた布石という2つの側面がある。また、本提案は2021年度早々の着手を想定しており、実現可能性を勘案し、①初年度教育の充実化と②正課外教育の機会拡充、③内なる国際化の3分野に絞ってまとめた。

4. 学習発達度の調査と尺度の整理（アンケート、ヒアリング）

2年目を迎えた調査では、地方の高等教育機関がSDGsをより明示的に学習機会に組み込むことと、ルーブリックのさらなる運用を想定して調査数を増やし、下記6つの調査を学生と教育関係者を対象に実施した。なお、アンケート実施には回答収集の利便性と集計の効率化を踏まえて、オンラインアンケートのMICROSOFT Forms と SurveyMonkey を活用した。

調査名	実施日	設問数	回答者数	備考
① 2020年度 自己分析と学修計画	5-7月	17	277	資料2
② 2020年度 青森山田高等学校特進コース SDGs 共同教育プログラム 中間アンケート	12月	10	27	資料3
③ 2020年度 青森県立黒石商業高等学校 SDGs 講義 ワークシート	2月	8	74	資料5
④ グローバル英語2020についてのアンケート	2月	31	5	資料6
⑤ 青森大学SDGs研究センター第7回勉強会「野外の遊びと学びの接点を探る」に関する参加者アンケート	2月	13	25	資料8
⑥ 青森大学 SDGs に関する学生アンケート	9月	12	96	資料12

その中でも顕著な結果について以下に整理した。各データやコメントの詳細については巻末の各資料の当該アンケート結果を参照のこと。

また、本章の最後に調査研究の結果を踏まえて、SDGsの指標に関する動向を整理した上で、今年度の調査研究で得た知見を総括する。

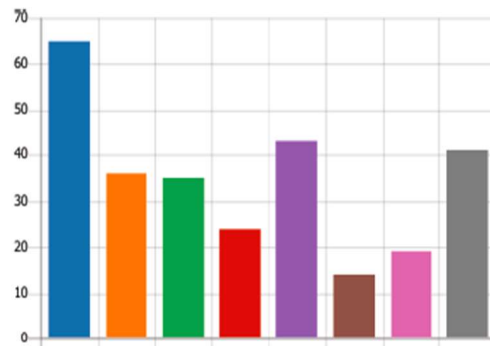
① 2020年度 自己分析と学修計画

2020年度前期開講の新入生全員を対象とする導入科目「学問のすすめ」第4回目（5/15）で「青森大学の教育プログラムの紹介+SDGsについて」の講義をオンラインで実施した（資料）。講義の中では、大学の教育やSDGsに関する紹介に加えて、大学生が地域の商店街の書店を活性化させる取り組みに、正課と正課外教育として関わる様子の短編ドキュメンタリーを見せた上で、地域社会の課題解決に向けて、自ら関わることで育まれる非認知能力と重要性について抗議した。その上で、講義の課題として、尊敬する人物が有する能力をルーブリックと対比させながら学び、受講生の強みや弱み、また向上させたい能力について、自己分析するオンライン課題を与えて、受講生は学修計画書として提出した（資料2）。

まず、ルーブリックを参考にしながら、最初の1年目に育みたい能力をルーブリックの中から一つ選ぶことを尋ねた結果、下記設問5の表の通り、最も多かったのが「自主的に学ぶ力」で、2番目に多かったのが「表現する力」であった。

5. 上記設問1で選んだ能力の中で、この1年間で特に向上させたい力を選ぶのであれば、以下のどれでしょうか？ルーブリック表の達成水準を再度参考にしながら1つ選んでください。

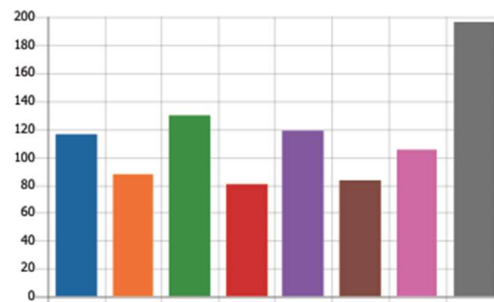
● 自主的に学ぶ力	65
● 学修を継続する力	36
● 信頼を築く力	35
● 協働する力	24
● 表現する力	43
● 課題を発見する力	14
● 計画を策定する力	19
● 目標に向けて成し遂げる力	41



次に、設問8で回答者に尊敬する人物を一人選び、その人物の名前と選んだ理由を尋ねた上で、設問9で、各自が選んだ人物から見習いたい性質や能力と関係している「力」をルーブリックの8の能力から選択させた結果、下記表の通り、最も多かったのが「目標に向けて成し遂げる力」で、その次に「信頼を築く力」となった。

9. その人物から見習いたい性質や能力と関係している「力」を、下記のルーブリックの8の能力から全て選んでください。

● 自主的に学ぶ力	116
● 学修を継続する力	88
● 信頼を築く力	130
● 協働する力	81
● 表現する力	119
● 課題を発見する力	84
● 計画を策定する力	105
● 目標に向けて成し遂げる力	196



上記の他にも、自己分析を促す設問を多く入れたが、今回の調査の結果に対する学生らの評価は総じて高かったといえ、今後の初年度教育でより体系的に導入を図りつつ、次年度や3年次の学生指導や面談でもフォローすることの意義が示されたと言える。

15. 今回のルーブリックを用いた課題は、それぞれの自己分析を進める上で役に立ちましたか？

● 役に立った	182
● どちらかといえば、役に立った	80
● どちらかといえば、役に立た…	10
● 役に立たなかった	5



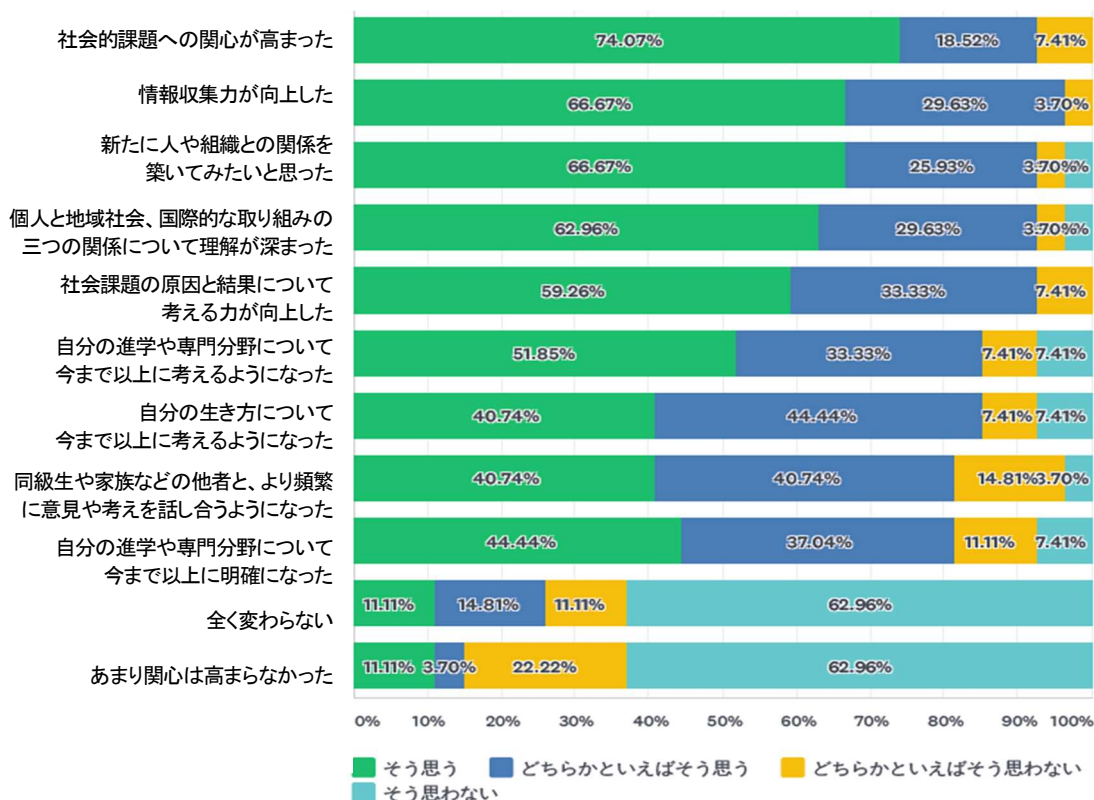
② 青森山田高等学校特進コース SDGs 共同教育プログラム 中間アンケート

高校特進コース2年(26名)の総合的な探究の時間において、SDGsの活用を通じた体系的な地域課題の解決を見据えた学習機会を、本学6つのチームが創意工夫で提供した。この中間アンケートは、各チームのプログラムの大半が終わり、12月後半の中間報告会后に実施したものである。今回は初の試みで、位置的にも離れているため、スケジュールの調整などの課題も残ったが、下記(設問2)の通り、「学び機会を開く」と「地域社会の課題に自ら触れて、その解決策に関わり、キャリアを含めて自己の開拓に役立てる」という観点で、大きな効果があったと考えられる。また、各自の選択の結果にかかる自由記述のコメントでは「sdgsの活動を通して、地域の人々との関わりに興味をわくようになりました」や「SDGsの活動を通して持続可能な社会を作っていくことに関して関心が高まったのでこれからも意識していきたいです」が挙げられた。

また、設問4でSDGsと関係している他の授業を3つ選ぶことを尋ねた結果、地理や政治・経済、保健、英語の選択が目立ったが、回答率が非常に高く、それぞれの授業内容とSDGsの関係について考える機会になった(資料3)。

最後に全体的な満足度(設問5)については、9割以上の回答者が「満足」(48%)か「どちらかといえば満足」(44%)を選んだ。また、その理由にかかる自由記述では、例えば「今回のプログラムを通して、普段考えないような内容について考える良い機会になったから。」や「SDGsについて興味を持つことができ、身近な事柄でもSDGsに当てはめて考えることができるようになったから」と述べており高い効果があった。

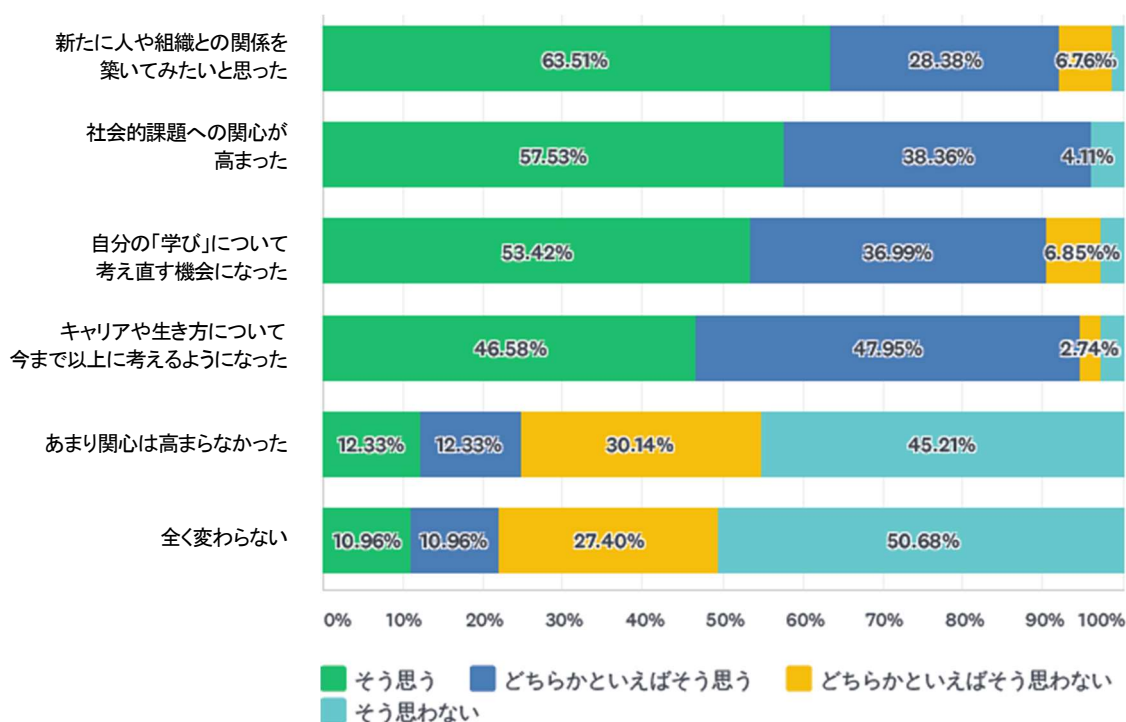
設問2 今回のSDGs共同教育プログラムの効果について



③ 青森県立黒石商業高等学校 SDGs 講義 ワークシート

黒石高校の場合、2年生74名を対象に、2回の講義・ワークショップを出張講義で実施し、1回目の2回目の間にSDGsに関するドキュメンタリーをそれぞれ鑑賞し、個別課題をオンラインアンケートで実施した。ドキュメンタリーについては、青森大学の初年度教育や青森山田高校特進コースで活用したものより長い作品で、のYahoo! JAPAN CREATORS プログラムの「DOCS for SDGs」の作品群から各自が好きなものを選び、その内容とSDGsとの関係性、登場人物や描写から各自が考える「伸ばしたい能力」について尋ねた。

設問4 今回のSDGsの講義とドキュメンタリー課題を通して、SDGsの効果に関する以下の各項目に当てはまるものをそれぞれ一つ選んでください。

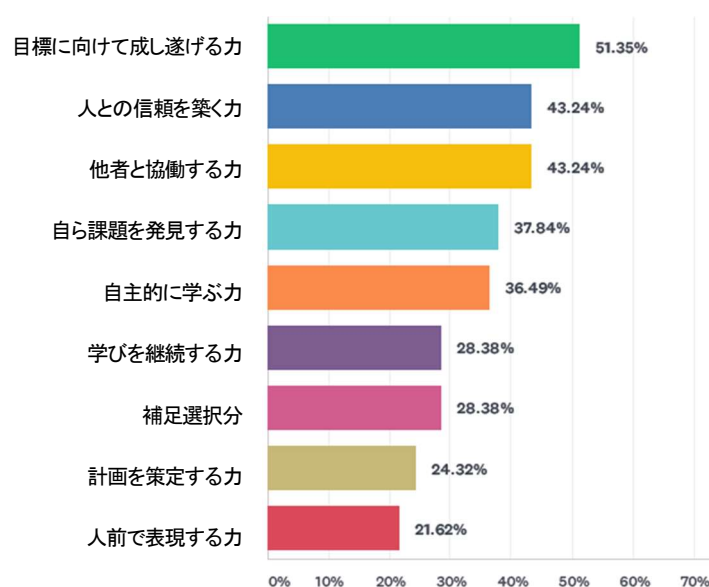


上記結果にかかるコメントについては、下記を挙げておく。

- 元テロリストが更正する姿勢が、凄く考えさせられました
- 信頼の大切さを知れた
- 自分自身の考え方を改める機会が良かった
- 今身につけている衣服や使っている物は誰かの犠牲があって生産されている物であることを知り、物は大事に使わなければならないと思った
- 自分の知らない事が沢山あって、もし自分でできることがあるならやってみたく思ったから
- 社会的課題にどう向き合うべきなのかを考えるようになった

今回の課題アンケートでは、ドキュメンタリーの登場人物の関わり方を踏まえて、青森大学のループリック表を参照にしながら、各自が向上させたい能力を選択させた。その結果、下記表の通り「目標に向けて成し遂げる力」を選んだものが最も多く（51%）、その次に「人との信頼を築く力」と「他者と協働する力」が選ばれた（43%）。この結果については、選択した作品のテーマや着眼点、シナリオによって、暗示される非認知能力が異なるものの、課題解決に向けて関わり続ける努力と、解決に向けて他者との関係を構築する力の重要性の理解につながったと考えられる。この点に加えて、高校生を対象とした二回の講義で、ドキュメンタリーと大学のループリックを活用した課題を行った結果、一定の学習効果があることが見えたことから、今後も同じようなアプローチを行う意義が見えた。

設問6 各自が選んだ作品の登場人物の課題に対する関わり方を通して見えてきた、各自が特に「向上させたい力」とは？下記選択肢の中で、当てはまるものを全て選んでください。



このドキュメンタリー課題に対する学習の度合いについては、「学ぶことが多かった」の選択が約 61%で、「どちらかといえば学んだ」が 36%という結果で、非常に高い結果となった。詳細については資料 5 の 15～16 ページを参照してほしい。

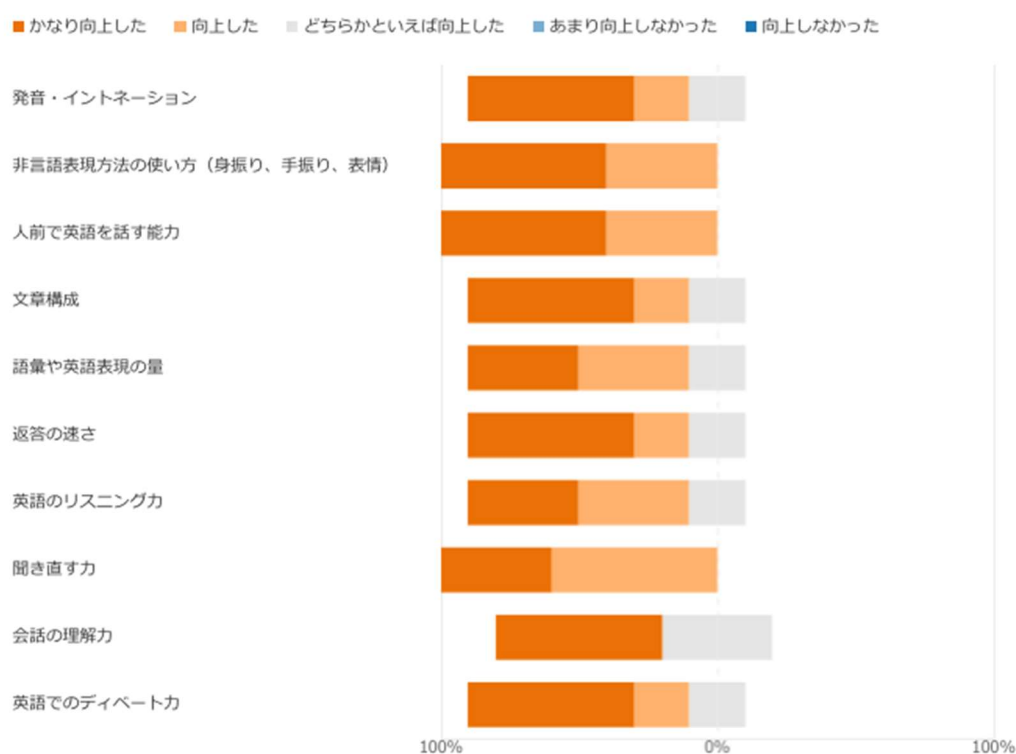
④ グローバル英語 2020 についてのアンケート

コロナ禍で台湾の協定大学、実践大学との共同ゼミが実施できなかったため、同大学応用外国語学部 (Department of Applied Foreign Language) の Dr. Michelle Chen 学部長を中心に、英語教授法専攻の学生 5 名が青森大学学生 5 名 (総合経営学部 2 名、社会学部 1 名、ソフトウェア情報学部 2 名) にオンラインによるマンツーマン英会話レッスンを 11 月上旬から 12 月中旬にかけて計 10 回実施した。英会話を教える側である英語教授法を専攻する学生にとっては、教育実習の一環になり、実践大学側にとって今回初の試みとなった。同様に、

英会話を学ぶ側（青森大学の学生）にとってもマンツーマン指導は初めての機会であり、効果も高かった（資料6）。

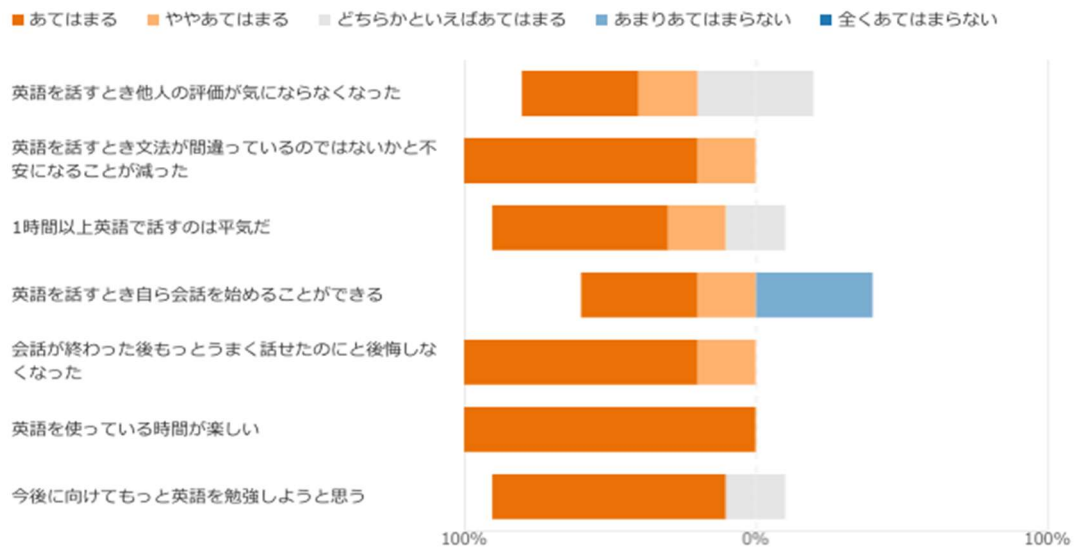
下記表（設問1）は、英語コミュニケーションの能力分野ごとの効果を尋ねた結果であるが、比較的高い効果が見えた分野は、身振り手振りなどの非言語表現方法や人前で話す能力、聞き直す力の三つであった。その反面、会話の理解力は他の能力分野と比べて向上の度合いが低い結果となった。

設問1 5週間にわたるマンツーマン・セッションを経て、以下の各項目にかかるあなたの英語コミュニケーションの能力について、最も当てはまるものを選んでください。



次の設問は、英語でコミュニケーションをとる際の心的態度やモチベーションにかかる分野別評価の結果である。下記表の通り、比較的高い効果がみられたのは、英語コミュニケーションに伴う楽しさ、文法の正誤にかかる不安、後悔、向学心の4分野において、受講者のポジティブな変容がみられた。その反面、会話を自ら始める姿勢と他人の評価を気にする点については、他の側面と比べて低い結果となった。今回は5名のみを受講者であったため、次年度以降継続して取り組み、調査する計画である。

設問2 5週間にわたるマンツーマン・セッションを経て、以下の各項目にかかるあなたの英語使用における態度や気持ちはどのように変わりましたか。今の状態に最も当てはまるものを選んでください。



⑤ 青森大学 SDGs 研究センター第 7 回勉強会 「野外の遊びと学びの接点を探る」に関する参加者アンケート

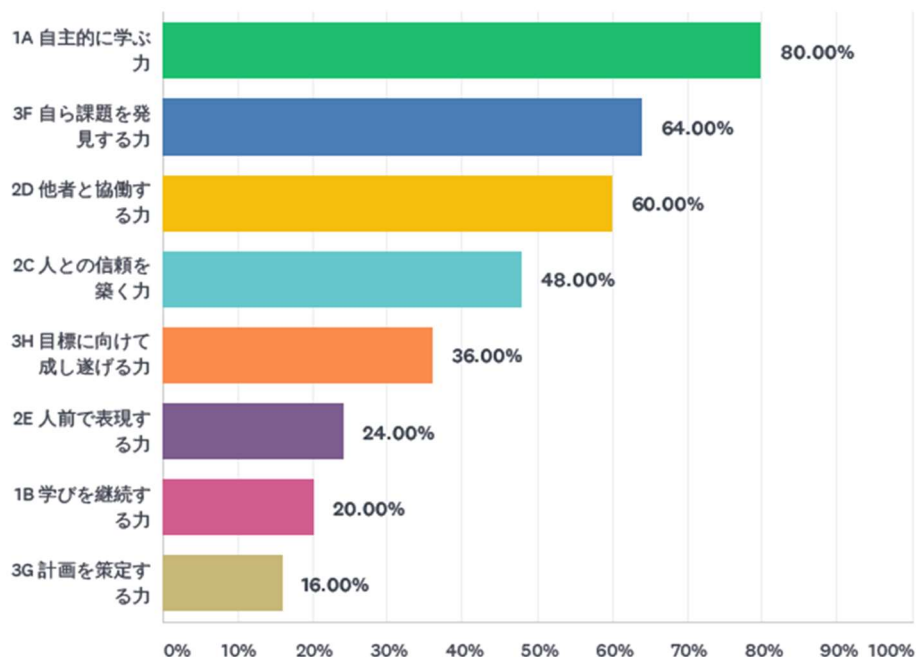
本調査は、正課外教育、特に冬季の野外の遊びにおける教育的効果（非認知能力やキャリア形成など）と今後組織的に機会提供する可能性と諸課題について、教育関係者 27 名を対象に実体験と講話、ディスカッションを大学キャンパスで実施し、それらの内容をもとにそれぞれの立場からの意見や考察、提案を募った。こうした調査を実施した背景には、大学の特色の具体化に向けて、地の利を生かした教育サービスの発掘と向上が不可欠であり、近年大学ですすめるイグルー作成や雪板作成、キャンパス内の焚き火などのアウトドアプログラムは、学生の満足度だけでなく、学習意欲の向上、交友関係、災害対処能力、環境配慮意識の向上、学外の社会人との関係構築など、様々な効果がある点である。さらに、現在のスキーやスノーボードをはじめとするウィンタースポーツは、諸費用や身体的技術、アクセスの観点から、いわば「遠いスポーツ」で、日常生活の延長としてキャンパスや周辺で親しむことのできるアクティビティを紹介することも北国の教育機関として意義深い。

以上のような問題意識のもと、冬季キャンパス内で楽しむことのできる雪のアクティビティ（雪板、スノーハイク、イグルーなど）を、学生らに正課教育、正課外教育として提供する可能性と課題について、体験を交えながら関係教職員で意見交換する機会にした。また、ブルーモリス社の Snow Hike という新しい歩くスキーの紹介、体験も行った。

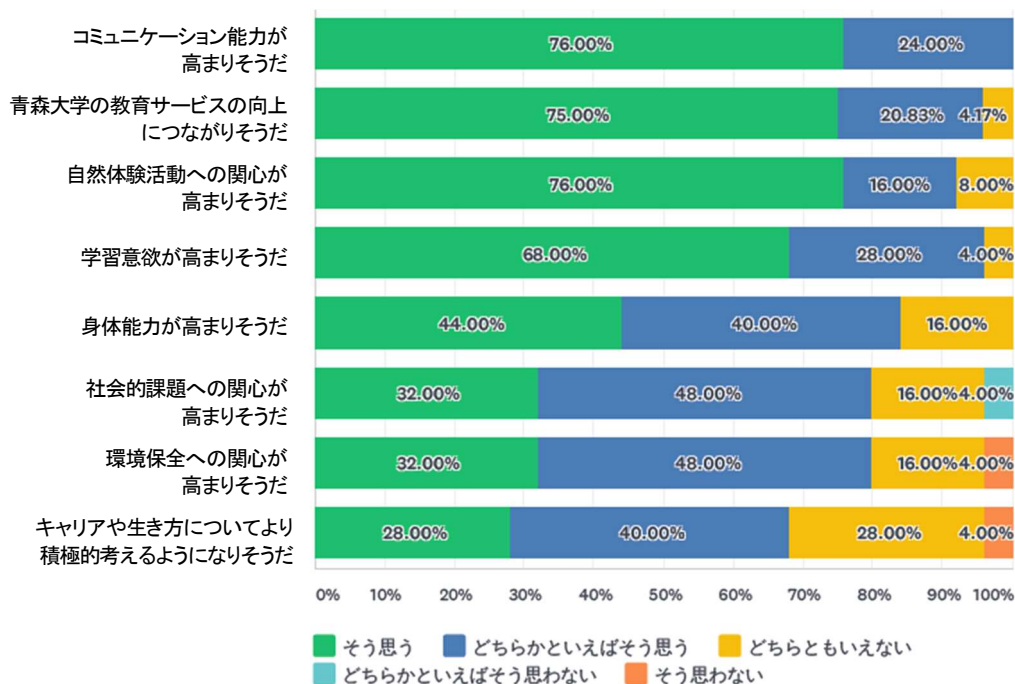
まず、スノーハイクや雪板、イグルーなど、青森の気候風土に沿った野外遊びの教育的効果の有無については、参加者の 88%（22 名）が「ある」を選び、8%（2 名）が「どちらかといえばある」、1 名が「わからない」を選んだ。

次にループリックで挙げられた非認知能力との関係については（設問 3）、下記表の通りで

「自主的に学ぶ力」が最も多く、2番目に「自ら課題を発見する力」、3番目に「他者と協働する力」となった。



次の設問4で、このような野外の遊びの教育的効果について尋ねた結果、全ての回答者が「コミュニケーション能力が高まりそう」を選び、次に「大学の教育サービスの向上につながる」の選択が多かった。



こうした結果に関連して、教育サービスの一環として、これらの野外活動の用具と利

用方法などの情報を学生に提供することの是非について尋ねた結果、92%（23名）が「望ましい」を選び、残りの8%（2名）が「どちらかと言えば望ましい」を選んだ。この結果にかかるコメントをいくつか以下に挙げておく。

「雪」という青森特有の自然のものを様々な道具を使用して体験することにより、学生の視野が広がる可能性があるので、是非授業の一環として取り入れていけるとよいと思う。

仲間と共に楽しみながら、小さな失敗や成功を積み重ねることできるので、人間形成にも役に立つと思った

自然から学ぶことは多い。座学では学びづらい課題解決能力や自身の感情のコントロール、リスクマネジメントなどを学ぶ事が可能になると考えています。また、自然の中でチームで協力して行動するのも様々な学びの要素がある。チームで役割を持って助け合い、課題を達成すると大きな達成感が得られます。

雪との多面的な関わりをもつことで、排除するもの、邪魔なものとしての雪という先入観から自由になれるのではないのでしょうか。

上記設問の他に、野外の遊び道具を提供することに伴う維持管理や安全管理、補償などの課題や、道具のレンタル料の徴収の是非などについて尋ねたが、スペース上の都合もあり、巻末の資料8を参照してほしい。

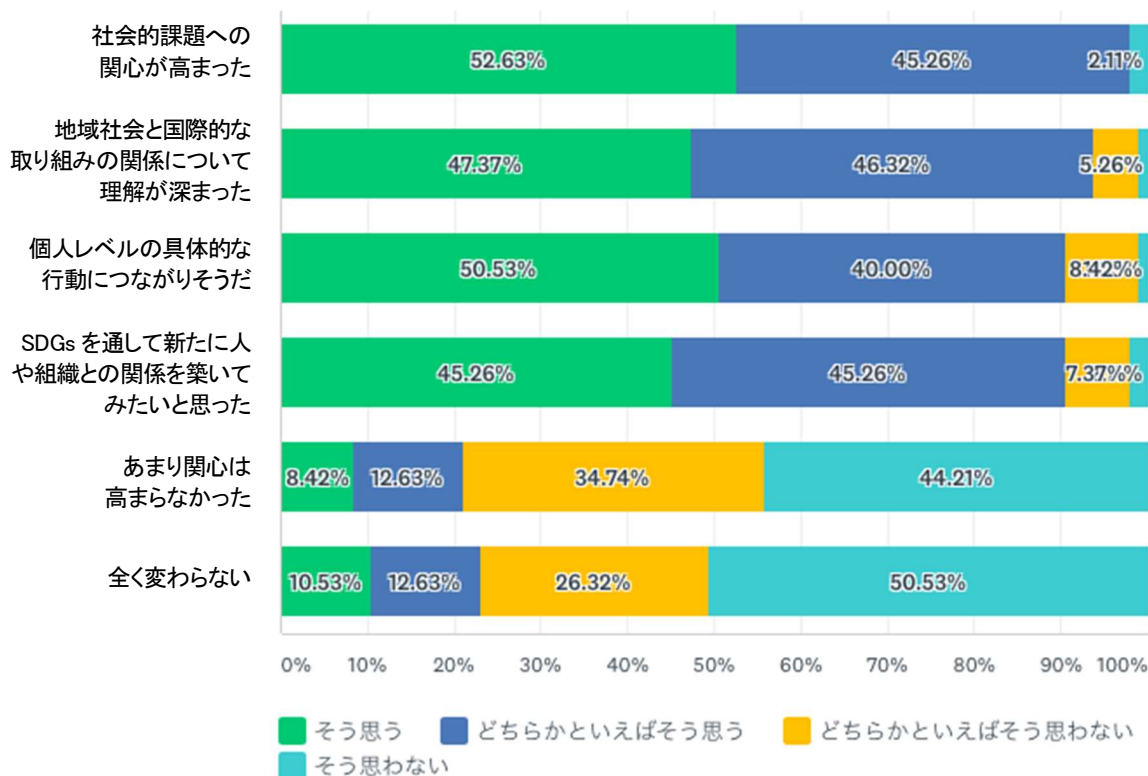
⑥ 2019年度 青森大学 SDGs に関する学生アンケート

青森大学ではSDGsをカリキュラムの中に体系的に組み込んでいないが、2019年度の一般教養科目の環境論に加えて、2020年度は上述の学問のすすめ、グローバリゼーション論など、各担当教員の裁量でSDGsを扱う科目が増えてきている。こうした状況を踏まえて、このアンケートでは、全学対象の一般教養科目「環境論」で、SDGsの扱いの様相、度合い、学生の認知度、効果等を調べた（参加者数96）。設問1で、全般的な認知度を尋ねた結果（複数回答可）、約半数がSDGsの存在を知っており、その中で17のゴールと169のターゲットであることについては、1割強の学生が理解していた。この結果は昨年度の同様の調査とほぼ同じである。

また、下記表の通り、設問4でSDGsの効果について尋ねた結果（次ページのグラフ）、SDGsを知ることで「社会的課題への関心が高まった」や「地域と国際的取り組みの関係について理解が増した」の項目で、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を選んだ割合が合わせて、8割を超えていることから、SDGsを知ることによる教育的効果の高さが示された。また、この結果についても昨年度の同じ調査ならびに上述の青森山田高校の生徒を対象としたSDGsの講義の教育効果と同様であり、SDGsの学習が青少年の社会的な課題への関心を

高める機会になると言える。

設問4「SDGsの効果について、当てはまるものをそれぞれ一つ選んでください。」



また、この同設問の回答傾向について、比較的SDGsの知識が低いと思われる18歳(50名)に限定したところ、類似の傾向が示されたことから、初年度において、SDGsは社会的課題への関心や地域と国際的取り組みの関係の理解を高める上で、有効な学習ツールであると考えられる。

設問7で、講義以外でSDGsについて自ら調べたり、行事に参加した経験の有無を尋ねた結果、「ある」の回答が14%(14名)で、「ない」が75%であった。この結果についても昨年度の同様調査と同じものであり、より詳細な分析が必要であるが、設問4におけるSDGsの普及啓発の効果を踏まえると、学生らの興味や関心を着実に継続、発展させるカリキュラムの体系化(正課外教育や社会参画)が求められていることが示された。このようなカリキュラムの体系化への期待については、昨年度調査結果と同様、設問8の自由記述の中にも多く含まれていた(資料12)

まとめ

今年度調査は、昨年度分と比較して、高校生や教育関係者など参加者層・数も増やして実施した。特に、昨年度の結果を踏まえて青森大学のルーブリック（学習到達度を観点と尺度の二つの側面で示す評価表）を高校生や教育関係者にも運用し、正課外教育やオンラインツールを活用した教育機会における学習発達度の評価にも適応することを確認した。

昨年度調査報告書でも触れたが、ルーブリックの利用については、現在高等学校においても積極的に進められている。なかでも OECD 日本イノベーション教育ネットワークでは、SDGs の達成を明示的に位置づけて、国際協働型プロジェクト学習「地方創生イノベーションスクール」を 2017 年から 8 カ国の海外の高等学校と共同で実践しており、ルーブリックを用いて、知識を活用し、汎用的なスキルにすること、さらに学びに向かう態度等、生徒たちの様々なコンピテンシーの向上を評価している（小村 2017）。今年度調査では、こうした効果を実証的に示すことができた。また、正課外教育における汎用可能性もより確かなものになった。

ただし、前ページの⑥の調査結果で示された通り、SDGs を紹介するだけでなく、卒業・修了に向けた正課教育ならびに正課外教育の仕組みをより緻密にする必要があり、そのためには学内外の関係者との綿密な意思疎通と理解、企画調整が必要である。

5. 考察と提言：地域の高等教育機関の役割と諸課題に関する整理

本章では、2期目を迎えた調査結果を踏まえて、第3期本調査に向けた地域の高等教育機関の役割と諸課題の整理を行った。

a. SDGsの積極的導入

SDGsを大学のカリキュラムに盛り込む重要性について触れたが、大学でのSDGsカリキュラムの体系化は、学習意欲の向上という観点だけでなく、地域の各関係機関と協働プロジェクトを実施するという観点でも、極めて有効なインセンティブである点が昨年度と今年度の調査を通してわかった。しかしながら、前ページでも触れた通り、より緻密な教育機会の提供が求められており、関係教職員、学生、地域のステークホルダーとのより緊密な意思疎通と調整が求められている。

b. 内なる国際化の推進

昨年度は海外協定大学との4泊5日共同ゼミで、今年度はオンライン技術を活用し、計10回にわたるマンツーマン語学レッスンを実施した。その両方において、高い学習効果が認められたため、次年度はその両方の実現を見据えつつ、特に英語教育においては、より多くの学生が受講できるようにする。また、今回のマンツーマン語学教育の実績を踏まえて、青森大学で現在進めている日本語教員養成プログラムを受講している学生らが、日本語を学ぶ学生らを対象としたマンツーマン語学レッスンの実施にも着手する方向である。

c. 課外活動および学外活動参画の支援スキーム

SDGsの多分野横断系の指向と地域社会の課題解決に向けた幅広い参画を踏まえると、高等教育機関の正課活動だけでなく、正課外活動における学習および社会参画の機会提供は不可欠といえ、特に教育関係者を対象とした第7回勉強会の「体験→講話・ディスカッション→アンケート調査」では、ループリックを用いた調査では、コミュニケーション能力や大学の教育サービスの向上、学習意欲の向上、身体能力の向上、社会的課題やキャリアへの関心の向上など、多面的な効果が示唆された。カリキュラムとバランスのとれた質の高い教育機会を設けるために、大学側はキャリア教育との連動する形で、計画的に正課外活動の導入を図ることが望ましい。

d. ループリックのさらなる運用

最後に、今年度の調査で、ループリック（学習到達度を観点と尺度の二つの側面で示す評価表）の活用を多様化させた。まず、すべての1年生を対象とする初年度科目でSDGsの紹介とともに活用し、学修計画書の作成だけでなく、自己分析のツールとして活用し、受講生の学習意欲の向上に資することがわかった（資料2）。2つ目は、正課外教育の効果にかかる評価にも役立つ点である。冬の野外活動の教育効果の整理を目的に、教育関係者を対象に実施した第7回勉強会のアンケートの結果においても、正課外教育として野外活動の機会提供が、ループリックで示される非認知能力とコミュニケーション力の向上に資することが

示された（資料 8）。さらに、高校 2 年生に SDGs を紹介する際にもルーブリックを活用し、SDGs に関わることが個々の社会的課題への関心と非認知能力の向上につながることへの理解にもつながった（資料 5）。3 期目の調査においては高大連携や正課外教育の機会提供、教育の国際化の取り組みにおけるルーブリックの運用を継続発展させつつ、特に系列校である青森山田高等学校のルーブリックと連動させること自体が、高大連携の充実化につながるものと考えられるため、関係者との意思疎通と調整を図る計画である。

6. 参考文献

- 和泉元千春, & 岩坂泰子. (2015). 教員養成大学における留学生と日本人学生の協働を通じた異文化間能力の育成. 次世代教員養成センター研究紀要, 1, 135-143.
- 太田浩. (2011). 大学国際化の動向及び日本の現状と課題: 東アジアとの比較から. メディア教育研究, 8(1), S1-S12.
- 小村俊平. (2017). OECD Education2030 と地方創生イノベーションスクールの実践. 工学教育, 65(4), 4_22-4_28.
- 児玉真樹子. (2017). 大学生用キャリアレジリエンス測定尺度の開発. 学習開発学研究, (10), 15-23.
- 佐藤勢紀子, 末松和子, 桐原健真, 曾根原理, 上原聡, 福島悦子, & 押谷祐子. (2011). 共通教育課程における「国際共修ゼミ」の開設—留学生クラスとの合同による多文化理解教育の試み—. 東北大学高等教育開発推進センター紀要, (6), 143-156.
- 佐藤龍子. (2007). 学生の自発性を促すキャリア教育と正課外活動. 京都大学高等教育研究, (13) 25-34.
- 自治体 SDGs 推進評価・調査検討会 (2019) 地方創生 SDGs ローカル指標リスト
www.kantei.go.jp/jp/singi/tiiki/kankyo/kaigi/h30lwg2/sdgs_shihyou2_shiryou1.pdf
- 中央教育審議会 (2019) 2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン (答申). 文部科学省
www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2018/12/20/1411360_1_1_1.pdf
- 中央教育審議会 (2008) 学士課程教育の構築に向けて (答申). 文部科学省
www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm
- 恒吉僚子. (2005). 国際化と教育「内なる国際化の視点と日本の教育」『季刊家計経済研究』, (67).
- 中島祥子(2014). 多文化間プロジェクト型協働学習における留学生の学び. 鹿児島大学教育学部研究紀要 人文・社会科学編, 65, 133-148.
- 中山芳一, & 吉岡一志. (2015). キャリア教育としての正課外活動支援に関する実践 (2) 学生企画チームにおける能力形成の成果に焦点を当てて. 大学教育研究紀要= *Bulletin of higher education, Okayama University*. (11) 151-162.
- 水松巳奈. (2018). 「内なる国際化」によるグローバル市民育成に関する事例研究. 東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要= (4), 135-147.
- 水松巳奈. (2017). プロジェクト型「国際共修」が学生の自己効力に与える影響—Kolb の経験学習モデルを用いてデザインした授業に関する一考察—. 東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要= *Bulletin of the Institute for Excellence in Higher Education, Tohoku University*, (3), 115-129.

- 渡部留美, & 島崎薫. (2019). プレ国際共修授業における国内学生の意識変容と学び—基礎ゼミでの試み—. 東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要 (5), 225-236.
- 日本学術会議 環境学委員会 (2017) 持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けて日本の学術界が果たすべき役割 報告
- Burford, G., Tamas, P., & Harder, M. K. (2016). Can we improve indicator design for complex sustainable development goals? A comparison of a values-based and conventional approach. *Sustainability*, 8(9), 861
- Dryzek, J. S. (2013). *The politics of the earth: Environmental discourses*. Oxford university press.
- Marron, R. K., Naughton, D., & Oaks, S. (2019). Monitoring Progress Towards SDG Target 4.7 in Europe- Proposed Framework and Tools.
- Myerson, G., & Rydin, Y. (2014). *The language of environment: A new rhetoric*. Routledge.
- Tan, D. T., Siri, J. G., Gong, Y., Ong, B., Lim, S. C., MacGillivray, B. H., & Marsden, T. (2019). Systems approaches for localising the SDGs- co-production of place-based case studies. *Globalization and Health*, 15(1), 85.

資料編

1. 学問のすすめ スライド
2. 学修計画書アンケート結果
3. 青森山田高校 SDGs 共同教育プログラム中間アンケート結果
4. 青森県黒石商業高校 SDGs ワークシート
5. 青森県黒石商業高校 SDGs アンケート課題
6. グローバル英語 学習効果アンケート
7. 卒業研究・論文 SDGs 研究センター賞 申請書と評価シート
8. 第7回勉強会アンケート結果
9. 高校生科学研究コンテスト
10. 大島からはじめよう 発表スライド
11. 教育の質向上に関する提案書

1. 学問のすすめ スライド

学問のすすめ
2020年5月15日

青森大学の教育プログラム+
SDG'sについて

社会学部 藤 公晴
SDGs研究センター センター長、学長補佐

1

大学(高等教育機関)で学ぶとは

- 各学部で専門的知識や技術の習得
- 複眼的捉え方と考え方、関わる力の習得
 - 知性や能力を育む 内省、他者への敬意
 - 鳥の目と虫の目（一旦学ぶと、災害でも損失しない資産）
 - 社会の課題解決を目指す
- 大きな投資（時間とお金）をする人たちの群
 - 400~1000万円程の自転車の購入（乗りこなす好奇心や情熱、向上心はあるか？）
 - 自分の意思で勉強するところ
 - ただし、唯一絶対ではない
 - 寺山修司、スティーブ・ジョブズ、マークザッカーバーグ、ジャック・ドーシー、ナンシー関、河瀬直美
 - 「**意気と熱(まこと)に**」が不可欠

2

大学の勉強、頭の使い方 複眼的思考と専門的知識の習得に向けて

- 覚える、記憶する？
- 似たものを見つける、関連づける
- 因果関係を考える（例、問題の発生原因、今後の展開）
- 時系列で考える（例、薬の歴史、薬の法律の歴史）
- 他者の話に耳を傾ける（例、様々な視点、客観性）
- 望ましい社会像や社会の課題解決を視野に入れながら、
専門分野の知識と技能の習得を目指す
→ 「必携 学びの道しるべ」を読むこと

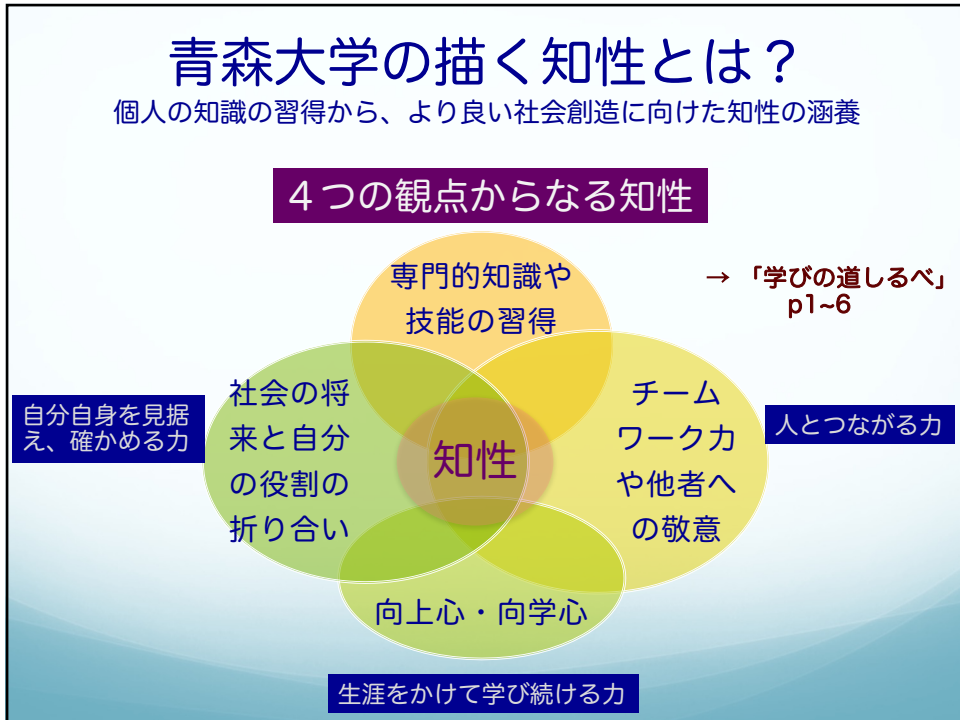
3

青森大学

「地域とともに生きる大学」 & 「学生中心の大学」を目指して

1. 4つの学部、副専攻、他学部履修制度
2. プログラム
 - 教員養成、各種資格、公務員講座、日本語教員養成プログラム、交換留学など
3. 教育の質の向上
 - 知識の習得→技能や態度を含む知性の向上
 - 地域社会の課題解決を見据えた学習機会
 - 「何を教えたか」から「何を学び、身に付けることができたのか」という観点の学習機会
 - (学生の) 学習意欲の目標の掌握と共有
 - どのような成熟を目指すか？

4



5

卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

→ 「学びの道しるべ」 p7~9

- 1. 生涯をかけて学び続ける力 (向学心)**

社会の発展や自身の成長に応じて、広い関心と知的好奇心を持って、新たな価値創造や学習経験等の必要性に気づき、専門分野に限定せずに広い視野で、他者と協働しながら自らの学修を主体的・継続的に進めることができる。
- 2. 人とつながる力 (チームワーク力や他者への敬意)**

将来の地域社会を担う主体となることの自覚を持って、自分の考えを効果的に表現するとともに、他者に共感し、敬意を払って対話でき、社会の人々と新たな信頼関係を築きながら、協働することができる。
- 3. 自分自身を見据え、確かめる力 (社会の将来と自分の役割の折り合い)**

将来を展望しつつ、自らの学修活動を計画し、その実践を多面的に振り返り、社会において自ら果たすべき責任を自覚し、自身の能力・資質の成長を確認するとともに、新たな課題を発見し、改善策を見出す活動ができる。
- 4. 専門的知識・技能を活用する力**

各学位プログラムの基礎と応用に関する知識・技能を修得し、それらを活用して、課題解決等の実践的活動を計画し、倫理的規範を守って行動することができる。

6

学修達成度評価ルーブリック (学位授与の可否の判定の指針、各シラバスに記載)

いつの観点	11の能力	達成水準 4段階 (左端の「0」を除き、1-4)					
		1A0	1A1	1A2	1A3	1A4	
1. 社会的規範や自身の成長に応じて、広い視点と知識の中心を持って、新たな価値観や学修経験等の必要性に気づき、専門的知識や技能を広い視野で、他者と協働しながらの学習を主体的・積極的に進められることができる。	1A 自主的に学ぶ力	1A0 規範が定まらなければ、情報を収集し、文章や図表を読み取ることができない。	1A1 規範が定まらなければ、情報を収集し、文章や図表を読み取ることができない。	1A2 適切な方法で情報を収集し、目的に応じて整理し、又は整理することができる。	1A3 複数の情報を基に、課題解決に向けて、目的の作成・判断や調整を行うことができる。	1A4 複数の情報を整理して、問題の本質を見え、現時的な課題解決を図ることができる。	
	1B 学習を継続する力	1B0 指図がなければ、学習計画を提出し、継続することができない。	1B1 指図されたことに沿って考えを広げて、学習計画を提出し、継続することができる。	1B2 指図がなくても、自発的に学習計画を提出し、継続することができる。	1B3 目標を立てて、その進捗に向けて、学習計画を提出し、継続することができる。	1B4 目標に応じて、進め方や学習方法を振り返り、自らに合った方法で学習計画を修正し、継続することができる。	
2. 得た知識や技能を他者と共有し、新たな価値を生み出すことへの自覚を持って、自分の考えを積極的に表現するとともに、他者と対話し、敬意を払って傾聴でき、社会の人々と新たな価値創造を促すことができる。	2C 信頼を築く力	2C0 自分の感情をうまく表現できず、相手の立場に立った行動をすることができない。	2C1 相手の立場や気持ちを理解しようとする心がけ、穏やかな態度で接することができる。	2C2 初対面の相手でも自ら話しかけるなど、信頼関係を築こうとすることができる。	2C3 緊張する場面でも、自らの心を落ち着かせて、相手を知ることができる。	2C4 目的に応じて、自分の考えや気持ちを率直に表現し、相手の信頼を得ることができる。	
	2D 傾聴する力	2D0 他の人と一緒に聞く人になり、聞き取りすることがうまくできない。	2D1 チームの中で自分の役割を理解し、自分の考えを述べることができる。	2D2 チームの目標に向けて、他のメンバーと協力して行動することができる。	2D3 チームの状況を確認し、チームのメンバーに役割や働きかけを行うことができる。	2D4 相手の立場を尊重し、チームのメンバーに礼儀をもち、目標達成に向けて行動することができる。	
	2E 表現する力	2E0 伝えたいことをまとめ、表現することができない。	2E1 自分独自の方法で、伝えたいことをまとめ、表現することができる。	2E2 書く・話す・話し合いのマナーやルールに従い、伝えたいことを表現することができる。	2E3 相手の状況に合わせて、伝える内容や方法を調整して表現することができる。	2E4 相手の立場や状況に合わせて適切な表現を用いて、分かりやすく表現することができる。	
3. 得た知識や技能を、自分の学修経験や、その発展を多岐に渡り、社会において自ら果たすべき責任や成長を期するとともに、新たな価値を生み出し、改善を促すことができる。	3F 問題を発見する力	3F0 注視にこだわら、情報を整理できず、気づきを得ることができない。	3F1 集めた情報を整理し、整理しようとする意識がある。	3F2 情報を集め、一つの領域を立てることができる。	3F3 集めた情報を組み合わせ、複数の領域を立てることができる。	3F4 複数の領域の適切な組み合わせ、課題の解決につながる。	
	3G 計画を決定する力	3G0 計画を立てて実行することができない。	3G1 目標と計画を自分自身で立て、取り進めることができる。	3G2 条件が与えられれば、成果や発生する問題を予測することができる。	3G3 過去の経験に基づいて、新たな計画を立てることができる。	3G4 課題の解決を予測するなど、複数の方法で計画を立てることができる。	
	3H 目標に向けて成長し、進める力	3H0 やるべきことがあっても、取り進めることができない。	3H1 自分なりに工夫しながら、前向きに取り組むことができる。	3H2 目標を達成して、初めてのことにも楽しんで取り組むことができる。	3H3 目標の達成でも、目標を見失わず、勉強を怠らなく進めることができる。	3H4 目標達成のため適切な知識を、失敗から学ぶことで、行動を修正することができる。	
4. 各学位プログラムの基盤と応用に関する知識・技能を修得し、それらを活用して、課題解決や学修経験を促すことができる。	4I 基礎的知識・技能的理解 (Idea)	4I0 応用知識や技能の重要性が、自分からわからない。	4I1 基礎的な知識・技能が一連で分かる。	4I2 基礎的な知識・技能の重要性を認識し、応用することができる。	4I3 基礎的な知識・技能を正確に説明し又は正しく表現することができる。	4I4 基礎的な知識・技能について、新たな応用や発展を促すことができる。	
	4J 知識・技能の併用 (Connections)	4J0 知識・技能の併用に必要の情報を提供することができない。	4J1 知識・技能の併用の必要の情報を提供することができる。	4J2 知識・技能の併用を正しく展開することができる。	4J3 異なる知識・技能とにより、解決策を提示することができる。	4J4 学内の知識や技能・経験に基づいて、新たな問題や課題を立てることができる。	
	4K 知識・技能の活用 (Extensions)	4K0 手帳や物事の整理がなくても、知識・技能を活用することができない。	4K1 手帳や物事の整理を守って知識・技能を活用することができる。	4K2 手帳や物事の整理に於いてだけでなく、現状の状況を踏まえ、実行可能な代替案を考えることができる。	4K3 プロセス全体を整理して、成果を予測しながら、目標達成に向けて行動することができる。	4K4 進捗の振り返り、改善を加えながら目標達成に向けて行動することができる。	

7

ルーブリック項目例 2. 人とつながる力 (チームワーク力)

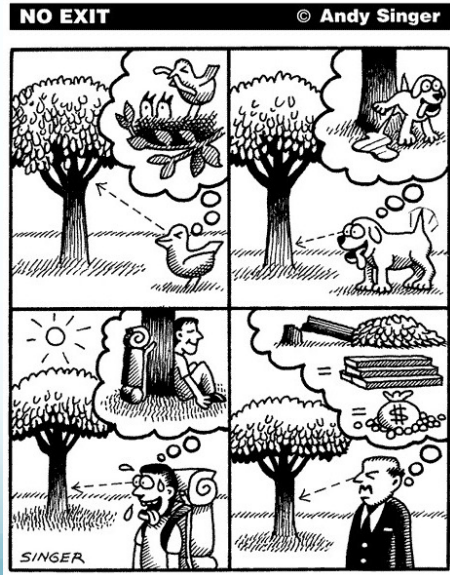
2C	2C 0	2C 1	2C 2	2C 3	2C 4
信頼を築く力	自分の感情をうまく制御できず、相手の立場に立った行動をすることができない。	相手の立場や気持ちを理解しようとする心がけ、穏やかな態度で接することができる。	初対面の相手でも自ら話しかけるなど、信頼関係を築こうとすることができる。	緊張する場面でも、自らの心を落ち着かせて、相手を気遣うことができる。	目的に応じて、自分の考えや気持ちを率直に表現し、相手の信頼を得ることができる。

- 今はどのレベルにあるか自己分析してみましょう？
- また、今年あるいは4年後、どのレベルを目指したいのかそれぞれ考えてみましょう。

8

複眼的捉え方と思考術

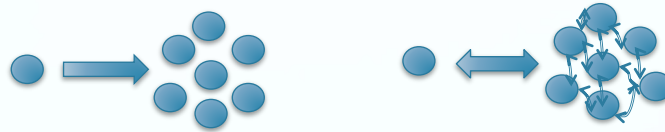
- 捉え方の例
 - ローカルとグローバル
 - 自分と他者、自分と社会
 - 異なる立場を想定する
 - 自己の成長と知識の習得
 - 出来事の関連性
 - 是非や善悪の側面(賛成と反対)
 - 必需品と欲しいもの
etc.



9

学びの動向 複眼的思考の習得を促す仕組み

1. 一歩通行・個別 → 双方向、多方向型



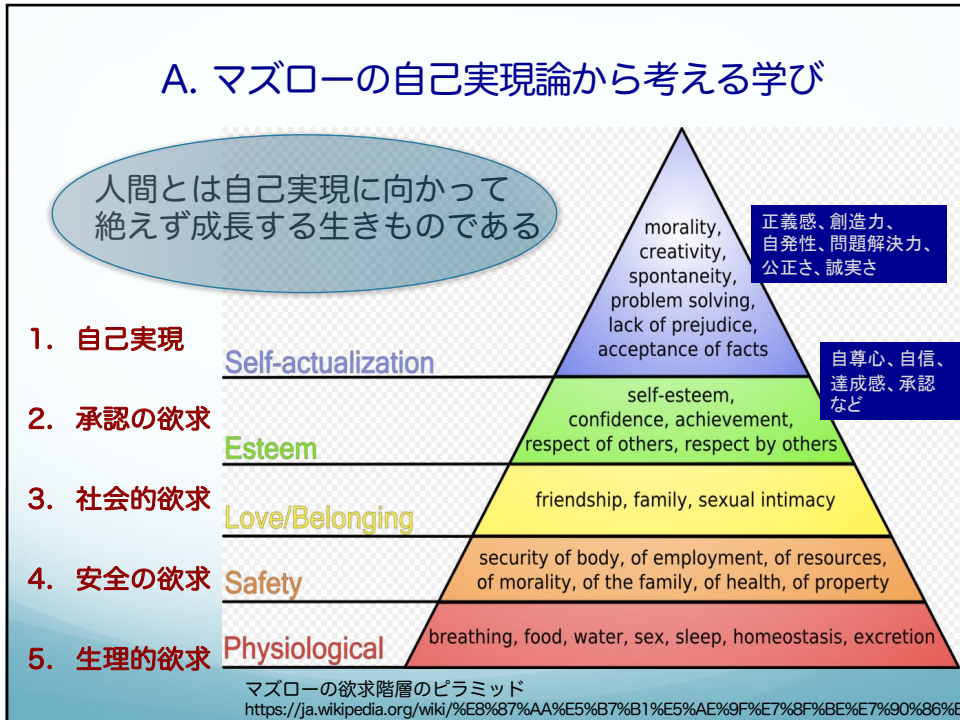
1. 個々の学習内容について、グループでの共有や振り返りを通して、連結化を図る知識創造のアプローチ



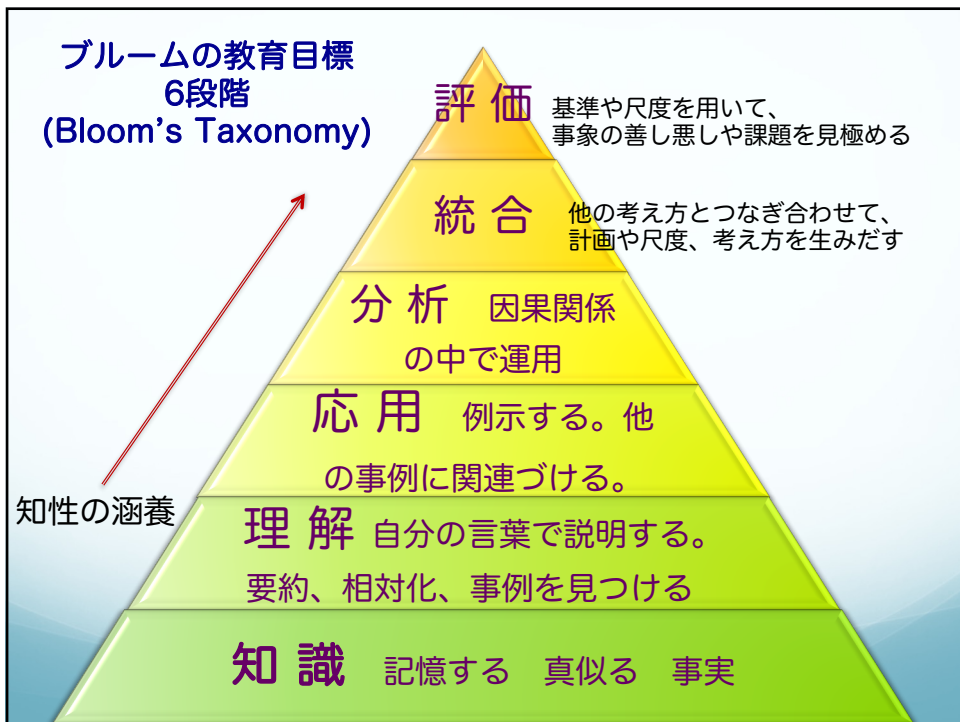
3人寄らば
文殊の知恵

1. 地域の具体的な課題の解決に結びつける → 地域の関係者と交流
2. 個人の変容と地域の変容を結びつける (Transformative learning)

10

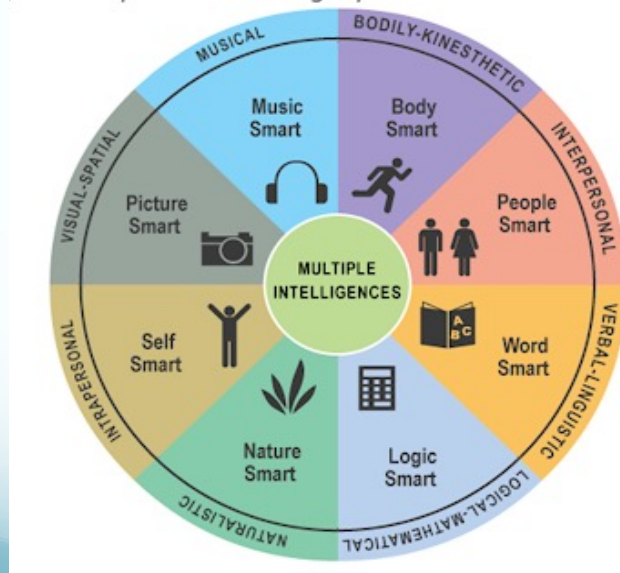


11



12

多様な学び、多様な賢さ



Howard Gardner (1983) Frames of Mind: The Theory of Multiple Intelligences.

13

複眼的思考の例

人類の意識の変化を誘ってきた環境問題

地球の出 (Earthrise)



「成長の限界」と
相互関係を自覚して
ほぼ半世紀・・・

14

14

複眼的捉え方の例 **環境思想の二極**

人間中心 生態系中心

自然環境や生き物の固有の価値を認めない
経済成長を維持、現在の仕組みや制度の修正

自然環境や生き物の固有の価値を認める
経済成長を支える仕組みや価値観を根本的に変える

15

15

複眼的捉え方の例 **持続可能な開発**
Sustainable Development

1. 国連 環境と開発に関する世界委員会（ブルントランド委員会）が1987年に提唱 成長の限界
2. 将来の豊かさを損なわない現在の成長環境と社会、経済の不可分性とバランス
 - 多くの利害関係者を想定
 - 参加やパートナーシップの重要性
 - 持続可能性を客観的に捉える指標の開発
3. 国連サミットや国際協力などのキーワード
 - 持続可能な開発に関する世界首脳会議(2002)
 - 国連持続可能な開発のための教育の10年（2005-2014）
 - 持続可能な開発のための教育（SDGsの普及啓発、学習指導要領）
 - SDGs（持続可能な開発ゴール）

16

16

SDGsとは 持続可能な開発ゴール





RIO+20
United Nations
Conference on
Sustainable
Development

2012年6月
「国連持続可能な開発会議リオ+20」で合意され、2015年の国連総会で採択。

- 持続可能な開発のための2030アジェンダの中核
- 2030年に向けた17の達成目標、169のターゲット、232の指標
- 2000-2014の国連ミレニアム開発目標(MDGs)の後継
- 日本では「まち・ひと・しごと創生総合戦略」と連動させて推進。
- 青森では青森県基本計画「選ばれる青森」への挑戦(2019~2023)と関連づけている。

17

<p>(①貧困)</p> <p>1 貧困をなくそう</p> 	<p>(②飢餓)</p> <p>2 飢餓をゼロに</p> 	<p>(③保健)</p> <p>3 すべての人に健康と福祉を</p> 	<p>(④教育)</p> <p>4 質の高い教育をみんなに</p> 	<p>(⑤ジェンダー)</p> <p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p> 	<p>(⑥水・衛生)</p> <p>6 安全な水とトイレを世界中に</p> 
<p>(⑦エネルギー)</p> <p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p> 	<p>(⑧成長・雇用)</p> <p>8 働きがいも経済成長も</p> 	<p>(⑨イノベーション)</p> <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p> 	<p>(⑩不平等)</p> <p>10 人や国の不平等をなくそう</p> 	<p>(⑪都市)</p> <p>11 住み続けられるまちづくりを</p> 	<p>(⑫生産・消費)</p> <p>12 つくる責任 つかう責任</p> 
<p>(⑬気候変動)</p> <p>13 気候変動に具体的な対策を</p> 	<p>(⑭海洋資源)</p> <p>14 海の豊かさを守ろう</p> 	<p>(⑮陸上資源)</p> <p>15 陸の豊かさも守ろう</p> 	<p>(⑯平和)</p> <p>16 平和と公正をすべての人に</p> 	<p>(⑰実施手段)</p> <p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p> 	<p>SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS</p> <p>2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です</p>

ロゴ：国連広報センター作成

日本自身の課題に関係が深い目標の例 ⇒ 実施には、多くの国内省庁が関係。

- 成長・雇用
- クリーンエネルギー
- イノベーション
- 循環型社会(3R: Reduce Reuse Recycle等)
- 温暖化対策
- 生物多様性の保全
- 女性の活躍
- 児童虐待の撲滅
- 国際協力
- 等

18

複眼的捉え方の例

SDGsと消費行動の関係

4 質の高い教育を
みんなに



すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する。

4.7 2030年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得できるようにする。

12 つくる責任
つかう責任



持続可能な生産消費形態を確保する。

12.5 2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。

12.8 2030年までに、人々があらゆる場所において、持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようになる。

13 気候変動に
具体的な対策を



気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。

13.3 気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する。

8 働きがいも
経済成長も



や

9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



にもつながるのでは？

地産地消の推進は

19

エレベーター・ツール

1. 複数の課題を同時に学ぶ（複眼的思考）
2. 解決に向けた目標達成や指標を学ぶ
3. 国際社会, 国, 自治体, 企業, 大学等でも運用
 1. 類似/関連する国内外の取り組みを学ぶ
 2. 連帯感の醸成につながる
4. 解決、改善、達成のための行動を促す
5. 未来のあり方の自己決定権

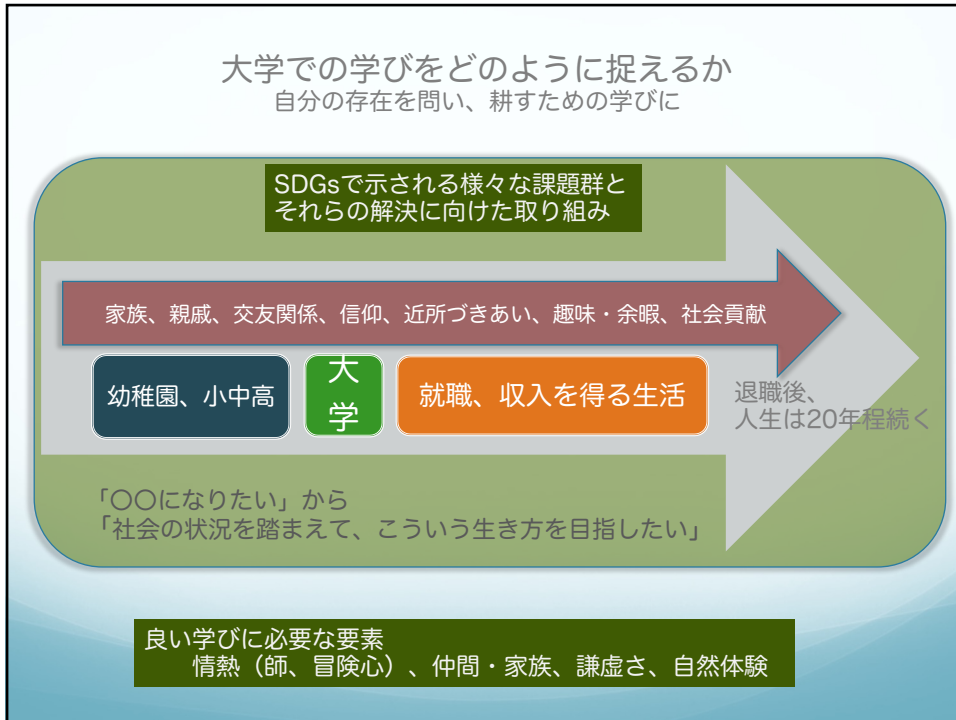
TARGET 4-7



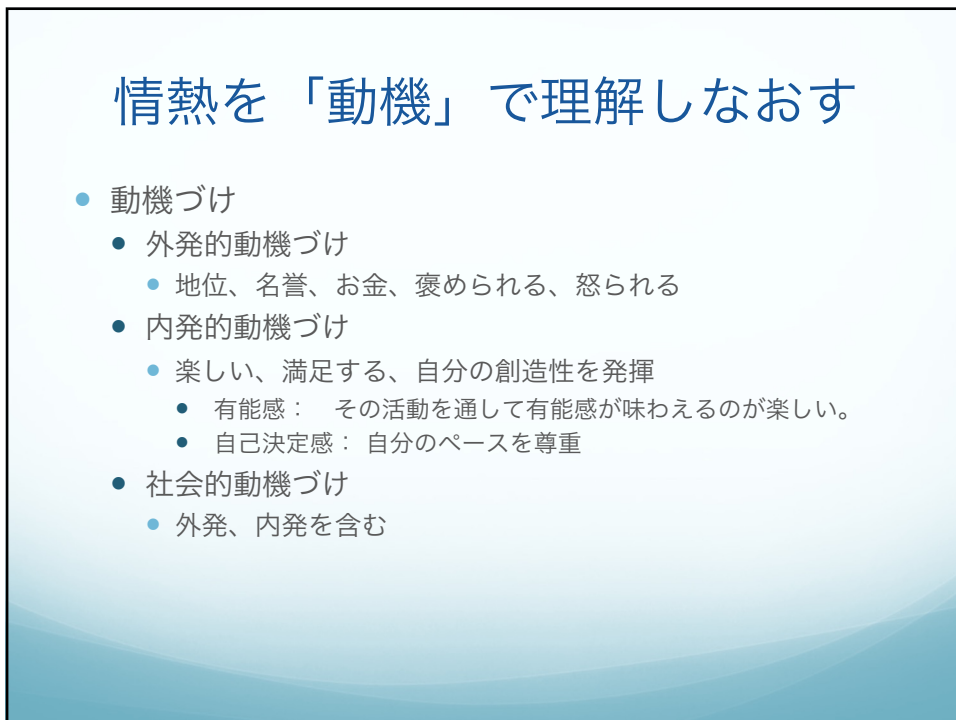
EDUCATION FOR
SUSTAINABLE
DEVELOPMENT AND
GLOBAL CITIZENSHIP



20



21



22

自己分析と学修計画に関するアンケート課題

提出期限：6月12日（金）12:00

本課題の完成には、以下の準備作業にかかる約80分と入力作業20分、計100分程度を必要とします。

- 1) 青森大学学修達成度評価(ルーブリック)を参照しながら自己分析・・・約15分
- 2) 尊敬する人物の選定とその人物の生い立ちやエピソードを調べる・・・約45分
- 3) それぞれの学部の専門科目群（教育課程表とシラバスの確認）・・・約20分

本課題はそれぞれの青森大学での4~6年間の学修を輪郭づける重要な課題のため、自己観察（復習）をじっくり行いながら、丁寧な回答を心がけてください。

設問の中には、各自の弱みに関する質問が含まれていますが、そうした内容は成績評価に影響するものでなく、むしろ自由記述欄の設問に対する回答の自己観察・分析の度合いを重視します。

23

課題のリンク

<https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=qWO15txntkauWBaZ2lg18vGmhrHXAf5Ds8IDRysK-1pUME44UU5UVFozWEpWWERHR09WNkYxNUM1MC4u>



24

2. 学修計画書アンケート結果



2020年度 自己分析と学修計画

277

応答

112:21

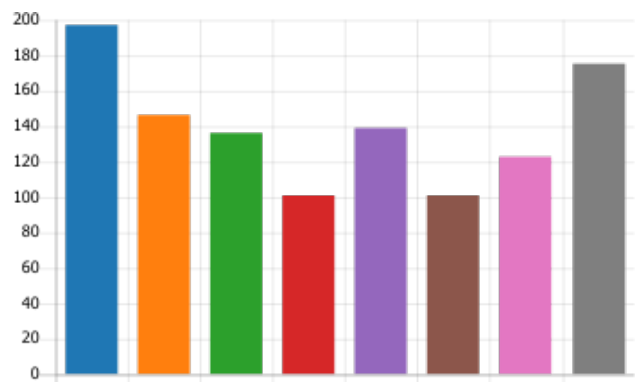
完了するのにかった平均時間

アクティブ

状態

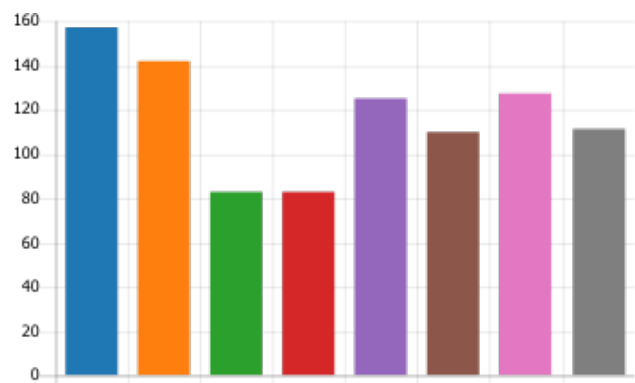
1. 青森大学のルーブリックについては本日の講義で触れましたが、個々の学習意欲やコミュニケーション力など知性にかかる能力を「生涯をかけて学び続ける力」と「人とつながる力」、「自分自身を見据え、確かめる力」の三つの観点に分けています。その三つの力の観点にかかる下記8つの能力について、それぞれが伸ばしたい能力を全て選んでください。

● 自主的に学ぶ力	197
● 学修を継続する力	146
● 信頼を築く力	136
● 協働する力	101
● 表現する力	139
● 課題を発見する力	101
● 計画を策定する力	123
● 目標に向けて成し遂げる力	175



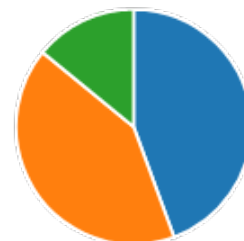
2. これら8つの能力で、それぞれの弱みと思われる能力について、ルーブリック表の達成水準を参考にしながら全て選んでみてください（上記選択と重複しても構いません）。

● 自主的に学ぶ力	157
● 学修を継続する力	142
● 信頼を築く力	83
● 協働する力	83
● 表現する力	125
● 課題を発見する力	110
● 計画を策定する力	127
● 目標に向けて成し遂げる力	111



3. ルーブリック表の観点2の「人とつながる力」は、皆さんにとっては強みでしょうか？それとも弱みに当てはまるでしょうか？ ルーブリック表の該当箇所を参考にしながら、各自に当てはまるものを一つ選んでください。

● どちらかといえば自分の強みだ	123
● どちらかといえば自分の弱みだ	115
● わからない	39



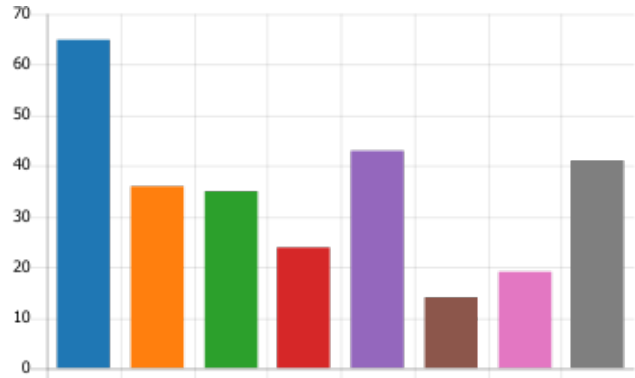
4. ルーブリック表の観点の2「人とつながる力」の2D「協働する力」について、各自が今年度達成させたいレベルをあえて選ぶのであればどれに当てはまるでしょうか？ 下記の2D1から2D4の中で適当なものを一つ選んでください。

- 2D1 チームの中で自分の役... 56
- 2D2 チームの目標に向けて... 87
- 2D3 チームの状況を観察し... 87
- 2D4 個々の多様性を活かし... 47



5. 上記設問1で選んだ能力の中で、この1年間で特に向上させたい力を選ぶのであれば、以下のどれでしょうか？ルーブリック表の達成水準を再度参考にしながら1つ選んでください。

- 自主的に学ぶ力 65
- 学修を継続する力 36
- 信頼を築く力 35
- 協働する力 24
- 表現する力 43
- 課題を発見する力 14
- 計画を策定する力 19
- 目標に向けて成し遂げる力 41



6. 上記設問5で選んだ、この1年で向上させたい能力について、達成水準の4段階を明示的に踏まえながら、各自の現状レベルと能力向上のレベルについて適宜自己分析してみてください。

277

応答

最新の回答

"現状は中々自分の考えを伝えられないので、自分の意見を発信出来る場では積極的に...
 "私は自主的に学ぼうとする意識が低いと思っているのでこまめに勉強をする癖をつけ...
 "これまで目標を作って達成するという事をしてこなかったのではないといけないと..."

7. 各自の専門的知識・技能を活用する力を育む上で、現時点で強い関心を抱く「専門科目」を一つ選んで、シラバスに記載されているルーブリックを参考にしながら、その理由や展望を以下の欄に記入してください。

277

応答

最新の回答

"衛生薬学人体に必要な栄養や、その栄養を摂りすぎる事による過剰症や欠乏症などを...
 "よくわからなかった"
 "英語に興味を持っている。理由は自分がひとつでも他の言語を話すことが出来たらこ..."

8. 君が尊敬する人物を一人選び（誰でも構いません）、以下の欄にその人物の名前と理由（人物紹介）を述べてください。

277

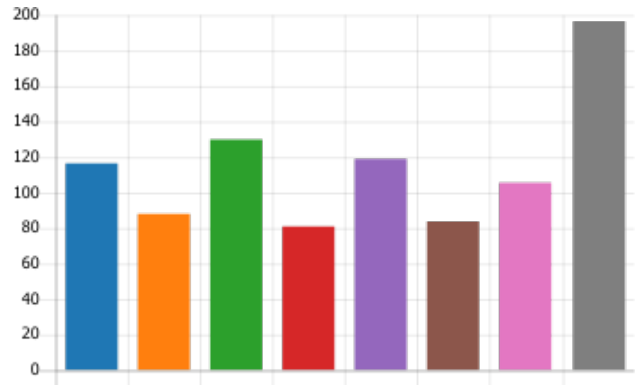
応答

最新の回答

"伊能忠敬小さい頃からの夢を諦めず、歳を取ってからでも目標を諦めず地道に勉強を積...
 "ドナルド・トランプアメリカの前大統領過激な面が多いが、自分の信念を貫いて男ら...
 "卑弥呼。女王様に憧れます"

9. その人物から見習いたい性質や能力と関係している「力」を、下記のルーブリックの8の能力から全て選んでください。

● 自主的に学ぶ力	116
● 学修を継続する力	88
● 信頼を築く力	130
● 協働する力	81
● 表現する力	119
● 課題を発見する力	84
● 計画を策定する力	105
● 目標に向けて成し遂げる力	196



10. 上記設問で選んだ理由や内容、エピソードなどを以下の欄に補足してください。

最新の回答

277

応答

"50歳を過ぎてから、歳下である測量の師匠に教えを乞う点や、若い頃からずっと勉強...

"長年敵視していた北朝鮮との会談を実現させた行動力"

"これまでやりたい人ややれる人がやればよいという考えだったのでみんなで協力して..."

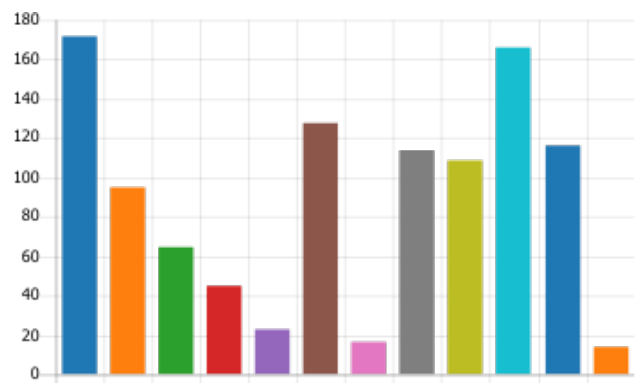
11. 上記9で選んだ、尊敬する人物から見習いたい性質や能力は、貴方の強みでしょうか

● はい	155
● いいえ	122



12. 今回の課題を通して見えてきた自分の強みを伸ばしたり、弱みを克服するために、在学中新たに取り組んでみたいことを以下の選択肢の中から全て選んでください。

● 予習復習を徹底する	172
● クラブ・サークルなどの課外...	95
● 地域社会のボランティア活動...	65
● インターンシップに参加する	45
● 交換留学や海外研修に参加する	23
● 学部や学年にこだわらず交友...	128
● 学外のビジネスコンテストな...	16
● 高い成績を維持するよう努力...	114
● 様々な資格をとる	109
● 趣味やスキルを向上させる	166
● 教職員とのコミュニケーション...	116
● その他	14



13. 上記設問で選んだ中で、特に今年度取り組みたいことを一つ選び、自己分析を踏まえながら、その具体的な内容を以下の欄に補足してください。

277

応答

最新の回答

"予習復習を徹底するその日のうちに授業内容をまとめ直し、休日に見返し問題を解..."

"自分のスキルアップを目指す"

"他の大学やバイト先でも仲のいい人を作りたい"

14. 上記設問12,13で選択したことを確実にするため、教職員が提供すべき支援や心得ておくことなどがあれば、以下の欄に自由に述べてください。

276

応答

最新の回答

"自分から質問をしに行けるようにする。"

"なし"

"特にありません"

15. 今回のループリックを用いた課題は、それぞれの自己分析を進める上で役に立ちましたか？

● 役に立った	182
● どちらかといえば、役に立った	80
● どちらかといえば、役に立た...	10
● 役に立たなかった	5



16. 上記設問15で選んだ理由等について、以下の欄に適宜補足してください。

276

応答

最新の回答

"改めて自分の強みや弱みに向き合える事が出来たから。"

"自分の弱いところを明確に見出すことができた"

"特にありません"

17. 学籍番号（必ず半角で入力してください）

277

応答

最新の回答

"4219042"

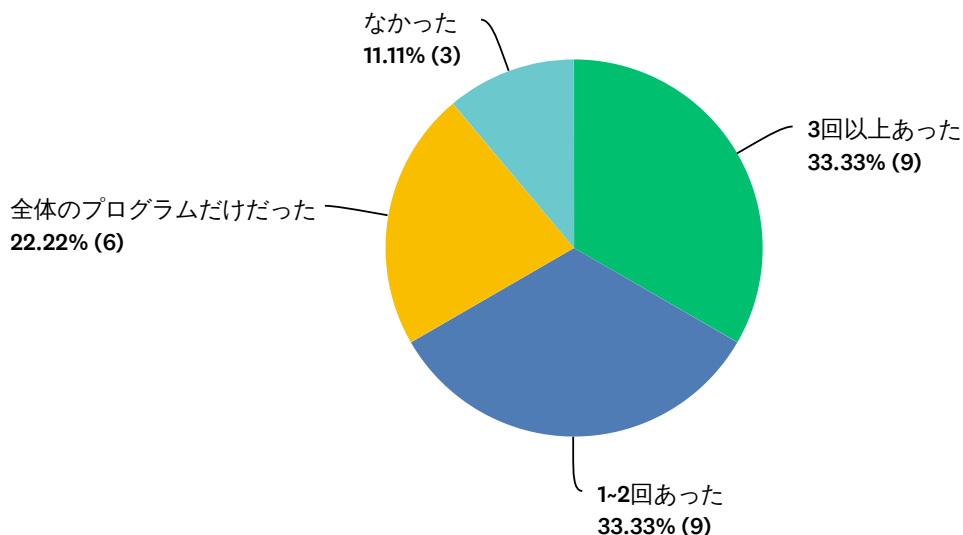
"2120054"

"1120018"

3. 青森山田高校 SDGs 共同教育プログラム 中間アンケート結果

Q1 SDGs共同教育プログラムの参加の頻度について、以下の中から最も適当なものを一つ選んでください。

Answered: 27 Skipped: 0

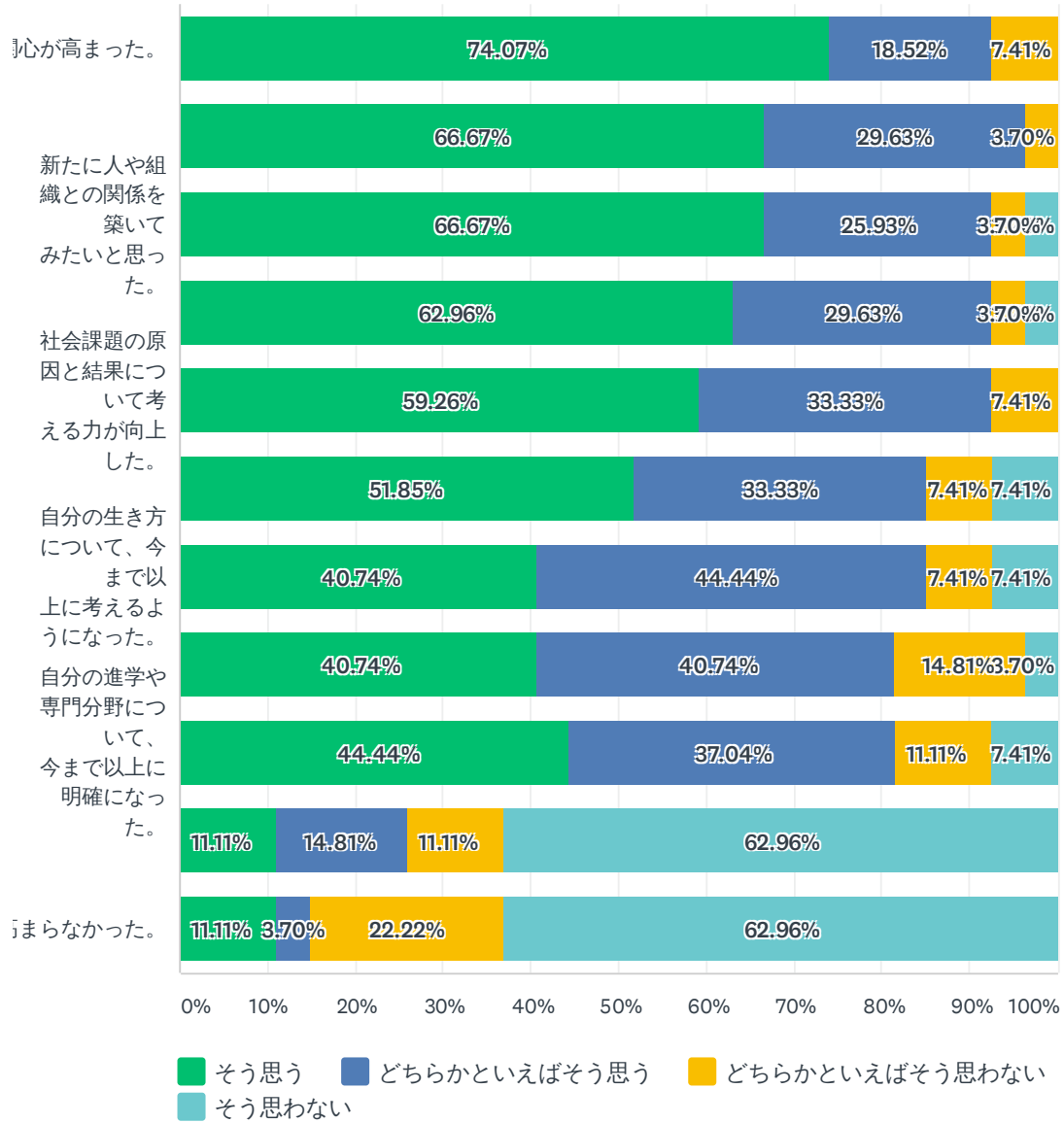


ANSWER CHOICES	RESPONSES	
3回以上あった	33.33%	9
1-2回あった	33.33%	9
全体のプログラムだけだった	22.22%	6
なかった	11.11%	3
TOTAL		27

#	上記選択について、差し障りのない範囲で補足していただければ幸いです。	DATE
1	読み聞かせ活動への参加	12/25/2020 12:33 PM
2	1回目椿果実採取 2、3回目総合の時間での国内外の活動調査	12/25/2020 12:31 PM
3	椿の実の採集、総合の授業での調査など	12/25/2020 12:30 PM
4	総合時間に国外のSDGS活動を調べる	12/25/2020 12:30 PM

Q2 今回のSDGs共同教育プログラムの効果について、以下の各項目に当てはまるものをそれぞれ一つ選んでください。

Answered: 27 Skipped: 0

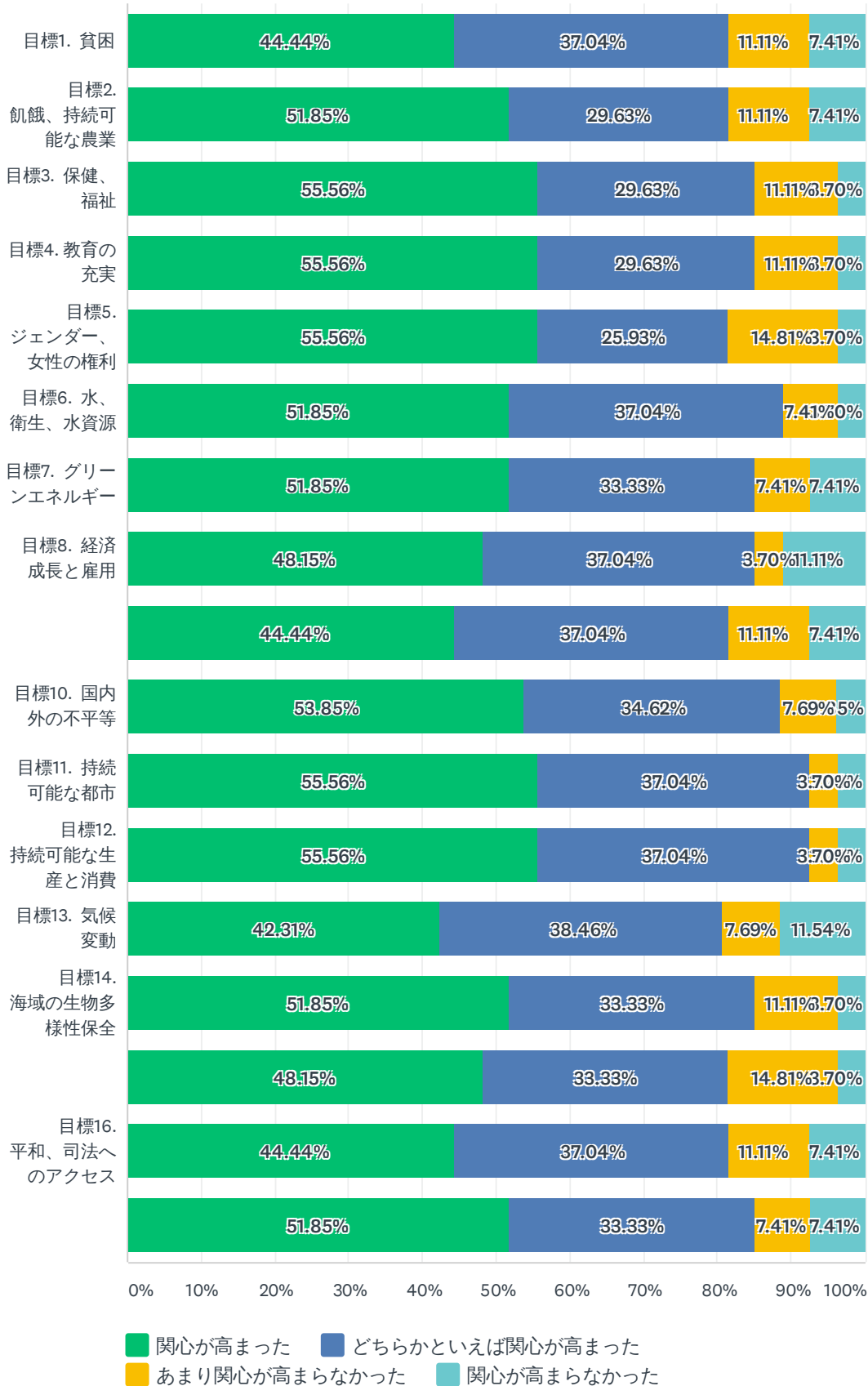


	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	TOTAL	WEIGHTED AVERAGE
社会的課題への関心が高まった。	74.07% 20	18.52% 5	7.41% 2	0.00% 0	27	1.33
物事や社会課題を調べる力（情報収集力）が向上した。	66.67% 18	29.63% 8	3.70% 1	0.00% 0	27	1.37
新たに人や組織との関係を築いてみたいと思った。	66.67% 18	25.93% 7	3.70% 1	3.70% 1	27	1.44
個人と地域社会、国際的な取り組みの三つの関係について理解が深まった。	62.96% 17	29.63% 8	3.70% 1	3.70% 1	27	1.48
社会課題の原因と結果について考える力が向上した。	59.26% 16	33.33% 9	7.41% 2	0.00% 0	27	1.48
自分の進学や専門分野について、今まで以上に考えるようになった。	51.85% 14	33.33% 9	7.41% 2	7.41% 2	27	1.70
自分の生き方について、今まで以上に考えるようになった。	40.74% 11	44.44% 12	7.41% 2	7.41% 2	27	1.81
同級生や家族などの他者と、より頻繁に意見や考えを話し合うようになった。	40.74% 11	40.74% 11	14.81% 4	3.70% 1	27	1.81
自分の進学や専門分野について、今まで以上に明確になった。	44.44% 12	37.04% 10	11.11% 3	7.41% 2	27	1.81
全く変わらない。	11.11% 3	14.81% 4	11.11% 3	62.96% 17	27	3.26
あまり関心は高まらなかった。	11.11% 3	3.70% 1	22.22% 6	62.96% 17	27	3.37

#	上記選択について可能な範囲で補足してください。	DATE
1	sdgsの活動を通して、地域の人々との関わりに興味がわくようになりました。	12/25/2020 12:33 PM
2	SDGsのCMにとっても注目するようになった	12/25/2020 12:31 PM

Q3 下記のSDGs17項目に対するあなたの関心の変化の割合について、それぞれ最も適当な選択肢を選んでください。

Answered: 27 Skipped: 0



	関心が高まった	どちらかといえば関心が高まった	あまり関心が高まらなかった	関心が高まらなかった	TOTAL	WEIGHTED AVERAGE
目標1. 貧困	44.44% 12	37.04% 10	11.11% 3	7.41% 2	27	1.81
目標2. 飢餓、持続可能な農業	51.85% 14	29.63% 8	11.11% 3	7.41% 2	27	1.74
目標3. 保健、福祉	55.56% 15	29.63% 8	11.11% 3	3.70% 1	27	1.63
目標4. 教育の充実	55.56% 15	29.63% 8	11.11% 3	3.70% 1	27	1.63
目標5. ジェンダー、女性の権利	55.56% 15	25.93% 7	14.81% 4	3.70% 1	27	1.67
目標6. 水、衛生、水資源	51.85% 14	37.04% 10	7.41% 2	3.70% 1	27	1.63
目標7. グリーンエネルギー	51.85% 14	33.33% 9	7.41% 2	7.41% 2	27	1.70
目標8. 経済成長と雇用	48.15% 13	37.04% 10	3.70% 1	11.11% 3	27	1.78
目標9. インフラ、産業化、イノベーション	44.44% 12	37.04% 10	11.11% 3	7.41% 2	27	1.81
目標10. 国内外の不平等	53.85% 14	34.62% 9	7.69% 2	3.85% 1	26	1.62
目標11. 持続可能な都市	55.56% 15	37.04% 10	3.70% 1	3.70% 1	27	1.56
目標12. 持続可能な生産と消費	55.56% 15	37.04% 10	3.70% 1	3.70% 1	27	1.56
目標13. 気候変動	42.31% 11	38.46% 10	7.69% 2	11.54% 3	26	1.88
目標14. 海域の生物多様性保全	51.85% 14	33.33% 9	11.11% 3	3.70% 1	27	1.67
目標15. 陸域の生物多様性の保全	48.15% 13	33.33% 9	14.81% 4	3.70% 1	27	1.74
目標16. 平和、司法へのアクセス	44.44% 12	37.04% 10	11.11% 3	7.41% 2	27	1.81
目標17. 協働、協調の推進	51.85% 14	33.33% 9	7.41% 2	7.41% 2	27	1.70

Q4 SDGs共同教育プログラム以外の授業の中で、SDGsと関係していると思う授業名を三つ選び、以下の欄に記入してください。

Answered: 25 Skipped: 2

ANSWER CHOICES	RESPONSES
1)	100.00% 25
2)	96.00% 24
3)	96.00% 24

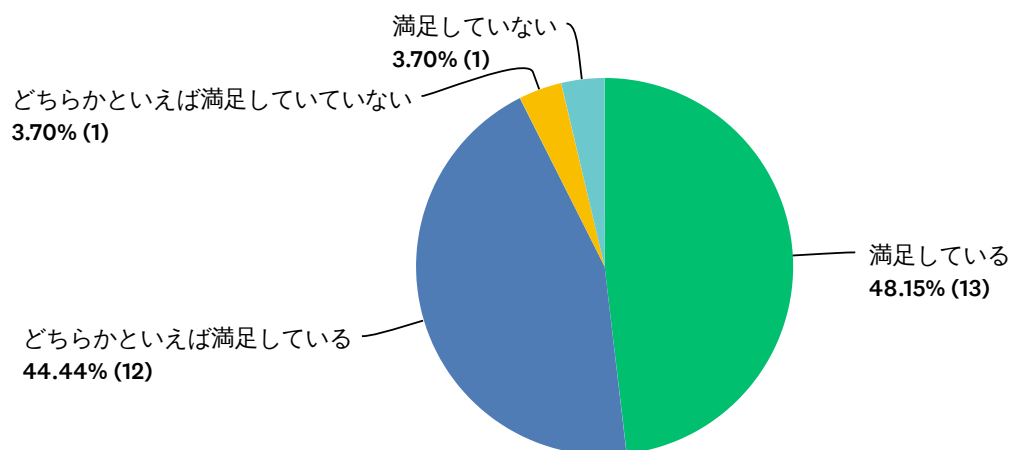
#	1)	DATE
1	地図	12/25/2020 12:50 PM
2	理科	12/25/2020 12:44 PM
3	地理	12/25/2020 12:43 PM
4	英語	12/25/2020 12:33 PM
5	国語	12/25/2020 12:33 PM
6	生物	12/25/2020 12:31 PM
7	保健	12/25/2020 12:31 PM
8	政治・経済	12/25/2020 12:31 PM
9	政治・経済	12/25/2020 12:30 PM
10	物理	12/25/2020 12:30 PM
11	政治経済	12/25/2020 12:30 PM
12	倫理	12/25/2020 12:30 PM
13	政治経済	12/25/2020 12:30 PM
14	情報	12/25/2020 12:29 PM
15	政経	12/25/2020 12:28 PM
16	政治・経済	12/25/2020 12:28 PM
17	政治経済	12/25/2020 12:27 PM
18	保健	12/25/2020 12:27 PM
19	政治経済	12/25/2020 12:26 PM
20	総合	12/25/2020 12:26 PM
21	保健体育	12/25/2020 12:25 PM
22	政治経済	12/25/2020 12:25 PM
23	総合	12/25/2020 12:25 PM
24	保健	12/25/2020 12:25 PM
25	わからない	12/25/2020 12:24 PM

#	2)	DATE
1	文学	12/25/2020 12:50 PM
2	社会	12/25/2020 12:44 PM
3	数学	12/25/2020 12:43 PM
4	保険	12/25/2020 12:33 PM
5	音楽	12/25/2020 12:33 PM
6	家庭科	12/25/2020 12:31 PM
7	生物	12/25/2020 12:31 PM
8	保険	12/25/2020 12:31 PM
9	保険体育	12/25/2020 12:30 PM
10	生物	12/25/2020 12:30 PM
11	国語	12/25/2020 12:30 PM
12	政治・経済	12/25/2020 12:30 PM
13	生物	12/25/2020 12:30 PM
14	国語	12/25/2020 12:29 PM
15	英表	12/25/2020 12:28 PM
16	化学	12/25/2020 12:28 PM
17	英語	12/25/2020 12:27 PM
18	政経	12/25/2020 12:27 PM
19	保健	12/25/2020 12:26 PM
20	保険	12/25/2020 12:26 PM
21	英語	12/25/2020 12:25 PM
22	倫理	12/25/2020 12:25 PM
23	クラス討議	12/25/2020 12:25 PM
24	政経	12/25/2020 12:25 PM

#	3)	DATE
1	総合	12/25/2020 12:50 PM
2	数学	12/25/2020 12:44 PM
3	英語	12/25/2020 12:43 PM
4	政治経済	12/25/2020 12:33 PM
5	政治経済	12/25/2020 12:33 PM
6	日本史	12/25/2020 12:31 PM
7	地理	12/25/2020 12:31 PM
8	地理	12/25/2020 12:31 PM
9	日本史	12/25/2020 12:30 PM
10	保健	12/25/2020 12:30 PM
11	数学	12/25/2020 12:30 PM
12	英語	12/25/2020 12:30 PM
13	英語	12/25/2020 12:30 PM
14	数学	12/25/2020 12:29 PM
15	コミュ	12/25/2020 12:28 PM
16	保健	12/25/2020 12:28 PM
17	保健	12/25/2020 12:27 PM
18	英語	12/25/2020 12:27 PM
19	生物	12/25/2020 12:26 PM
20	政治・経済	12/25/2020 12:26 PM
21	数学	12/25/2020 12:25 PM
22	世界史	12/25/2020 12:25 PM
23	政治経済	12/25/2020 12:25 PM
24	英語	12/25/2020 12:25 PM

Q5 今日までのSDGs共同教育プログラムに対する貴方の満足度について、以下の選択肢の中から最も当てはまるものを一つ選んでください。

Answered: 27 Skipped: 0

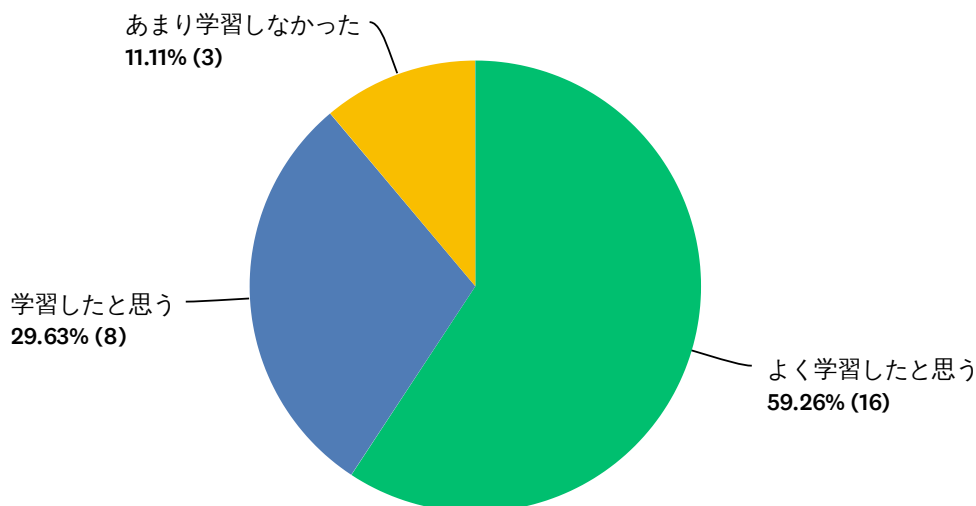


ANSWER CHOICES	RESPONSES	
満足している	48.15%	13
どちらかといえば満足している	44.44%	12
どちらかといえば満足していない	3.70%	1
満足していない	3.70%	1
TOTAL		27

#	上記を選んだ理由等について適宜補足してください。	DATE
1	私の属したプロジェクトの内容で、問題点となるものの改善点に着いて色々な人の考えを聞いたのでよかった。	12/25/2020 12:50 PM
2	今回のプログラムを通して、普段考えないような内容について考える良い機会になったから。	12/25/2020 12:43 PM
3	今まで知識のなかったsdgsの課題に興味を持つようになったから。	12/25/2020 12:33 PM
4	関心のないものまで目が行くようになったから	12/25/2020 12:33 PM
5	自分が行きたい進路の分野に当てはまっているから	12/25/2020 12:31 PM
6	学校内での活動ばかりで、課外活動が少なく社会的に活動している実感があまり湧かず、物足りない感じがあった	12/25/2020 12:31 PM
7	今まで普通に過ごしてて、気づかなかったが、SDGsのマークを身近に感じたり、世界の環境について興味を持つようになったから。	12/25/2020 12:30 PM
8	椿油についていろいろと知れたから	12/25/2020 12:30 PM
9	本を読むことにより、子供たちと関わるのがとても楽しいから。自分も子供にも読書の楽しさを学ぶことが出来る	12/25/2020 12:27 PM
10	SDGsについて興味を持つことができ、身近な事柄でもSDGsに当てはめて考えることができるようになったから。	12/25/2020 12:25 PM

Q6 今日の中間報告会まで、校外活動以外の自習する時間の各自の使い方について、以下の選択肢の中から最も当てはまるものを一つ選んでください。

Answered: 27 Skipped: 0



ANSWER CHOICES	RESPONSES	
よく学習したと思う	59.26%	16
学習したと思う	29.63%	8
あまり学習しなかった	11.11%	3
ほとんど学習しなかった	0.00%	0
TOTAL		27

#	上記を選んだ理由等について適宜補足してください。	DATE
1	他人任せになっていたところが多少あった	12/25/2020 12:50 PM
2	真面目に取り組むべきだと思ったから	12/25/2020 12:33 PM
3	自分たちでタブレットなどを使って椿について調べたから	12/25/2020 12:31 PM
4	自分たちの活動だけでなく、国外や他の企業が行っている活動を調べ、広い視野を持つことができたから	12/25/2020 12:31 PM
5	休日の講演会に参加した	12/25/2020 12:30 PM
6	アスパムの活動では、地域の人や大学の先輩などと関わり子供たちにどう絵本を読めばいいのかという技術面を学ぶことが出来ました	12/25/2020 12:27 PM
7	空いている時間に地域活性化について調べていたから。	12/25/2020 12:25 PM

Q7 今年度末に向けた残りのSDGs共同教育プログラムに対するあなたの抱負や期待について、以下のスペースに適宜記入してください。

Answered: 19 Skipped: 8

#	RESPONSES	DATE
1	なるべくグループ活動には参加するようにする。	12/25/2020 12:50 PM
2	積極的に取り組んでいきたいです	12/25/2020 12:44 PM
3	1月5日に行われる甲田小学校でのお話会に参加したいです。	12/25/2020 12:33 PM
4	読み聞かせが上手くできるように頑張りたいです。	12/25/2020 12:33 PM
5	まだ椿について知らない部分があるのでもっと知りたい	12/25/2020 12:31 PM
6	大学との連携を多くし、できるだけ多く課外活動をしたいです	12/25/2020 12:31 PM
7	SDGsの活動を通して持続可能な社会を作っていくことに関して関心が高まったのでこれからも意識していきたいです。	12/25/2020 12:31 PM
8	今回の中間報告では、まだ詳しく計画を立てていない状況で発表することになったので、これからの授業ではもっと詳しく予定を立てて旅行の計画を現実化させていきたい。	12/25/2020 12:30 PM
9	さらに他の人たちと関係を深めていきたい	12/25/2020 12:30 PM
10	自分たちの活動をまだあまり行ってないので、これから深めていきたい。そして、具体的に、大規模なところで課題解決に影響できるようにしていきたい。	12/25/2020 12:30 PM
11	興味のある、化粧品などの開発をしてみたい	12/25/2020 12:30 PM
12	商品開発に向けた案を考えてみたい	12/25/2020 12:30 PM
13	頑張りたい	12/25/2020 12:28 PM
14	子供達がより楽しんで絵本に関わるような活動をしていきたいです。	12/25/2020 12:27 PM
15	これまでに活動してきたことをSDGsにどのような関連があるのか、これからの活動で自分ができることはほかに何かあるかを考えて、残りの3ヶ月の活動に役立て、自分がこの活動を通してどう成長したかを考えられたらとおもいます	12/25/2020 12:27 PM
16	まだ活動をあまりできていないので、したい。	12/25/2020 12:26 PM
17	SDGSと関連づけてこれからも活動していきたいです。	12/25/2020 12:26 PM
18	私は看護師を目指しています。その中でさまざまな地域で病気に苦しむ人を助けたいと思っています。	12/25/2020 12:25 PM
19	3学期は七和地区の地域活性化に貢献できるように活動していきたいです。	12/25/2020 12:25 PM

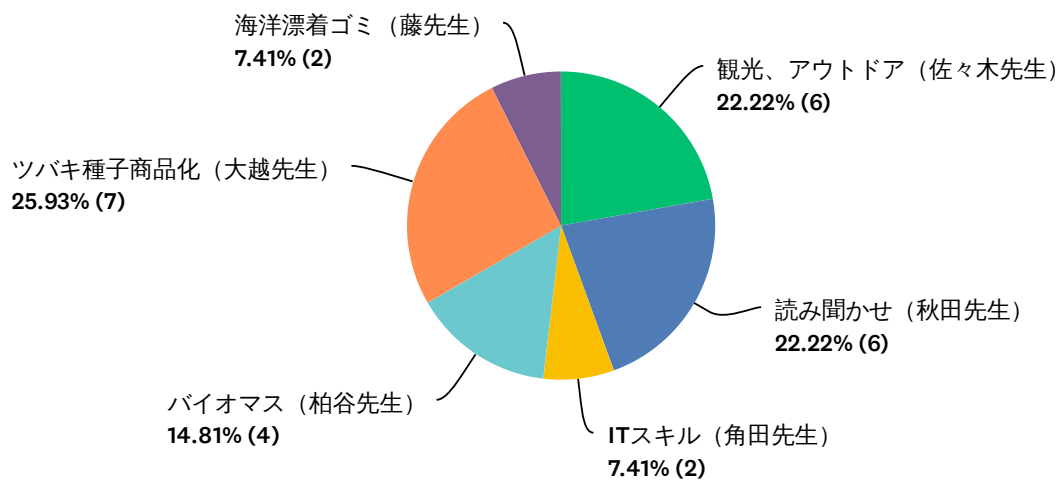
Q8 今回のSDGs共同教育プログラム全般について、あなたのご意見やご提案、ご要望などを以下のスペースに適宜記入してください。

Answered: 11 Skipped: 16

#	RESPONSES	DATE
1	性別欄に任意にしてほしい。	12/25/2020 12:44 PM
2	ないです	12/25/2020 12:33 PM
3	課外活動を増やして欲しいです	12/25/2020 12:31 PM
4	いい経験ができて良かったです。	12/25/2020 12:31 PM
5	ありません。	12/25/2020 12:30 PM
6	特に無し	12/25/2020 12:30 PM
7	自分達以外の活動について、よく理解していなかったが、今回の中間報告会でどの活動がどの課題に関係しているのかを知り、様々な分野に興味を持つことができました。	12/25/2020 12:30 PM
8	SDGsについてよく知れました。学校との連携をもっとしっかりしてほしいです。	12/25/2020 12:30 PM
9	SDGSが身近なものだと感じる事ができた良い機会だったと思う。また、SDGSのゴール目標は1つにつき色々な方面から対策を取れることが分かりました。	12/25/2020 12:30 PM
10	頑張りたい	12/25/2020 12:28 PM
11	今後の人生に役立つ、貴重な経験をさせていただいていると思います。	12/25/2020 12:27 PM

Q9 参加したテーマ

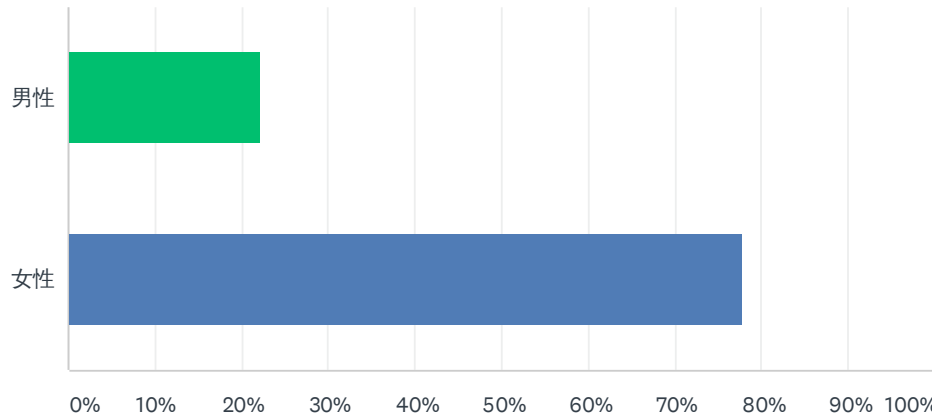
Answered: 27 Skipped: 0



ANSWER CHOICES	RESPONSES	
観光、アウトドア (佐々木先生)	22.22%	6
読み聞かせ (秋田先生)	22.22%	6
ITスキル (角田先生)	7.41%	2
バイオマス (柏谷先生)	14.81%	4
ツバキ種子商品化 (大越先生)	25.93%	7
海洋漂着ゴミ (藤先生)	7.41%	2
TOTAL		27

Q10 性別

Answered: 27 Skipped: 0



ANSWER CHOICES	RESPONSES	
男性	22.22%	6
女性	77.78%	21
TOTAL		27

4. 青森県黒石商業高校 SDGs ワークシート

Yahoo! JAPAN CREATORS プログラムの「DOCS for SDGs」ページに、以下の QR コードかアドレスからアクセスし、最も気になるドキュメンタリー作品を一つ選び、観た上で、以下の項目に答えるようにしてください。



<https://documentary.yahoo.co.jp/sdgs/#NewDocumentary>

1. 1. 作者名：
2. 作品名：
3. 作品を特徴づけるキーワード（3～5）
4. あらすじ（特に人のつながりや変化、主要な統計、作者の主張に着目してください）
5. どの SDGs の目標およびターゲットと関係しているでしょうか？
主要なターゲット（169 の中）を 2、3 選び、その理由とともに記述してください。
 - 1)
 - 2)

3)

6. 今回選んだ作品の中で、最も印象に残ったシーンや情景を選び、その理由とともに以下に記載してください。

7. 選んだ作品をより詳しく理解するため、関係している図書を Amazon や「新書マップ」などのサイトで調べて、読んでみたい著作を三つ選んで以下の項目に記載してください。

	<u>著者</u>	<u>書名</u>	<u>出版年</u>	<u>出版社</u>
1)				
2)				
3)				

8. それぞれの作品の登場人物の課題に対する捉え方や関わり方を通して見えてきた、各自が特に「向上させたい力」とは？（当てはまるものを全て○で囲んでください）

自主的に学ぶ力	学びを継続する力	人との信頼を築く力	他者と協働する力
人前で表現する力	自ら課題を発見する力	計画を策定する力	目標に向けて成し遂げる力

上記で選んだ理由を差し障りのない範囲で記載してください。

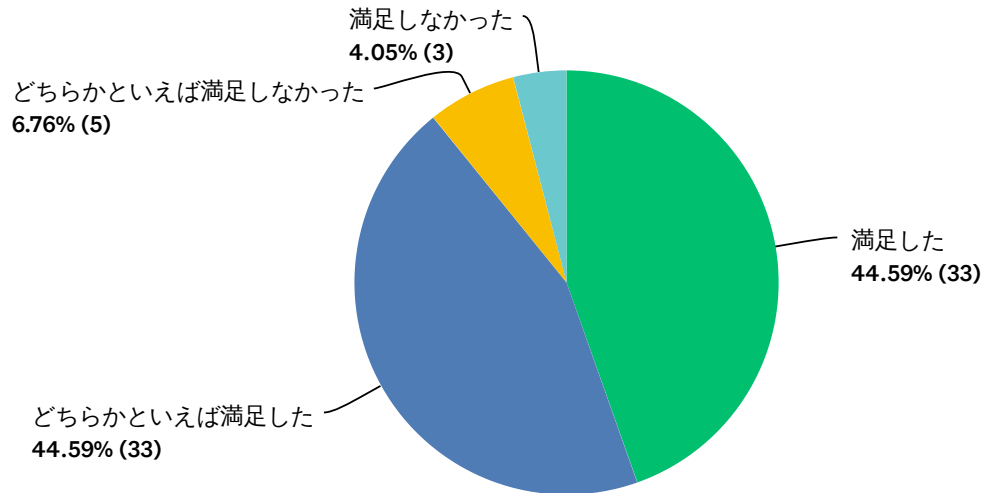
氏名

生徒番号

5. 青森県黒石商業高校 SDGs アンケート課題

Q1 今回のSDGs講義に対するあなたの満足度について、以下の選択肢の中から一つ選んでください。

Answered: 74 Skipped: 0



ANSWER CHOICES	RESPONSES	
満足した	44.59%	33
どちらかといえば満足した	44.59%	33
どちらかといえば満足しなかった	6.76%	5
満足しなかった	4.05%	3
TOTAL		74

#	上記選択について、差し障りのない範囲で補足していただければ幸いです。	DATE
1	世界の元テロリストの状況を知れた。	2/11/2021 10:44 PM
2	自分が知らない世界の現状を知れたから。	2/11/2021 4:38 PM
3	字が見えにくくて何を言っているか分かりづらかった	2/10/2021 12:42 PM
4	いい勉強をした。	2/10/2021 12:41 PM
5	何を言いたいのか伝わらなかったから。	2/10/2021 12:39 PM
6	知らなかったことを詳しく知れた	2/10/2021 12:39 PM
7	今の問題についてしっかり触れることが出来た。	2/10/2021 12:39 PM
8	分別やりサイクルで満足していたがそれは全然足りていなくてもっと深く考えるべきであることに気づけた。	2/10/2021 12:36 PM
9	ない	2/10/2021 8:43 AM
10	どのようなことがSDGsなのかしれたから	2/9/2021 10:57 PM
11	難しい内容とかがあってなかなか理解するのに難しかった。	2/9/2021 10:42 PM
12	今まで知らなかったことを新しく知る機会になったから。	2/9/2021 9:25 PM
13	SDGsを知らなかったので知る機会になったし、その内容までも知ることが出来たから。	2/9/2021 7:51 PM
14	社会で問題となっている様々な課題を解決するために、私たちが何をすべきなのかを考える機会になったから。	2/9/2021 7:43 PM
15	今までSDGsの事を知る機会が無かったので今回の講義で知ることが出来て良かったです	2/9/2021 7:41 PM
16	自分の考えを深める良い機会だと思いました。	2/9/2021 7:39 PM

Q2 あなたが選んだドキュメンタリーの作者の氏名を以下の欄に記入してください。

Answered: 60 Skipped: 14

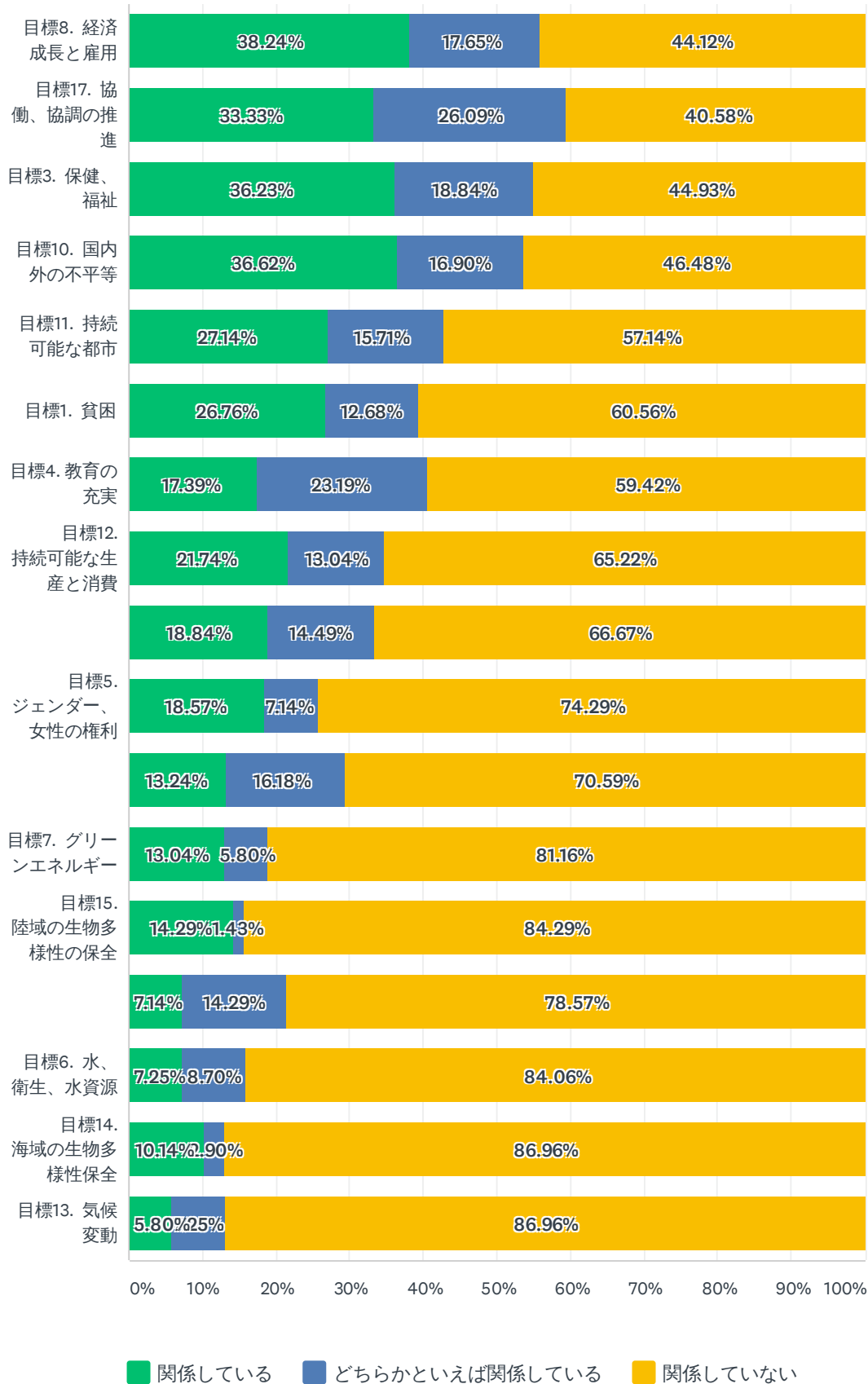
#	RESPONSES	DATE
1	岸田浩和	2/12/2021 8:14 AM
2	ベトナム人と社長	2/12/2021 8:02 AM
3	三宅流	2/11/2021 11:14 PM
4	鈴木総平	2/11/2021 10:44 PM
5	高島太士	2/11/2021 10:36 PM
6	ファッションデザイナーの物語	2/11/2021 8:57 PM
7	岸田浩和	2/11/2021 6:44 PM
8	伊藤詩織	2/11/2021 5:47 PM
9	山本妙	2/11/2021 5:45 PM
10	中村和彦	2/11/2021 1:58 PM
11	伊藤詩織	2/11/2021 12:30 PM
12	山田裕一郎	2/11/2021 12:27 PM
13	三宅流	2/11/2021 9:12 AM
14	小西遊馬	2/11/2021 9:04 AM
15	忘れた	2/10/2021 11:51 PM
16	佐々木芽生	2/10/2021 7:40 PM
17	覚えてないです	2/10/2021 7:34 PM
18	山田裕一郎	2/10/2021 5:46 PM
19	ベトナムの貧困のやつのひと	2/10/2021 3:38 PM
20	鈴木なつみ	2/10/2021 12:42 PM
21	小西遊馬	2/10/2021 12:41 PM
22	今村彩子	2/10/2021 12:41 PM
23	佐々木芽生	2/10/2021 12:39 PM
24	塩崎良子	2/10/2021 12:39 PM
25	岸田浩和	2/10/2021 12:39 PM
26	Director 小西遊馬	2/10/2021 12:36 PM
27	伊藤詩織	2/10/2021 12:32 PM
28	岸田浩和	2/10/2021 12:25 PM
29	松原保	2/10/2021 8:45 AM
30	伊藤詩織	2/10/2021 8:43 AM
31	山本妙	2/10/2021 7:33 AM
32	鈴木 総平	2/9/2021 11:46 PM
33	井上尚之	2/9/2021 10:57 PM
34	三宅流	2/9/2021 10:42 PM
35	細村舞衣さん	2/9/2021 10:42 PM
36	三宅流	2/9/2021 10:18 PM
37	わすれた	2/9/2021 9:58 PM
38	久保田徹	2/9/2021 9:33 PM
39	今村彩子	2/9/2021 9:29 PM
40	山本妙	2/9/2021 9:25 PM

2020年度 青森県立黒石商業高等学校 SDGs講義 ワークシート

41	松原保	2/9/2021 9:12 PM
42	伊藤詩織	2/9/2021 8:45 PM
43	小西遊馬	2/9/2021 8:12 PM
44	佐々木芽生	2/9/2021 8:11 PM
45	落合正幸	2/9/2021 8:04 PM
46	新田義貴	2/9/2021 7:51 PM
47	松井至	2/9/2021 7:43 PM
48	岸田浩和	2/9/2021 7:41 PM
49	松原保	2/9/2021 7:41 PM
50	小西遊馬	2/9/2021 7:41 PM
51	佐々木 芽生	2/9/2021 7:39 PM
52	望月 冬子	2/9/2021 7:37 PM
53	岸田浩和	2/9/2021 7:33 PM
54	山本妙	2/9/2021 7:33 PM
55	松原保	2/9/2021 7:28 PM
56	小田学	2/9/2021 7:02 PM
57	長谷川みら	2/9/2021 7:02 PM
58	山田裕一郎	2/9/2021 6:13 PM
59	望月冬子	2/9/2021 5:56 PM
60	山田裕一郎	2/9/2021 5:37 PM

Q3 今回あなたが選んだドキュメンタリーの内容について、下記のSDGs17項目にどの程度関係していますか？それぞれ最も適切な選択肢を選んでください。

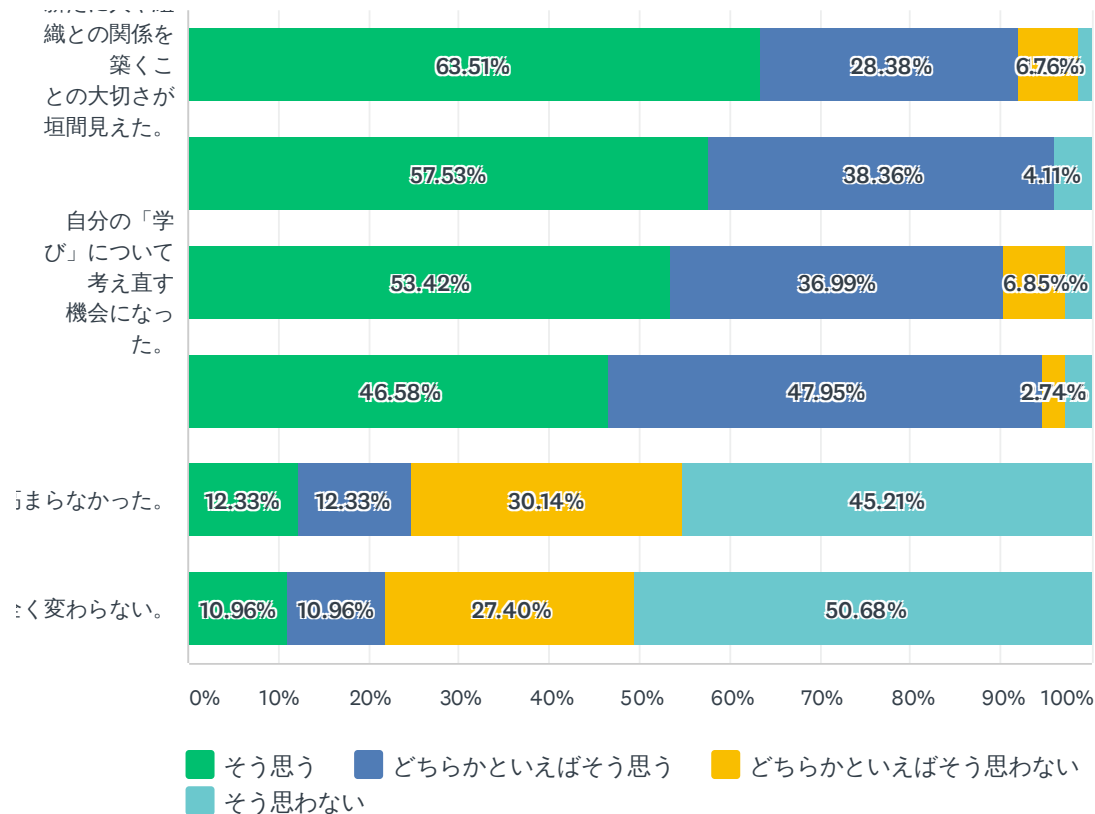
Answered: 74 Skipped: 0



	関係している	どちらかといえば関係している	関係していない	TOTAL	WEIGHTED AVERAGE
目標8. 経済成長と雇用	38.24% 26	17.65% 12	44.12% 30	68	2.06
目標17. 協働、協調の推進	33.33% 23	26.09% 18	40.58% 28	69	2.07
目標3. 保健、福祉	36.23% 25	18.84% 13	44.93% 31	69	2.09
目標10. 国内外の不平等	36.62% 26	16.90% 12	46.48% 33	71	2.10
目標11. 持続可能な都市	27.14% 19	15.71% 11	57.14% 40	70	2.30
目標1. 貧困	26.76% 19	12.68% 9	60.56% 43	71	2.34
目標4. 教育の充実	17.39% 12	23.19% 16	59.42% 41	69	2.42
目標12. 持続可能な生産と消費	21.74% 15	13.04% 9	65.22% 45	69	2.43
目標9. インフラ、産業化、イノベーション	18.84% 13	14.49% 10	66.67% 46	69	2.48
目標5. ジェンダー、女性の権利	18.57% 13	7.14% 5	74.29% 52	70	2.56
目標16. 平和、司法へのアクセス	13.24% 9	16.18% 11	70.59% 48	68	2.57
目標7. グリーンエネルギー	13.04% 9	5.80% 4	81.16% 56	69	2.68
目標15. 陸域の生物多様性の保全	14.29% 10	1.43% 1	84.29% 59	70	2.70
目標2. 飢餓、持続可能な農業	7.14% 5	14.29% 10	78.57% 55	70	2.71
目標6. 水、衛生、水資源	7.25% 5	8.70% 6	84.06% 58	69	2.77
目標14. 海域の生物多様性保全	10.14% 7	2.90% 2	86.96% 60	69	2.77
目標13. 気候変動	5.80% 4	7.25% 5	86.96% 60	69	2.81

Q4 今回のSDGsの講義とドキュメンタリー課題を通して、SDGsの効果に関する以下の各項目に当てはまるものをそれぞれ一つ選んでください。

Answered: 74 Skipped: 0

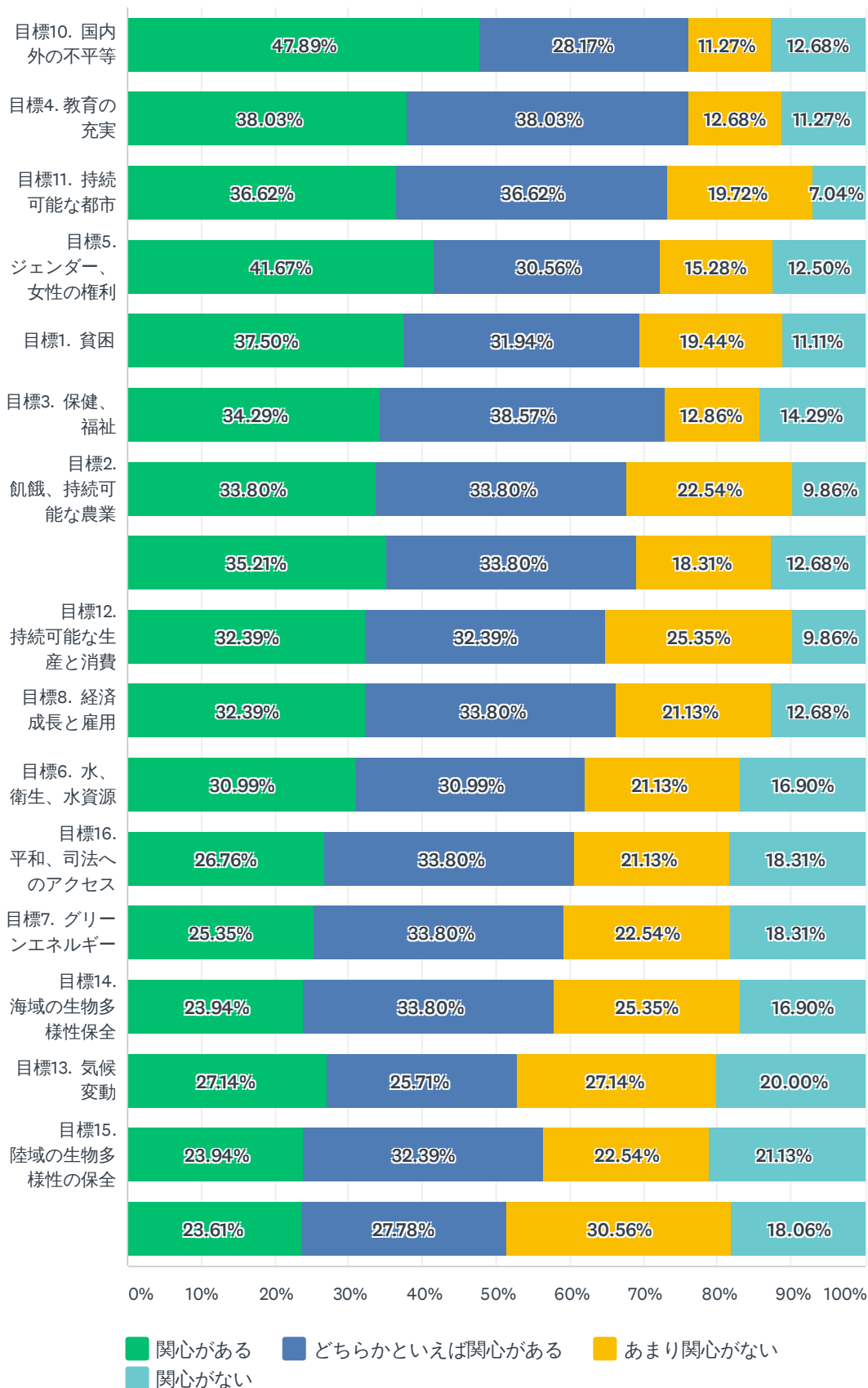


	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	TOTAL	WEIGHTED AVERAGE
新たに人や組織との関係を築くことの大切さが垣間見えた。	63.51% 47	28.38% 21	6.76% 5	1.35% 1	74	1.46
社会的課題への関心が高まりそうだ。	57.53% 42	38.36% 28	0.00% 0	4.11% 3	73	1.51
自分の「学び」について考え直す機会になった。	53.42% 39	36.99% 27	6.85% 5	2.74% 2	73	1.59
自分のキャリアや生き方について、今まで以上に考えるようになりそうだ。	46.58% 34	47.95% 35	2.74% 2	2.74% 2	73	1.62
あまり関心は高まらなかった。	12.33% 9	12.33% 9	30.14% 22	45.21% 33	73	3.08
全く変わらない。	10.96% 8	10.96% 8	27.40% 20	50.68% 37	73	3.18

#	上記選択について可能な範囲で補足してください。	DATE
1	とてもいい勉強になりました。	2/12/2021 8:14 AM
2	元テロリストが更正する姿勢が、凄く考えさせられました。	2/11/2021 10:44 PM
3	信頼の大切さを知れた。	2/11/2021 4:38 PM
4	いい勉強になった。	2/10/2021 12:41 PM
5	自分自身の考え方を改めれる機会が良かった。	2/10/2021 12:39 PM
6	今身につけている衣服や使っている物は誰かの犠牲があって生産されている物であることを知り、物は大事に使わなければならないと思った。	2/10/2021 12:36 PM
7	自分の知らない事が沢山あって、もし自分でできることがあるならやってみたいと思ったから	2/9/2021 7:51 PM
8	社会的課題にどう向き合うべきなのかを考えるようになった。	2/9/2021 7:43 PM
9	将来の職業について考えることができた	2/9/2021 7:33 PM

Q5 下記のSDGs17項目に対するあなたの関心の度合いについて、それぞれ最も適当な選択肢を選んでください。

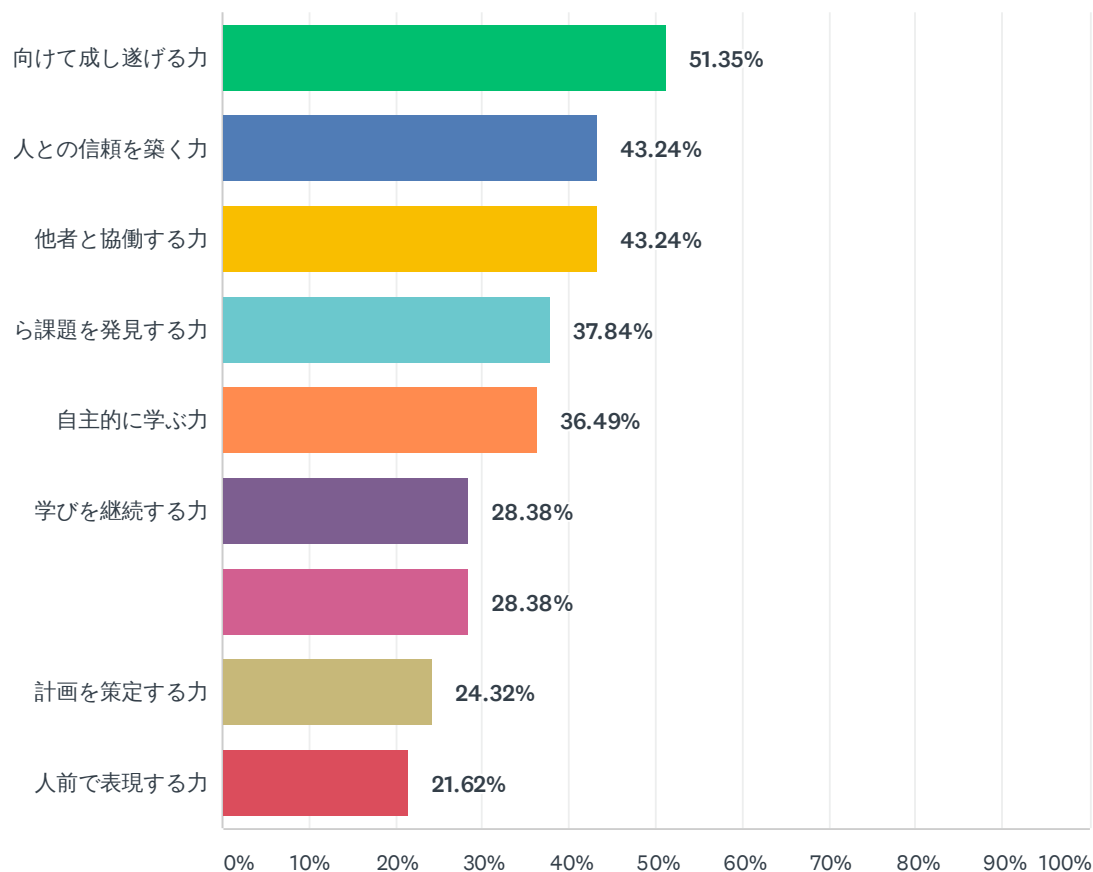
Answered: 74 Skipped: 0



	関心がある	どちらかといえば関心がある	あまり関心がない	関心がない	TOTAL	WEIGHTED AVERAGE
目標10. 国内外の不平等	47.89% 34	28.17% 20	11.27% 8	12.68% 9	71	1.89
目標4. 教育の充実	38.03% 27	38.03% 27	12.68% 9	11.27% 8	71	1.97
目標11. 持続可能な都市	36.62% 26	36.62% 26	19.72% 14	7.04% 5	71	1.97
目標5. ジェンダー、女性の権利	41.67% 30	30.56% 22	15.28% 11	12.50% 9	72	1.99
目標1. 貧困	37.50% 27	31.94% 23	19.44% 14	11.11% 8	72	2.04
目標3. 保健、福祉	34.29% 24	38.57% 27	12.86% 9	14.29% 10	70	2.07
目標2. 飢餓、持続可能な農業	33.80% 24	33.80% 24	22.54% 16	9.86% 7	71	2.08
目標17. 協働、協調の推進	35.21% 25	33.80% 24	18.31% 13	12.68% 9	71	2.08
目標12. 持続可能な生産と消費	32.39% 23	32.39% 23	25.35% 18	9.86% 7	71	2.13
目標8. 経済成長と雇用	32.39% 23	33.80% 24	21.13% 15	12.68% 9	71	2.14
目標6. 水、衛生、水資源	30.99% 22	30.99% 22	21.13% 15	16.90% 12	71	2.24
目標16. 平和、司法へのアクセス	26.76% 19	33.80% 24	21.13% 15	18.31% 13	71	2.31
目標7. グリーンエネルギー	25.35% 18	33.80% 24	22.54% 16	18.31% 13	71	2.34
目標14. 海域の生物多様性保全	23.94% 17	33.80% 24	25.35% 18	16.90% 12	71	2.35
目標13. 気候変動	27.14% 19	25.71% 18	27.14% 19	20.00% 14	70	2.40
目標15. 陸域の生物多様性の保全	23.94% 17	32.39% 23	22.54% 16	21.13% 15	71	2.41
目標9. インフラ、産業化、イノベーション	23.61% 17	27.78% 20	30.56% 22	18.06% 13	72	2.43

Q6 各自が選んだ作品の登場人物の課題に対する関わり方を通して見えてきた、各自が特に「向上させたい力」とは？下記選択肢の中で、当てはまるものを全て選んでください。

Answered: 74 Skipped: 0

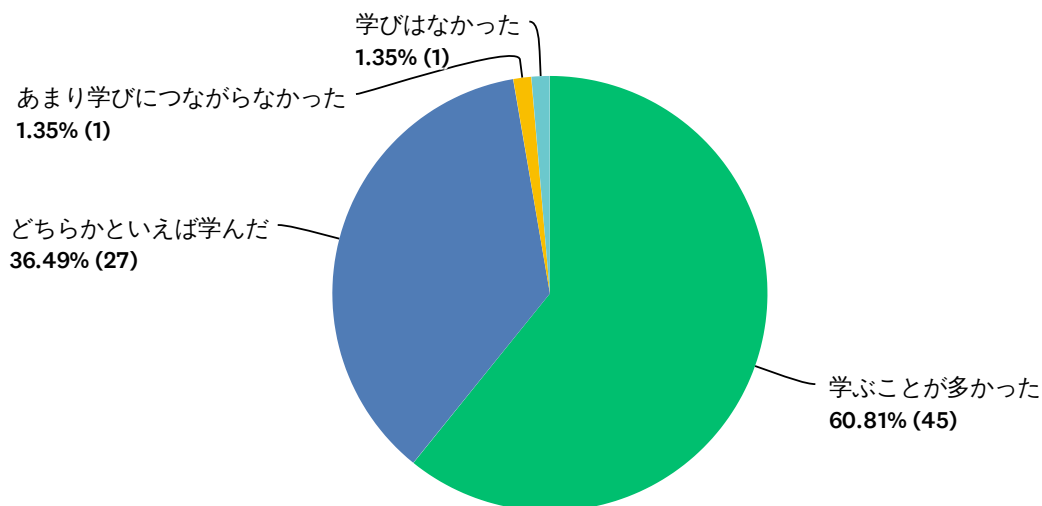


ANSWER CHOICES	RESPONSES	
目標に向けて成し遂げる力	51.35%	38
人との信頼を築く力	43.24%	32
他者と協働する力	43.24%	32
自ら課題を発見する力	37.84%	28
自主的に学ぶ力	36.49%	27
学びを継続する力	28.38%	21
上記を選んだ理由等について適宜補足してください。	28.38%	21
計画を策定する力	24.32%	18
人前で表現する力	21.62%	16
Total Respondents: 74		

#	上記を選んだ理由等について適宜補足してください。	DATE
1	自分たちの力で学んで協力し合って社会復帰しようとしていた。	2/11/2021 10:44 PM
2	生きていくうえで最も大切なこと。	2/11/2021 4:38 PM
3	障害者とのバリアをなくし信頼して協力することが必要だと思ったから。	2/11/2021 12:30 PM
4	自ら行動し周りと協力することで目標に近づくことがわかりました。	2/11/2021 9:12 AM
5	何をするにも学ぶことから始めるから	2/10/2021 12:39 PM
6	叶えたい夢のため、仕事をしていたことに心を動かされた。	2/10/2021 12:39 PM
7	自ら考えそれを形にし他人に伝える事は当たり前のことだがこれが出来るとできないでは今後変わってくると思った。また、表現するためには自らの力だけでは実現することが困難な目標も多々見られると思う。そんなときに他人と協力できる力は必要になると思う。	2/10/2021 12:36 PM
8	目標があることで生活が豊かになるから。	2/10/2021 12:32 PM
9	協力が大事だと思ったら	2/10/2021 8:45 AM
10	やる気をつける	2/10/2021 8:43 AM
11	自分に無いものだったから、これからの自分に必要だと思ったから	2/9/2021 10:57 PM
12	仕事は人との信頼があって出来るから	2/9/2021 10:18 PM
13	自分が知らない所で困ってる人がいることに気づいたから。	2/9/2021 9:29 PM
14	自分のやりたいことを言う場面から自主的なことに関係していると思ったから。	2/9/2021 9:25 PM
15	今現在のご時世だと協力や呼びかけが1番重要だと思うので自分には何が出来るかを見つけるべきだと思う。	2/9/2021 8:11 PM
16	夢や目標を実現させることはとても難しいことなので、それに向かって努力することはとても素晴らしいことで素敵な事だと思ったから。	2/9/2021 7:51 PM
17	自分で何をすべきなのか、課題を発見し、自分自身でその課題を解決できる力が必要だと考えたから。	2/9/2021 7:43 PM
18	自分の目標に向けて頑張ることで、将来に役に立つと思うから	2/9/2021 7:41 PM
19	仕事のみならず目標に向かって頑張る大切さがわかった	2/9/2021 7:33 PM
20	自分の夢ややりたいことなどに向かって努力して成し遂げる力があると素敵だから	2/9/2021 7:33 PM
21	自分には自主性がないと思い、この動画を見て自分から取り込む事の大切さを知ったから。	2/9/2021 7:02 PM

Q7 今回のドキュメンタリー作品の課題に対する貴方の学びについて、以下の選択肢の中から最も当てはまるものを一つ選んでください。

Answered: 74 Skipped: 0

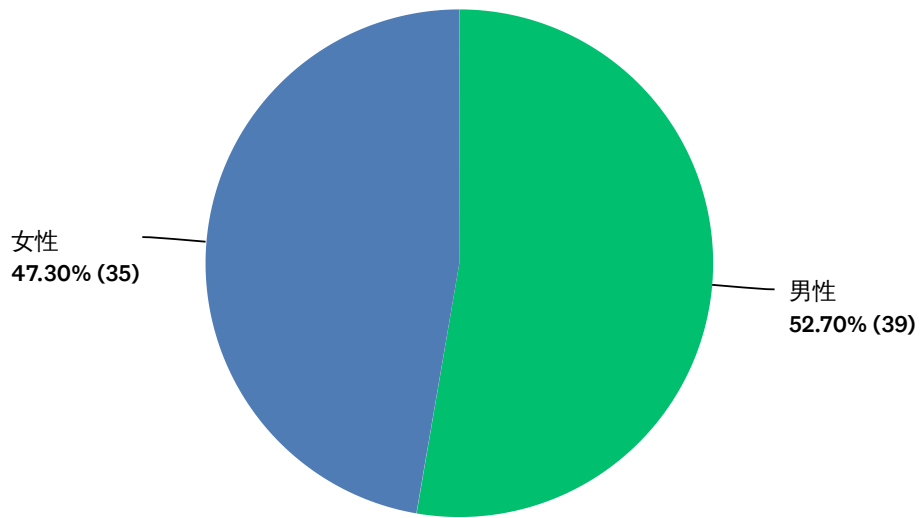


ANSWER CHOICES	RESPONSES	
学ぶことが多かった	60.81%	45
どちらかといえば学んだ	36.49%	27
あまり学びにつながらなかった	1.35%	1
学びはなかった	1.35%	1
TOTAL		74

#	上記を選んだ理由等について適宜補足してください。	DATE
1	元テロリストという名前があるのに必死に社会復帰に向けて頑張っていたから、とても素晴らしいと思った。	2/11/2021 10:44 PM
2	自分が知らないことを知れたから。	2/11/2021 4:38 PM
3	深く考えられることができたから	2/10/2021 3:38 PM
4	どんな理由で働いているかや、世界の問題について知れた	2/10/2021 12:39 PM
5	今の貧困、問題点に詳しく触れることが出来たから。	2/10/2021 12:39 PM
6	自分が考えてもいない事を知れた。障害のある人の気持ちや業界の裏側や仕組みなど普段見られない部分を知ることができた。	2/10/2021 12:36 PM
7	そもそもSDGsというものをあまり知らなかったので、新しい知識を持つことができたから。	2/10/2021 12:32 PM
8	生物の大切さがわかったから。生態系を守るために都市開発が必要だと思ったから。	2/10/2021 8:45 AM
9	一人の女性が今世代のSNSを有効活用してブランドを立ち上げていて、自分からやる行動力や、みんなを引っ張るリーダー的な所を学べたと思う	2/9/2021 10:57 PM
10	自分の知らないところで今、どのようなことが起きているのかを知れたから。	2/9/2021 9:29 PM
11	なにも興味がなかったものに対して興味を持つようになり、知らなかったことを新たに知ることができ自分のためになったから。	2/9/2021 9:25 PM
12	今自分が何をすべきかを知ることが出来たから。	2/9/2021 8:11 PM
13	琉球古典音楽を若者にも知って欲しいというモットーで、ユニットを組んで活動しているところがとても行動力があってすごいと思ったから。	2/9/2021 7:51 PM
14	私は発達障害についてのドキュメンタリー作品を視聴しました。この作品の登場人物から「障害」を抱えていても、それを言い訳にし、責任転嫁し過ぎることは良くないことだと学ぶことが出来たから。	2/9/2021 7:43 PM
15	今まで考えたこともなかったことを考えさせ、とても良い学びがあったと思います	2/9/2021 7:41 PM
16	人間関係の大切さがわかった	2/9/2021 7:33 PM
17	人種や宗教などの差別や世界で現在どのような事が起こっているかなど知ることが出来た。	2/9/2021 7:33 PM
18	自分の知らなかったことが沢山あり、気づかずにしている事が地球をだめにしていると実感したから。	2/9/2021 7:02 PM

Q8 性別

Answered: 74 Skipped: 0



ANSWER CHOICES	RESPONSES	
男性	52.70%	39
女性	47.30%	35
TOTAL		74

6. グローバル英語 学習効果アンケート



グローバル英語2020についてのアンケート

5

応答

24:27

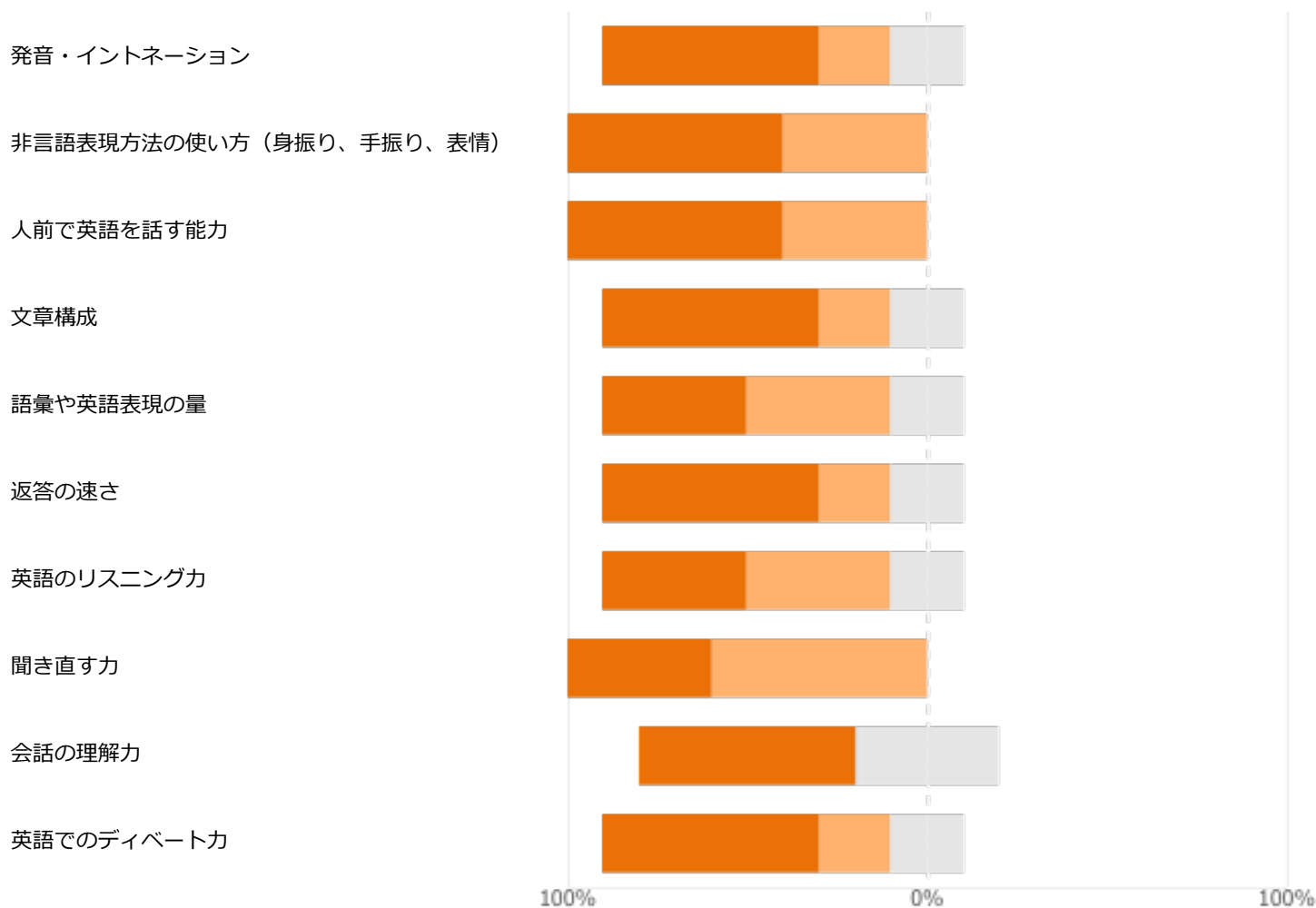
完了するのにかった平均時間

アクティブ

状態

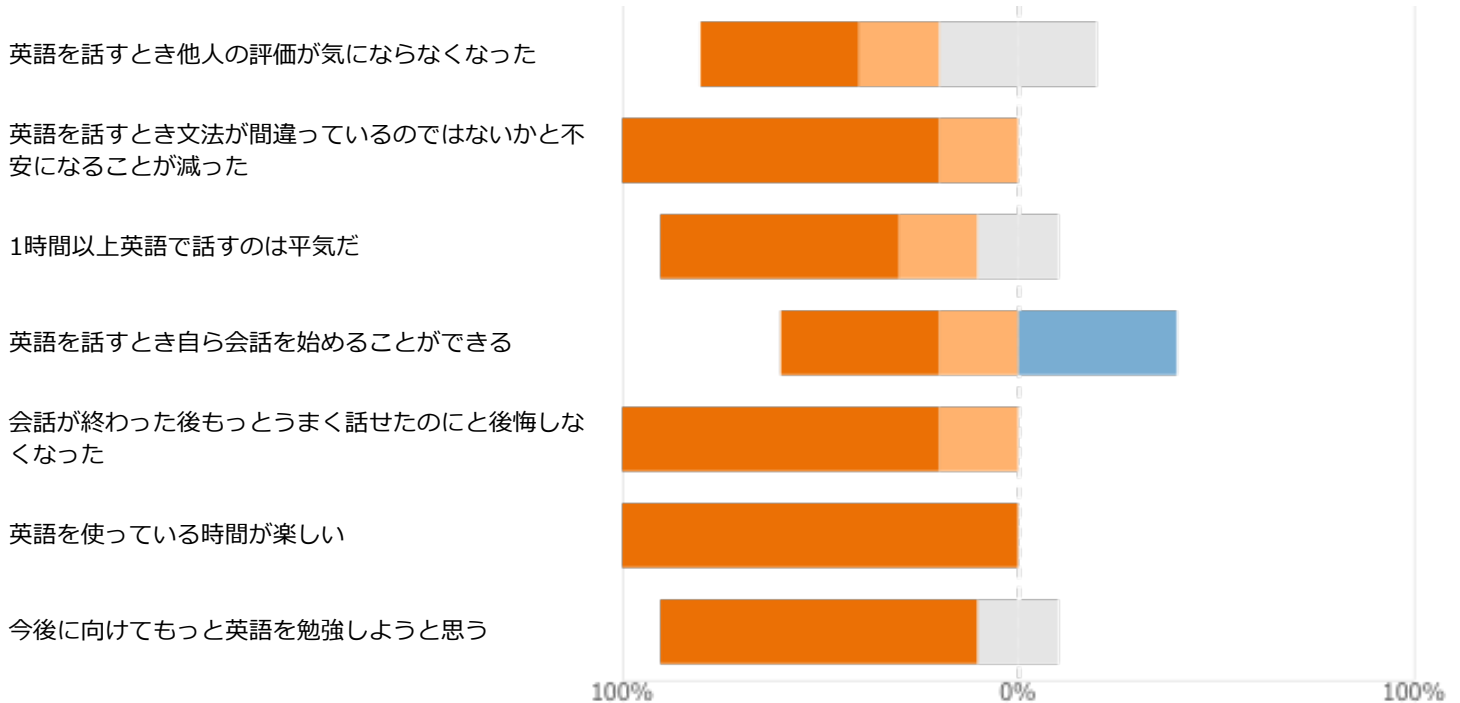
1. 5週間にわたるマンツーマン・セッションを経て、以下の各項目にかかるあなたの英語コミュニケーションの能力について、最も当てはまるものを選んでください。

■ かなり向上した ■ 向上した ■ どちらかといえば向上した ■ あまり向上しなかった ■ 向上しなかった



2. 5週間にわたるマンツーマン・セッションを経て、以下の各項目にかかるあなたの英語使用における態度や気持ちはどのように変わりましたか。今の状態に最も当てはまるものを選んでください。

■ あてはまる
 ■ ややあてはまる
 ■ どちらかといえばあてはまる
 ■ あまりあてはまらない
 ■ 全くあてはまらない



3. 相手が自分を理解できていないときに、どのような方法で解決しましたか？

最新の回答

5
応答

"実際の写真や動画を見せたりしていた。"

"もう一回違う言い方で説明する"

"無理に文にせず、関係のある単語を並べた。"

4. 相手の言っていることを理解できないときに、どのような方法で解決しましたか？

最新の回答

5
応答

"数回聞き直したり、紙に書いたりしてもらってた。"

"聞き直す。"

"もう一度言ってくれるようお願いした。"

5. パートナーと話す際に気を付けたことは何ですか？

5

応答

最新の回答

"画面越しだったから、笑顔や声のトーンなど相手に暗い印象を与え..."

"えがお！"

"会話が盛り下がらないように、笑顔でいることを意識した。"

6. 英語でコミュニケーションができていたと感じたのはどんな時ですか？

5

応答

最新の回答

"相手との会話が長くなった時。相手の笑顔がみれた時。"

"相手とスムーズに会話が進む時"

"自分が今までに英語で表現してこなかったことを、相手に理解して..."

7. 英語でコミュニケーションをとる際に難しいと感じたことはどんなことでしたか？

5

応答

最新の回答

"知らない単語が出てきた時や、自分の思った発音と違い、違う言..."

"語彙力。思いつき"

"相手が話すスピードに、理解が追いつかない。"

8. パートナーと会話練習をする際に事前に準備したことは何ですか？

5

応答

最新の回答

"今日聞かれる質問を事前に予習した。前回の復習。"

"例文の回答内容の概要は頭に入れておいた、こと？"

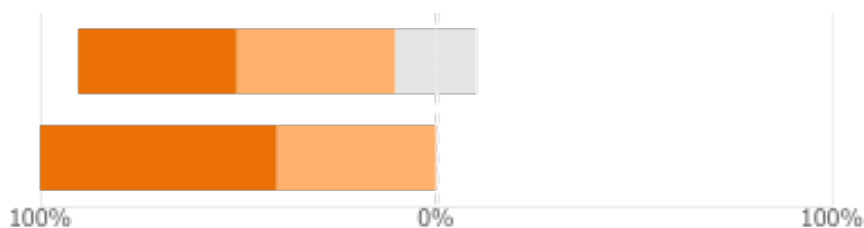
"先生が送ってくれた資料を読んだり、単語帳を読んだりした。"

9. 相手の目を見ながら話すしたり聞いたりする

必ずする
 まあまあする
 どちらかといえばする
 あまりしない
 全くしない

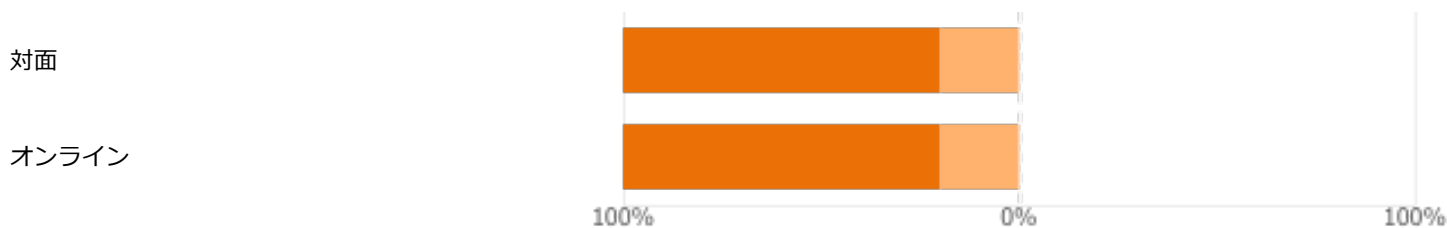
対面

オンライン



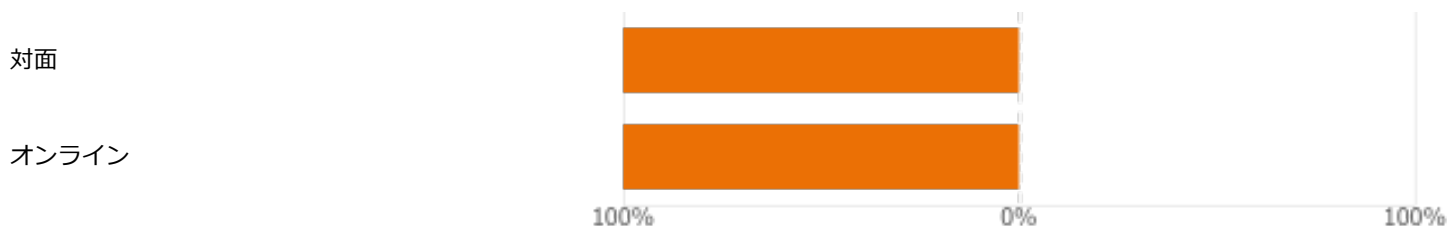
10. 適度にあいづちを打つ・うなづく・積極的に質問をするなど、相手への興味を示す

必ずする
 まあまあする
 どちらかといえばする
 あまりしない
 全くしない



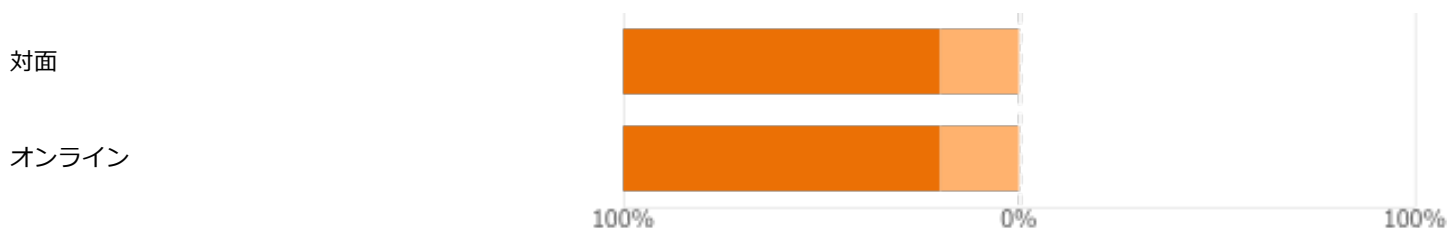
11. 笑顔を心がける

■ 必ずつる
 ■ まあまあする
 ■ どちらかといえばする
 ■ あまりしない
 ■ 全くしない



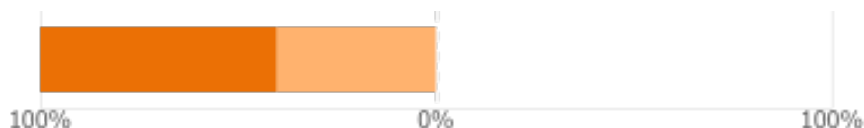
12. 相手に分かるように工夫して話す

■ 必ずつる
 ■ まあまあする
 ■ どちらかといえばする
 ■ あまりしない
 ■ 全くしない



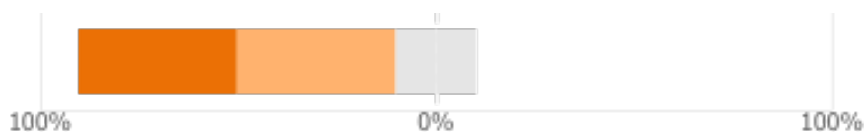
13. 【1. 生涯をかけて学び続ける力: 1A自主的に学ぶ力】グローバル英語で、目的に応じて英語の発音・フレーズなどを調べたり、学ぶことはできましたか？

■ かなりできた
 ■ まあまあできた
 ■ どちらかといえばできた
 ■ あまりできなかった
 ■ 全くできなかった



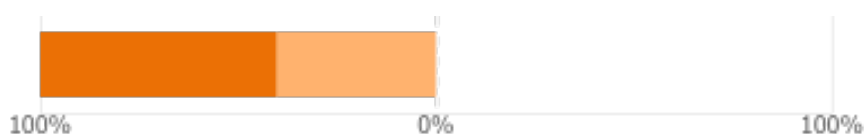
14. 【1. 生涯をかけて学び続ける力:1B学習を継続する力】グローバル英語の授業の前後に先生からの宿題以外に自分で目標を立てて、自発的に学修を継続することができましたか？

■ かなりできた ■ まあまあできた ■ どちらかといえばできた ■ あまりできなかった ■ 全くできなかった



15. 【2. 人とつながる力:2E 表現する力】パートナーと会話練習をする際に、書く・話す・話し合いのマナーやルールに従って相手に伝えたいことを表現できましたか？

■ かなりできた ■ まあまあできた ■ どちらかといえばできた ■ あまりできなかった ■ 全くできなかった



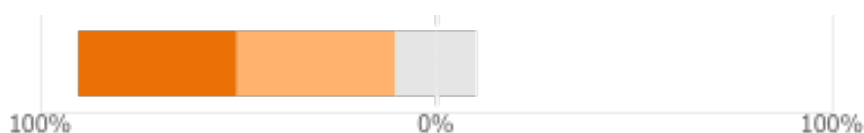
16. 【3. 自分自身を見据え、確かめる力:3H 目標に向けて成し遂げる力】パートナーと会話練習をする際に、目標を意識して、初めてのことに楽しんで取り組むことができましたか？

■ かなりできた ■ まあまあできた ■ どちらかといえばできた ■ あまりできなかった ■ 全くできなかった



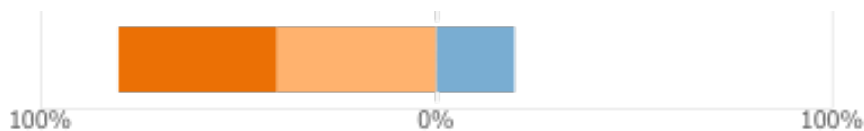
17. 【4. 専門的知識・技能を活用する力 :4I 基礎的知識・技能の理解 Idea】パートナーと会話練習をする際に、英語の基礎的な知識・技能の重要な要素を理解し、会話で使うことはできましたか？（質問の仕方、丁寧な話し方、あいづちの打ち方など）

■ かなりできた ■ まあまあできた ■ どちらかといえばできた ■ あまりできなかった ■ 全くできなかった



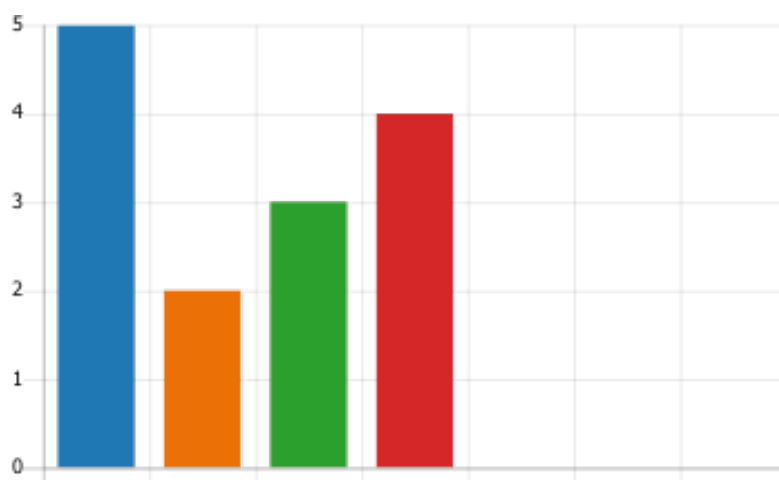
18. 【4. 専門的知識・技能を活用する力 :4J知識・技能の習得 Connections】 パートナーと会話練習をする際に、知識・技能の修得に必要な情報を取捨選択し、会話の中で使うことができましたか？（音のつながり、発音の仕方、イントネーションなど）

■ かなりできた
 ■ まあまあできた
 ■ どちらかといえばできた
 ■ あまりできなかった
 ■ 全くできなかった



19. あなたのSDGsの認知度について、以下の選択肢の中から当てはまるものを全て選んでください。「その他」のところには選択肢について適宜補足してください。

- SDGsという言葉は聞いたこ… 5
- 2030年までに達成すべきゴ… 2
- 17のゴール、169のターゲッ… 3
- 持続可能な社会を目指す上… 4
- このアンケートで初めて知っ… 0
- 存在を知らない。 0
- その他 0

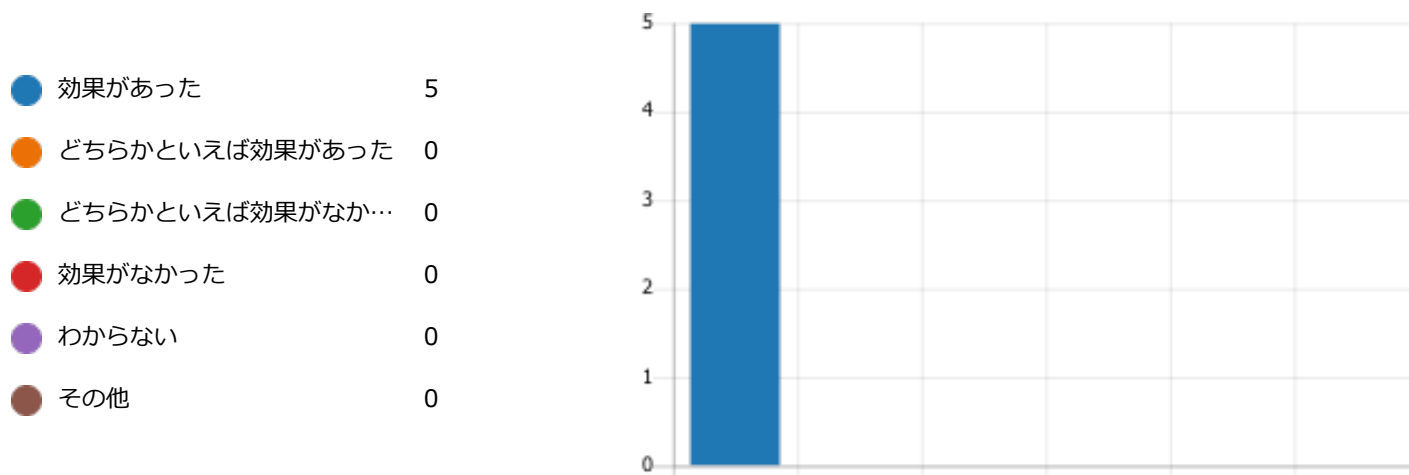


20. これまで、講義以外でSDGsについて自ら調べたり、行事に参加したことがありますか？以下の選択肢の中から最も当てはまるものを一つ選んでください。「その他」に選んだ理由等について適宜補足してください。

- ある 2
- ない 3
- わからない 0
- その他 0



21. 今回のプログラムでは、語学力の向上に加えて、実践大学の学生とマンツーマンで会話や面接の仕方を学びましたが、その学習効果について、以下の中で最も当てはまるものを一つ選んでください。「その他」に選択した理由などを適宜補足してください。



22. 異文化理解の観点は、SDGsへの関心、理解を高める上で、どのように関係していると考えますか？以下の欄に自由に記入してください。

最新の回答

5

応答

"異文化理解は、国外の状況や文化の違いへの理解や、全世界で協...

"他国との関わりを多くする"

"異文化理解は、新しい価値観やものの見方を生み、グローバルな...

23. 今回のグローバル英語の感想や、自己の変容や展望などについて、以下の欄に可能な範囲で記述してください。

最新の回答

5

応答

"英語が好きということを再認識できた。就職先でも、積極的に英...

"英語を職に活かせるかどうかはわからないけど、人生のうちで英...

"もともとは高校での勉強がどこまで通用するのかを知りたいとい...

24. 英語の学習年数

最新の回答

5

応答

"3年"

"7年"

"本気で取り組んでいたのは、受験前の半年間"

25. 2) TOEICや英検などの英語の資格の点数・級をお聞かせください（模擬試験でもよいです）。

5

応答

最新の回答

"英検2級落ちました。"

"TOEIC490"

"上記の試験は受けたことがないです。"

26. 今後英語を継続的に勉強しようと思えますか？どんなことを勉強するつもりですか？詳しく教えてください。

5

応答

最新の回答

"英検とTOEIC。特にTOEICに重きを置きたいです。機会があればワ..."

"もっと話す"

"いまはネクステージ(文法、イディオム)とターゲット(単語帳)を主..."

27. 今後大学で同じようなプログラムがあったら、いくらなら自己負担してもよいと思えますか？

● 1000円～5000円	0
● 5000円～10000円	4
● 10000円～15000円	0
● その他	1



28. 青森大学の英語教育に関して、今後行ってほしいプログラムや内容はありますか？

5

応答

最新の回答

"英検やTOEICなどをもっと推進して欲しいです。留学プログラムも..."

"スピーキング系"

"ネイティブスピーカーによる英語のみの講義"

29. 年齢

5

応答

最新の回答

"21"

"21"

"19"

30. 性別

● 男性	4
● 女性	1
● 回答しない	0




31. ご協力ありがとうございました！

4
応答

最新の回答
"ありがとうございました。"
"つかれた"

7. 卒業研究・論文 SDGs 研究センター賞
申請書と評価シート

2020年度 卒業論文・研究 SDGs 研究センター賞
応募申請書

SDGs該当カテゴリマーク(5個まで)							
   など。							
論文・プロジェクトのタイトル							
執筆者(氏名とフリガナ、学籍番号)	指導教官 氏名						
論文・プロジェクトの骨子、要旨、Abstracts							
キーワード(5個まで):							
SDGs 達成に向けた論文・プロジェクトのアピールポイント							
  							
賞品の受け取り							
<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="text-align:center; width:33%;">要</td> <td style="text-align:center; width:33%;">イルカ</td> <td style="text-align:center; width:33%;">不要</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align:center;">Quo カード</td> <td></td> </tr> </table>		要	イルカ	不要		Quo カード	
要	イルカ	不要					
	Quo カード						
応募申請者(本人でも、教職員でも応募可)	申請者が執筆者と異なる場合は、執筆者の署名						

論文データの公表にかかる執筆者本人の同意(同意の可否が審査に影響することはありません)	
同意します	同意しません (ウェブサイト内で公表しない。)
受付担当者記入欄	本件の連絡先(氏名と住所、電話番号)
申請書提出日時	
総合研究所 担当受付印	

				①課題要因の整理、研究目的	②SDGs項目の関連づけの明確さ	③社会貢献度	④完成度	合計点
学籍番号	氏名	指導教官	タイトル	各テーマにかかる課題の要因の整理のレベル、研究目的の明晰さ（着目点の迫真性）	申請書のアピールポイント（SDGs項目）と本文記述の関連づけにおけるもっともらしさ	調査結果のSDGs的な展開可能性、射程（記述の有無を問わない）	卒業研究としての調査、論考の完成度	
4214055	堀松 星翔	大越絵実加	中高生を対象とした薬学的な概念形成を図る化学実験教材の開発とプログラムの実践的検証					
4215037	竹内啓太郎	福井雅之	Quercetinは肺がん細胞の増殖を抑制する					
1117050	小柴圭太	松本大吾	地方で行う先進的な学校教育の一考察：インドネシア2校と比較して					
1117128	ワイバゴビンダ	佐々木豊志	日本とドイツのエネルギー政策の違い					
1117033	釜薙麻侑花	森宏之	食品ロスの現状と課題					

5点満点で以下の尺度を参考に各項目について評価してください。
1点：ほとんど満たしていない
2点：満たしていない箇所が目立つ
3点：ある程度満たしているが、改善すべき箇所がある。平均
4点：大半を満たしている
5点：秀でている

				①課題要因の整理、研究目的	②SDGs項目の関連づけの明確さ	③社会貢献度	④完成度	合計点
学籍番号	氏名	指導教官	タイトル	各テーマにかかる課題の要因の整理のレベル、研究目的の明晰さ（着目点の迫真性）	申請書のアピールポイント（SDGs項目）と本文記述の関連づけにおけるもってもらしさ	調査結果のSDGs的な展開可能性、射程（記述の有無を問わない）	卒業研究としての調査、論考の完成度	
4214055	堀松 星翔	大越絵実加	中高生を対象とした薬学的な概念形成を図る化学実験教材の開発とプログラムの実践的検証					
4215037	竹内啓太郎	福井雅之	Quercetinは肺癌細胞の増殖を抑制する					
1117050	小柴圭太	松本大吾	地方で行う先進的な学校教育の一考察：インドネシア2校と比較して					
1117128	ワイバゴビンダ	佐々木豊志	日本とドイツのエネルギー政策の違い					
1117033	釜薙麻侑花	森宏之	食品ロスの現状と課題					

5点満点で以下の尺度を参考に各項目について評価してください。
1点：ほとんど満たしていない
2点：満たしていない箇所が目立つ
3点：ある程度満たしているが、改善すべき箇所がある。平均
4点：大半を満たしている
5点：秀でている

学籍番号	氏名	指導教官	タイトル	①課題要因の整理、研究目的 各テーマにかかる課題の要因の整理のレベル、研究目的の 明晰さ（着目点の迫真性）	②SDGs項目の関連づけの明確さ 申請書のアピールポイント (SDGs項目)と本文記述の関 連づけにおけるもっともらし さ	③社会貢献度 調査結果のSDGs的な 展開可能性、射程（記 述の有無を問わない）	④完成度 卒業研究としての調 査、論考の完成度	合計点
4214055	堀松 星翔	大越絵実加	中高生を対象とした薬学的な概念形成を図る化学実験教材の開発とプログラムの実践的検証	3	3	3	4	13
4215037	竹内啓太郎	福井雅之	Quercetinは肺がん細胞の増殖を抑制する	4	2	4	4	14
1117050	小柴圭太	松本大吾	地方で行う先進的な学校教育の一考察：インドネシア2校と比較して	3	3	3	3	12
1117128	ワイバゴビンダ	佐々木豊志	日本とドイツのエネルギー政策の違い	3	3	3	3	12
1117033	釜蒔麻侑花	森宏之	食品ロスの現状と課題	4	3	3	4	14

5点満点で以下の尺度を参考に各項目について評価してください。
1点：ほとんど満たしていない
2点：満たしていない箇所が目立つ
3点：ある程度満たしているが、改善すべき箇所がある。平均
4点：大半を満たしている
5点：秀でている

堀松 星翔	13
竹内啓太郎	14
小柴圭太	12
ワイバゴビンダ	12
釜蒔麻侑花	14

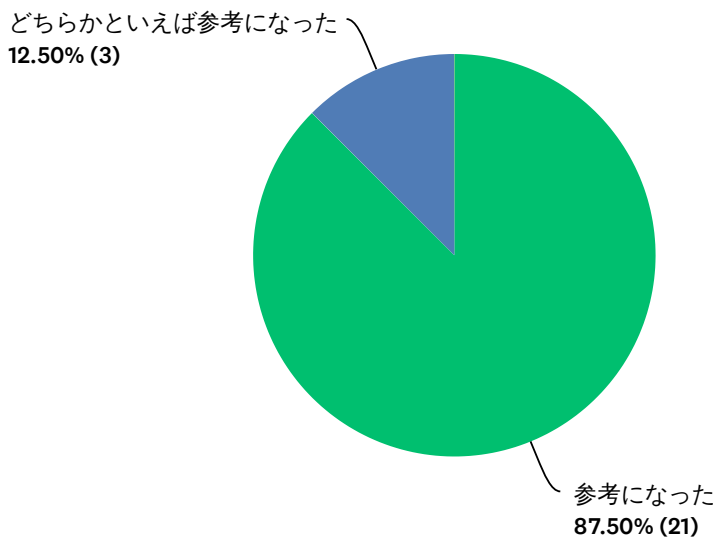
10	19	15	15	72
10	12	12	12	60
18	18	13	14	75
13	15	17	12	69
16	17	15	15	77

受賞区分	学籍番号	氏名	指導教官	タイトル
最優秀賞	1117033	釜蒔 麻侑花	森宏之	食品ロスの現状と課題
優秀賞	4214055	堀松 星翔	大越絵実加	中高生を対象とした薬学的な概念形成を図る化学実験教材の開発とプログラムの実践的検証
優秀賞	1117050	小柴 圭太	松本大吾	地方で行う先進的な学校教育の一考察：インドネシア2校と比較して
佳作	1117128	ワイバ ゴビンダ	佐々木豊志	日本とドイツのエネルギー政策の違い
佳作	4215037	竹内 啓太郎	福井雅之	Quercetinは肺がん細胞の増殖を抑制する

8. 第7回勉強会アンケート結果

Q1 本日の勉強会のテーマと内容は参考になりましたか。以下の選択肢の中から最も当てはまるものを一つ選んでください。

Answered: 24 Skipped: 1



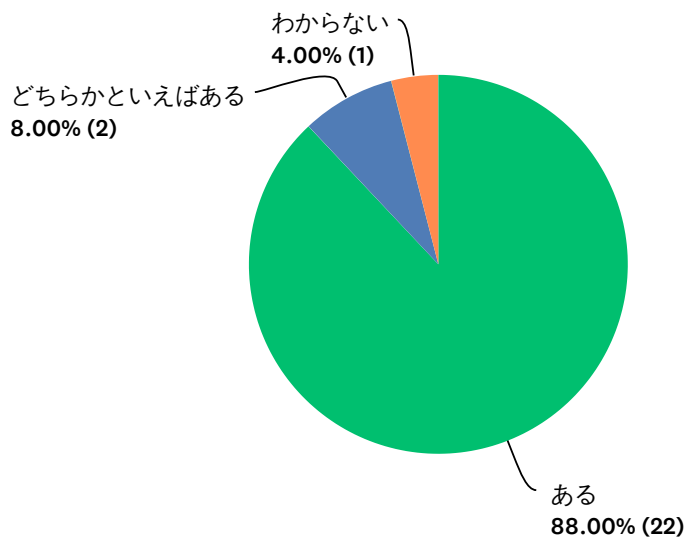
ANSWER CHOICES	RESPONSES	
参考になった	87.50%	21
どちらかといえば参考になった	12.50%	3
どちらかといえば参考にならなかった	0.00%	0
参考にならなかった	0.00%	0
TOTAL		24

青森大学SDGs研究センター第7回勉強会「野外の遊びと学びの接点を探る」に関する参加者アンケート

#	上記選択の理由等について、以下の欄に補足していただけると幸いです。	DATE
1	野外での体験の「重要性」については、参加者の中で認識が共有できたように思います。その一方で、体験をどのような「方法」で学びに結びつけるかについては、もう少し突っ込んだ議論が必要のように思いました。	3/1/2021 5:05 PM
2	雪を使った観光資源の全体感をつかむことができた。また、雪があってもイグルーやアクティビティを催すことのできる条件が多くないように感じた。	2/23/2021 11:33 PM
3	テーマもさることながら、大学だけでなく、高校や通信制の教職員が参加した企画だったので、教育の質向上に関する様々な考えや課題を学び合うことができた。青森大学ならではの教育サービスの向上を図って欲しい。	2/23/2021 4:18 PM
4	野外の遊びから学びを得るという観点が面白いと思った。	2/23/2021 1:17 PM
5	学生が教室の外で学ぶことの大切さについて、新たな視点からの理解が深まるとともに、多くの人たちがこの活動に携わっていることに勇気づけられた。	2/22/2021 5:57 PM
6	家事都合により参加できずに申し訳ありません。	2/22/2021 4:42 PM
7	自身の体験及び他の方々から体験されている様子を見聞きした上で、正課内外への展開について考えることができたため	2/22/2021 4:04 PM
8	青森の雪という素晴らしい自然を生かしたイグルーや雪板、スノーハイクを実際に体験することができ、この自然を生かした遊びを本学の学生が学ぶことによって、雪に対する価値観が変わるのではないかと感じた。	2/22/2021 1:06 PM
9	運動不足解消、ストレス解消、気兼ねなく実行できるのが魅力的であった。	2/22/2021 11:00 AM
10	雪の利用は、青森県の特徴として認識されやすい。	2/22/2021 10:34 AM
11	Cゾーンを超える。ストレッチゾーン、パニックゾーン等、今後の指導に生かしていきたいと思えます。	2/22/2021 9:59 AM
12	青森ならではの環境や広い意味での資源を大学での教育活動にどのように活用するかを考える非常に良い機会となりました。	2/22/2021 9:47 AM
13	学生の可能性を見つけるために教室のドアの外に出ることは重要だと思った。	2/22/2021 9:42 AM
14	午前中参加できなかったので、申し訳ありません。	2/22/2021 8:38 AM
15	青森大学の学内をフィールドとして、アクティブラーニングの在り方等について学ぶことができ、とても参考になりました。	2/21/2021 4:34 PM
16	オンラインなどですべてが成り立つと思いがちですが、違った意見を収集する上では、とても参考になりました。ただし、各個人より価値観が異なるので、その辺をどのような仕組みづくりができるかが重要と感じました。	2/21/2021 10:21 AM
17	課題を見つける力その力を見つけやすくなる野外授業などで興味を持たせる授業はとてもいい	2/20/2021 6:44 PM
18	体験活動が必要な理由などを知ることができたため。	2/20/2021 6:11 PM
19	教育に携わるものとして、大変参考になることがありました。どうしても室内で晩学に励むことを勧めることが多いので、外に出て「非日常」を経験させるという発想はありませんでした。	2/20/2021 5:49 PM

Q2 スノーハイクや雪板、イグルーなど、青森の気候風土に沿った野外遊びの教育的効果に対する貴方の考えについて、以下の選択肢の中から当てはまるものを一つ選んでください。

Answered: 25 Skipped: 0



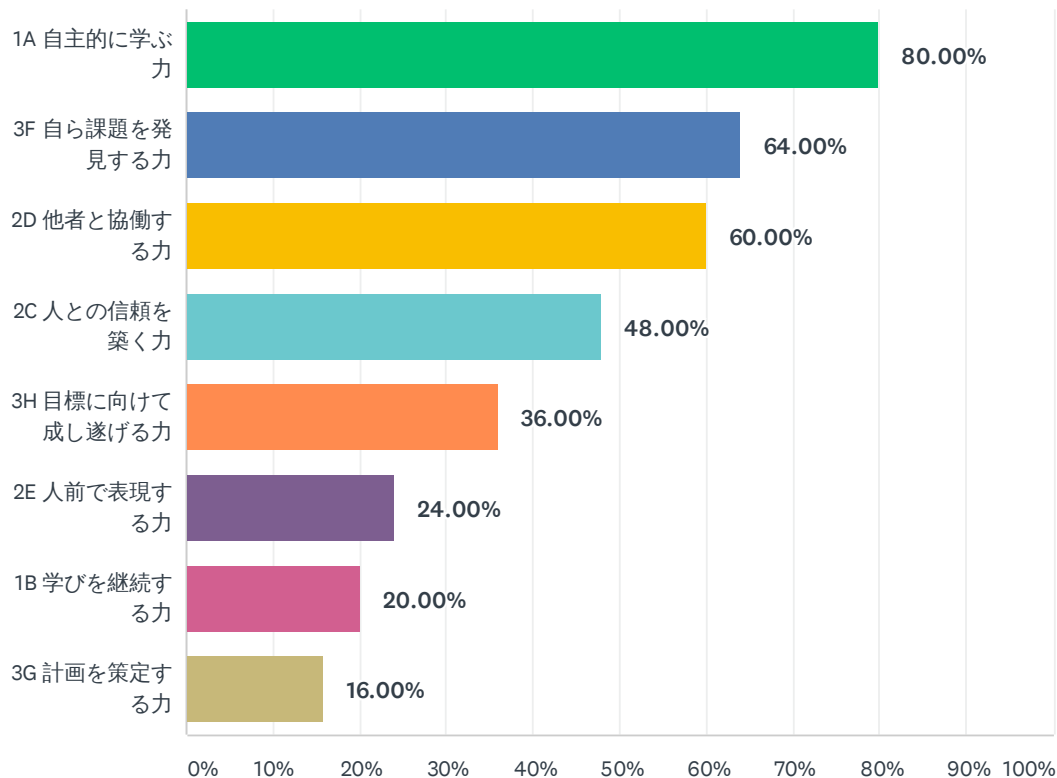
ANSWER CHOICES	RESPONSES	
ある	88.00%	22
どちらかといえばある	8.00%	2
どちらかといえば無い	0.00%	0
無い	0.00%	0
わからない	4.00%	1
TOTAL		25

青森大学SDGs研究センター第7回勉強会「野外の遊びと学びの接点を探る」に関する参加者アンケート

#	上記選択の理由などについて、可能な範囲で補足してください。	DATE
1	イグルーは協働作業となることやハードルの低いスノーハイク、雪板はその後の雪上活動のきっかけとすることができると思う。	2/23/2021 11:33 PM
2	仲間と共に楽しみながら、小さな失敗や成功を積み重ねることできるので、人間形成にも役に立つと思った	2/23/2021 4:18 PM
3	自然から学ぶことは多い。座学では学びづらい課題解決能力や自身の感情のコントロール、リスクマネジメントなどを学ぶ事が可能になると考えています。また、自然の中でチームで協力して行動するのも様々な学びの要素がある。チームで役割を持って助け合い、課題を達成すると大きな達成感が得られます。	2/23/2021 3:30 PM
4	実際にやって見なければ掴めない感覚的なものを養えると思うから。	2/23/2021 1:17 PM
5	小学校⇒青森市管轄⇒スキー教室あり（高学年はモヤヒルズ利用） 中学校⇒青森市管轄⇒スキー教室等ほとんど無し 高等学校⇒青森県管轄⇒特定の学校のみ行事あり スキーに限ってもこのような状態で、スキー人口減少と嘆いているが、当然である。幼少時代に魅力を植え付けられていなく、機会もないことがあるからだ。気候風土に沿うとするならば、取り組む一歩に補助があり、敷居を下げる事から始めるべきです 例：学生証提示で青森県内のスキー場はリフト等乗り放題 スキー場は利用者が多くても少なくとも搬器を動かしていないとならないことから、維持経費は一緒ながら他収入を見込む考え。（食堂やイベント等） 親世代は、子世代に掛かる経費が減少するので、連れ立って行きやすくなる。	2/22/2021 4:42 PM
6	普段の生活の延長線上で捉えることができる	2/22/2021 4:04 PM
7	イグルーなど出来上がったものを参考にすが、それにとらわれてしまう部分が見受けられる。“遊び”の一環として行うならばなるべく目線は同じにしたほうがこの遊びの楽しみ方だと思う。	2/22/2021 11:00 AM
8	薬剤師国家試験が毎年2月にあるため、冬のイベントを管理できる教員の確保が難しい。	2/22/2021 10:34 AM
9	スノーハイクは老若男女問わず良いと感じた。	2/22/2021 9:59 AM
10	雪との多面的な関わりをもつことで、排除するもの、邪魔なものとしての雪という先入観から自由になれるのではないのでしょうか。	2/22/2021 9:47 AM
11	雪の性質や青森の気候や自然を考えるきっかけとなると思う。課題を見つけさせるのは難しいという意見があったが、教える側が学生に課題を見つけるための選択肢を与えるのは必要であるし、教育的にも効果的だと思う。	2/22/2021 9:42 AM
12	青森県人は雪をマイナスに考えていますが、スノーハイクなどの道具やイグルーなどの遊びの要素を取り入れることで、プラスに考えることができるため。	2/22/2021 8:38 AM
13	雪をいやな存在ではなく、「楽しい」「活用できる」素材として活用することで、特に県外の雪のないところから来ている学生や雪にふれたことのない国から来た留学生にとって、これらの青森の気候風土に沿った野外活動を通じて、教育効果が期待できるものと考えます。	2/21/2021 4:34 PM
14	個人的な意見としては、何事にも興味を持つ保育園・幼稚園／小学生／中学生などの教育に盛り込めれば良いと思っています。大学生はすでに個人の性格がかなり形成されている部分もあり、幅広い層に興味を持たせるのは難しいが、気軽に遊べる環境（道具も含め）が整っていれば可能性はあると思いました。	2/21/2021 10:21 AM
15	自然を相手にすると予測不可能なことに対応する能力がつくとします。また、雪に対する抵抗が少なくなることによって、都心部への人口流出も軽減されるかもしれないと思います。	2/20/2021 6:54 PM
16	今まで自分が体験したことがないことについて知ることにより視野が広がっていくため。	2/20/2021 6:11 PM
17	具体的にはありませんが、あるのではないかと思います。	2/20/2021 5:49 PM

Q3 青森大学のルーブリックでは、個々の学習意欲やコミュニケーション力など知性にかかる能力を「生涯をかけて学び続ける力」と「人とつながる力」、「自分自身を見据え、確かめる力」の三つの観点に分けています。本日体験した野外アクティビティと講話を通して、学生が育むと思われる力について、下記のルーブリックの中で、当てはまるものを三つ選んでください。

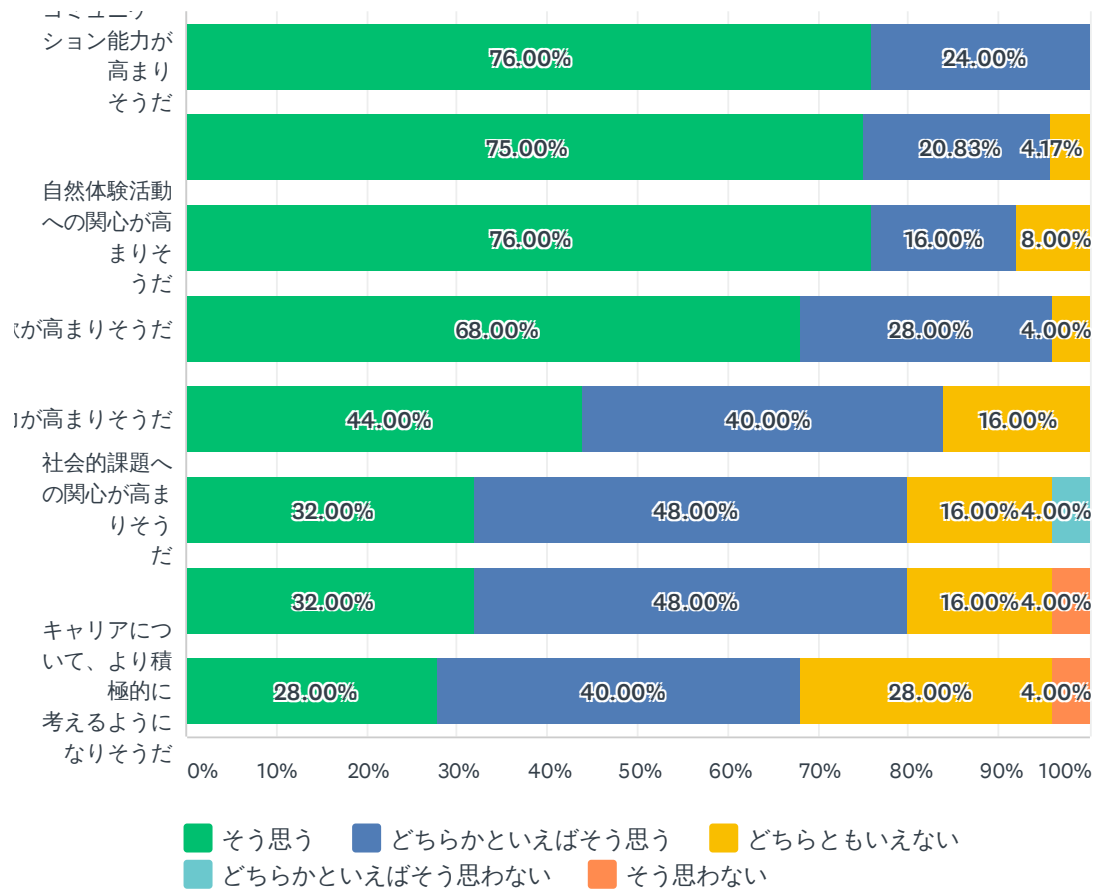
Answered: 25 Skipped: 0



ANSWER CHOICES	RESPONSES (%)	Count
1A 自主的に学ぶ力	80.00%	20
3F 自ら課題を発見する力	64.00%	16
2D 他者と協働する力	60.00%	15
2C 人との信頼を築く力	48.00%	12
3H 目標に向けて成し遂げる力	36.00%	9
2E 人前で表現する力	24.00%	6
1B 学びを継続する力	20.00%	5
3G 計画を策定する力	16.00%	4
Total Respondents: 25		

Q4 野外の遊びの効果に関する以下の各項目について、今日の経験等を踏まえて、最も当てはまるものをそれぞれ一つ選んでください。

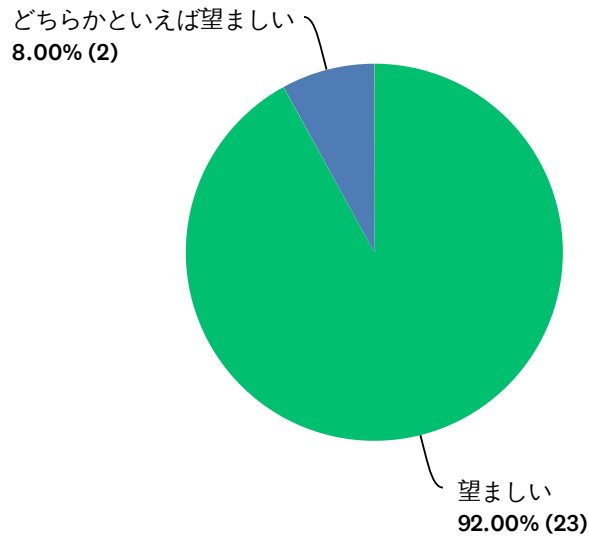
Answered: 25 Skipped: 0



	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	TOTAL	WEIGHTED AVERAGE
コミュニケーション能力が高まりそう	76.00% 19	24.00% 6	0.00% 0	0.00% 0	0.00% 0	25	1.24
青森大学の教育サービスの向上につながりそう	75.00% 18	20.83% 5	4.17% 1	0.00% 0	0.00% 0	24	1.29
自然体験活動への関心が高まりそう	76.00% 19	16.00% 4	8.00% 2	0.00% 0	0.00% 0	25	1.32
学習意欲が高まりそう	68.00% 17	28.00% 7	4.00% 1	0.00% 0	0.00% 0	25	1.36
身体能力が高まりそう	44.00% 11	40.00% 10	16.00% 4	0.00% 0	0.00% 0	25	1.72
社会的課題への関心が高まりそう	32.00% 8	48.00% 12	16.00% 4	4.00% 1	0.00% 0	25	1.92
環境保全活動への関心が高まりそう	32.00% 8	48.00% 12	16.00% 4	0.00% 0	4.00% 1	25	1.96
キャリアについて、より積極的に考えるようになりそう	28.00% 7	40.00% 10	28.00% 7	0.00% 0	4.00% 1	25	2.12

Q5 本学の教育サービスの一環として、これらの野外活動の用具と利用方法などの情報を学生に提供することについて、以下の選択肢の中から貴方の見解に最も近いものを一つ選んでください。

Answered: 25 Skipped: 0



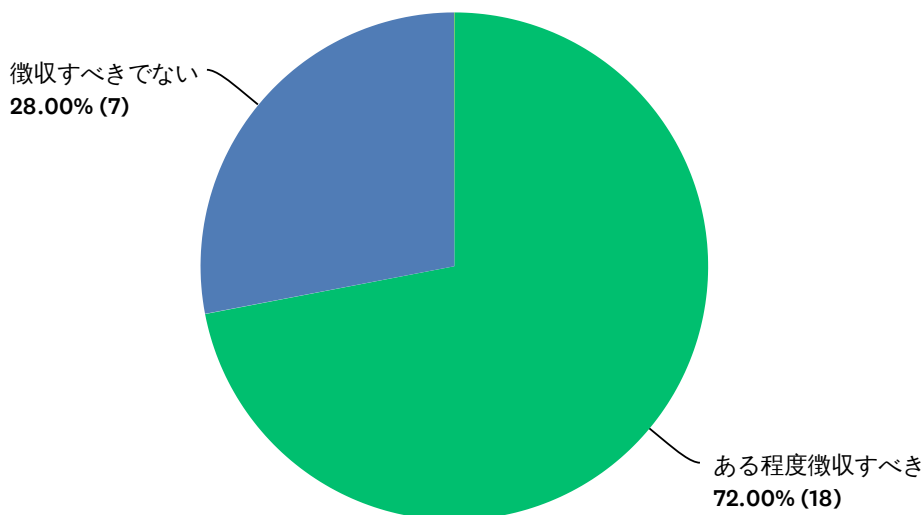
ANSWER CHOICES	RESPONSES	
望ましい	92.00%	23
どちらかといえは望ましい	8.00%	2
どちらかといえは望ましくない	0.00%	0
望ましくない	0.00%	0
わからない	0.00%	0
TOTAL		25

青森大学SDGs研究センター第7回勉強会「野外の遊びと学びの接点を探る」に関する参加者アンケート

#	上記を選んだ理由等について、以下の欄に適宜補足してください。	DATE
1	用具と方法を充実させることで多くの関心を集めることができると思う。また、現在近隣の方々と様々な活動を行う個人・団体とも連携することで教育の領域を拡大できると考えた。	2/23/2021 11:33 PM
2	クラブ・サークル以外の学生にとっての正課外教育の可能性が広がる。自己責任やリスクマネジメントの感覚を養う機会にもなる	2/23/2021 4:18 PM
3	大学のサービスの一環として安くアウトドア用品の貸し出しをするべきだと考えています。道具を貸し出すだけでなく、アウトドア活動を教える人や、どこに行けば何が出来るなどの情報も提供できたら充実したサービスになると思います。	2/23/2021 3:30 PM
4	学生が知ることが第一だと考えるため、情報提供は必要だと思う。	2/23/2021 1:17 PM
5	質問内容が、「用具を提供するとともに、その利用方法の情報を提供する。」ことなのか、「用具の情報を提供するとともに、その用具の利用方法の情報も提供する。」ということなのか曖昧。おそらく後者だと思うが、そうであれば、その用具を使って体験する研修会の提供、その用具を借りる場合の便宜の提供（青大性割引のようなもの）などがセットになっていなければ、ただの情報提供に終わってしまうのではないかと思う。	2/22/2021 5:57 PM
6	説明書付きの道具は、説明書通りにしか使われなくなる。道具のみを与え、利用方法の模索や応用、道具の改良等に目が向く教育であってほしい。	2/22/2021 4:42 PM
7	「雪」という青森特有の自然のものを様々な道具を使用して体験することにより、学生の視野が広がる可能性があるため、是非授業の一環として取り入れていけるとよいと思う。	2/22/2021 1:06 PM
8	青森大学だからこそ、学べる要素を含んでいる。	2/22/2021 11:00 AM
9	小規模trialで、学生や生徒（高校生）の参加状況を調べて、予算の規模を段階的に検討する方が、「特色ある教育の継続」を考える上で重要と思う。	2/22/2021 10:34 AM
10	アクティブラーニングとして有効と考えるため	2/22/2021 8:38 AM
11	野外活動に触れたことのない学生が多いように見受けられるため、野外活動の用具と利用方法などの情報を学生に提供することは有益かと思われます。	2/21/2021 4:34 PM
12	興味のあるないに関わらず、教育サービスとして実施するのであれば、平等に情報発信はすべきと思います。弊社では様々なアクティビティ商品を販売しておりますが、実際に体験に来る大学生のほとんどは弘前大学の学生で、青森市の大学からの体験者はほとんどいません。興味があって情報収集し行動に移すという積極性が、弘前大学生にあるからなのかは分かりませんが、弊社では弘前地区／弘前大学に宣伝したことはなく、むしろ青森市内をベースに宣伝していてもこのような結果になるのが非常に疑問に思っています。そもそも外遊びに興味がないからなのか？	2/21/2021 10:21 AM
13	知らなかった学生がそれら利用する活動に参加する可能性がでてくるため。	2/20/2021 6:11 PM
14	外で遊ぶことを通して、違う自分を発見するきっかけになるかと思います。	2/20/2021 5:49 PM

Q6 今回のスノーハイクや雪板などの野外遊びの道具を学生たちに広く提供する場合、レンタル料を徴収することに対するあなたの考えをお聞かせください

Answered: 25 Skipped: 0



ANSWER CHOICES	RESPONSES	
ある程度徴収すべき	72.00%	18
徴収すべきでない	28.00%	7
わからない	0.00%	0
TOTAL		25

青森大学SDGs研究センター第7回勉強会「野外の遊びと学びの接点を探る」に関する参加者アンケート

#	上記を選んだ理由について、以下の欄に補足してください。	DATE
1	道具類は正課の授業だけでなく、正課外でも気軽に利用できるようにすべきであり、正課外での利用には一定の料金徴収が必要だと思います。金額としては、通常の使用による損耗を償却できる程度の金額(1日あたり100円程度)が想定されます。例)スノーハイク43,000円、耐用年数5年、年間の最大使用日数100日と仮定すると、 $43000 \div 5 \div 100 = 86$ 円/日 ≈ 100 円/日	3/1/2021 5:05 PM
2	講座や体験と自主的な遊びを金額等により区別する必要があると思う。	2/23/2021 11:33 PM
3	少しで良いので徴収する方が教育効果があると思う	2/23/2021 4:18 PM
4	雪板、スノーシューなどの比較的安価で誰でも利用可能な道具は無料で貸し出し、スノーハイク、スキー、ボード、sup、釣竿、カヤック、テントはメンテナンスを行うため、多少お金を払ってレンタルするといいいのではないかと思います。	2/23/2021 3:30 PM
5	より多くの学生に体験してほしいから。	2/23/2021 1:17 PM
6	前項のような理由からレンタル料が足かせとなり利用促進に結びつかなくなるのは本末転倒である。	2/22/2021 4:42 PM
7	レンタル料を徴収することにより、参加学生が少なくなってしまうことがあるので、可能であれば、授業の教材費等で賄うことで、多くの学生に体験できる機会になればと思う。	2/22/2021 1:06 PM
8	お金を支払うことによってこの遊びの価値観を認識してもらうため。	2/22/2021 11:00 AM
9	「障害保険料、レンタル費用など」の一部を負担させるのは、アクティビティが、「相手をケガさせる、無茶をすると自然破壊の可能性」を意識させる(危機意識)うえで、教育効果があると思う。	2/22/2021 10:34 AM
10	モノを大切にする意識の醸成、製作者(企業)の持続可能性を担保するためにも、一定程度の負担はあっても良いと考えます。	2/22/2021 9:47 AM
11	お金を払うことで道具を丁寧に扱うと思うから。	2/22/2021 9:42 AM
12	長く継続するためには、実費程度の徴収は必要と考える。	2/22/2021 8:38 AM
13	自ら自主的に学びを体験する姿勢として、レンタル料等、少額でいいので徴収することで、道具を大切に使う姿勢や活動を通しての学びへのキッカケとなるかと思われます。	2/21/2021 4:34 PM
14	少なからず(学生の生活レベルに合わせた料金)料金は徴収すべきと思っています。お金を支払ってくれる人は、そのものに価値があると認めての行為。最初は体験会などで無料で提供し、そのあとは興味のある人が、他の人にも薦めるような構図が望ましいのではないかと思います。	2/21/2021 10:21 AM
15	体験してみたいのに経済的な理由でできない学生がいるかもしれないからです。	2/20/2021 6:54 PM
16	スノーハイクなどを買う人が減ってしまうと考えたため。	2/20/2021 6:11 PM
17	学生に対しては、破損以外であれば徴収しないほうがいいと思います。	2/20/2021 5:49 PM

Q7 雪板やスノーハイクなど、野外の遊び道具を教育サービスの一環として学生らに提供する場合、維持管理や安全管理、補償などの課題が伴いますが、それぞれのお立場から重要と思われる事柄を三つほど以下の欄に記載していただけると幸いです。

Answered: 25 Skipped: 0

ANSWER CHOICES	RESPONSES	
1)	100.00%	25
2)	96.00%	24
3)	92.00%	23

#	1)	DATE
1	教育サービスとしての評価 (学生の活動実績を成績等として評価するのか。する場合の評価基準は)	3/1/2021 5:05 PM
2	安全管理	2/24/2021 4:23 PM
3	該当アクティビティを行うことのできる場の情報提供	2/23/2021 11:33 PM
4	安全管理	2/23/2021 4:18 PM
5	道具を利用する学生とレンタル品に対する保険の加入	2/23/2021 3:30 PM
6	安全管理	2/23/2021 1:17 PM
7	遊び道具を使える場の創設または、場へのアクセスの支援	2/22/2021 5:57 PM
8	安全管理	2/22/2021 5:40 PM
9	道具の所有・使用权原・貸出担当部署の明確化	2/22/2021 4:42 PM
10	物品管理や安全管理を行う (学生) スタッフの確保	2/22/2021 4:04 PM
11	安全管理 (適切な使用方法の説明やケガの予防対策)	2/22/2021 1:06 PM
12	雪板で止まるのには転んだほうがいいこと。	2/22/2021 11:00 AM
13	大学管理より、民間委託のレンタル形式を思案 (維持費の負担が大きい)	2/22/2021 10:34 AM
14	安全保障	2/22/2021 10:15 AM
15	安全	2/22/2021 9:59 AM
16	安全面の配慮	2/22/2021 9:47 AM
17	安全管理の研修会を学生主体で開く → 自ら学ぶ力と安全意識の向上	2/22/2021 9:42 AM
18	道具の維持管理	2/22/2021 8:38 AM
19	学生への安全管理と事前安全教育	2/21/2021 4:34 PM
20	安全管理は非常に重要 (冬山の危険性)	2/21/2021 10:21 AM
21	学生の安全面の確保	2/20/2021 8:40 PM
22	安全管理	2/20/2021 6:54 PM
23	興味を持たせる	2/20/2021 6:44 PM
24	安全管理	2/20/2021 6:11 PM
25	維持費を捻出すること	2/20/2021 5:49 PM

青森大学SDGs研究センター第7回勉強会「野外の遊びと学びの接点を探る」に関する参加者アンケート

#	2)	DATE
1	安全対策(安全講習の受講を条件付けるなど。また、学生が入学時に加入している保険の適用条件を確認する必要あり)	3/1/2021 5:05 PM
2	実施場所近辺の住民の理解	2/24/2021 4:23 PM
3	フィールドやノウハウの情報提供	2/23/2021 4:18 PM
4	安全にアウトドアを楽しむ為に地元ガイドやアウトドア指導者から野外活動を学ぶ。アウトドア講習会、体験会の実施	2/23/2021 3:30 PM
5	維持管理	2/23/2021 1:17 PM
6	サービスを受けて活動した学生から一般学生に対して楽しさを伝える機会の創出	2/22/2021 5:57 PM
7	指導者の確保	2/22/2021 5:40 PM
8	使用後の整備・修正 担当者の明確化、伴う費用の明確化	2/22/2021 4:42 PM
9	利用ルールの作成、利用前のルール確認	2/22/2021 4:04 PM
10	継続的に行える環境作り	2/22/2021 1:06 PM
11	天候状況の把握をしたほうがいい。	2/22/2021 11:00 AM
12	傷害保険は必要。高大接続の教育の場合は、大学・高校側でそれぞれ話し合う。	2/22/2021 10:34 AM
13	経費	2/22/2021 10:15 AM
14	維持管理費(レンタル代金)	2/22/2021 9:59 AM
15	保険への加入	2/22/2021 9:47 AM
16	安全管理マニュアルを作り、かかわる教職員・学生が統一の知識を持ち、安全・健康管理、事故防止・対応に努める	2/22/2021 9:42 AM
17	損害保険の加入	2/22/2021 8:38 AM
18	誰が維持管理するのか(学生?職員?教員?)	2/21/2021 4:34 PM
19	道具の維持管理、運営含め専門業者に委託するのが良い	2/21/2021 10:21 AM
20	維持管理にかかる費用	2/20/2021 8:40 PM
21	維持管理	2/20/2021 6:54 PM
22	安全	2/20/2021 6:44 PM
23	維持管理	2/20/2021 6:11 PM
24	定期的に勉強会を行うこと	2/20/2021 5:49 PM

青森大学SDGs研究センター第7回勉強会 「野外の遊びと学びの接点を探る」に関する参加者アンケート

#	3)	DATE
1	管理運営業務への学生参加	3/1/2021 5:05 PM
2	継続が可能かどうか(金銭面等)	2/24/2021 4:23 PM
3	品目の維持管理	2/23/2021 4:18 PM
4	アウトドア仲間作り。(色んな人と繋がれば遊びの可能性が広がると思います)	2/23/2021 3:30 PM
5	補償	2/23/2021 1:17 PM
6	安全対策、補償一式	2/22/2021 5:57 PM
7	維持管理	2/22/2021 5:40 PM
8	学生活動内保険適用の範囲と共通理解をする機会の提供	2/22/2021 4:42 PM
9	破損や事故に備えた保険	2/22/2021 4:04 PM
10	維持管理 (道具の保管場所や劣化したものの取り換え等)	2/22/2021 1:06 PM
11	スノーハイクの靴の設置は必ず担当者が確認することが望ましい。	2/22/2021 11:00 AM
12	学生側の主体的な行動 (教員不在時の課外活動) によるケガ・損傷の管理をどうするか。	2/22/2021 10:34 AM
13	維持管理	2/22/2021 10:15 AM
14	維持管理	2/22/2021 9:59 AM
15	維持管理のルールづくりと遵守	2/22/2021 9:47 AM
16	海辺のライフガードのように、活動する際は常に専門の知識を持った人がついている必要がある。	2/22/2021 9:42 AM
17	参加者の確保	2/22/2021 8:38 AM
18	活動保険を必ずかけること	2/21/2021 4:34 PM
19	担当部署	2/20/2021 8:40 PM
20	車両支援	2/20/2021 6:54 PM
21	資金	2/20/2021 6:44 PM
22	数	2/20/2021 6:11 PM
23	これを利用した勉強会を行うこと	2/20/2021 5:49 PM

Q8 今回の勉強会のテーマ「野外の遊びと学びの接点」や「正課外教育」「キャンパスの有効活用」などに関するご意見やお考え、ご提案について、以下の欄にご記入いただけると幸いです。

Answered: 20 Skipped: 5

青森大学SDGs研究センター第7回勉強会「野外の遊びと学びの接点を探る」に関する参加者アンケート

#	RESPONSES	DATE
1	教職員の福利厚生や地域住民へのサービスだけでなく、モヤヒュッテや新湯、花鳥溪谷など有休施設の活性化にもつながるのでは	2/23/2021 4:18 PM
2	課外活動を活発にする様になってから成績が上がりました。大学で学ぶことも大切ですが、自分の興味のある事を探求すると学習意欲が向上すると思います。	2/23/2021 3:30 PM
3	気軽に学生が自然と親しめる環境を整えていければ良いと思う。	2/23/2021 1:17 PM
4	「雪板やスノーハイクを教育サービスの一環として学生に提供する。」という精度ができたことを前提に。あおりんの助成事業の中に、「雪板、スノーハイクを素材、テーマとした事業に関しては、貸出料を無料とする。」という特別枠を設け、この活用を奨励する。	2/22/2021 5:57 PM
5	失敗を多く経験することは生きる力を身につけるうえでもやはり重要で、正課外教育の充実がカギなのでは？と感じました。	2/22/2021 5:40 PM
6	経営⇒所有欲をそその雪板の企画立案と製作、競技会運営 社会⇒他のコミュニティー等に広く頒布する為には・・・をゼミ単位で競争 ソフト⇒雪板デモpv等を制作し、社会へ提供 薬⇒雪板使用者と、非使用者の体と与える影響力調査、競技会データ取得と救護等 雪板のみで、学部横断的な取り組みは出来ないか？という事だけ考えてみました。ご参考になるかどうかW	2/22/2021 4:42 PM
7	正課内に組み込んで専門分野の活用につなげる。体験とセットで遊び道具の活用プランを考えさせ、コンテストを行うなど。	2/22/2021 4:04 PM
8	2月以降、学生がキャンパスに訪れる機会も少ないので、地域の小学生や住民にこのような野外の遊びを提供できるプログラムをして行けることによって地域貢献にもつながっていくと思う。	2/22/2021 1:06 PM
9	円卓で討論してみるのはいかがでしょうか。	2/22/2021 11:00 AM
10	SDGs研究セのPDCAサイクルに活用できるようにする。①高大連携、社会に開かれた教育課程のエビデンスをどうまとめるか。(大学認証評価) ①-1 (パフォーマンス評価) ルーブリック評価trial導入 ①-2 学生・生徒アンケート調査によるニーズ分析 ①-3 卒後の大学帰属意識調査(青森県定住率など)	2/22/2021 10:34 AM
11	地域を巻き込む事業、とてもいいと思います。非日常的な体験をなかなかすることができないと思うので、たくさんやってほしいです。	2/22/2021 10:15 AM
12	キャンパスの有効活用につながればよいと思っています。	2/22/2021 9:59 AM
13	・一つの案として、LFVのように子供たちと活動している団体に情報を提供してみる。・学びとの接点という観点からは、利活用の方法などを学生とともに考える(ゼミ活動等)というのはいかがでしょうか。	2/22/2021 9:47 AM
14	野外の遊びは青森大学の魅力と教育を伝えることができるため、オープンキャンパスで青森大学に入学を検討している学生に体験させたいと思った。	2/22/2021 9:42 AM
15	継続して実施していくことが重要と考えます。	2/22/2021 8:38 AM
16	学生へ遊びから学びを得るというのはとても有意義な機会手強化と考えます。また、キャンパスの冬の雪の有効活用とにぎわいや楽しさを学生へ提供できるのは大学としてあるべき姿かと思います。正課外教育で行うのもいいですが、正課内(例えば初年次教育など)でこのような取組みと授業の1コマでも使えれば、学生への自主的な学びへの啓発になるのではないかと思います。	2/21/2021 4:34 PM
17	個人的な意見ですが、社会に出てからの課題解決能力は、いかに様々なことを経験してきたか、また様々な知識を持っているか、知っているかだと思っていますが、何より「成功体験」ができるかだと思っています。野外の遊びで経験したことが、役立つのかは自分ではよく分かりませんが、少なくとも自分は非常に外遊びでの体験は役立っていると思っています。	2/21/2021 10:21 AM
18	非日常という意味で、正課外教育の場はどんどん学生に提供していくと良いと思います。また今日の勉強会のような様々な立場の方々が集まって、考えを共有できる場はとても貴重でした。学生にとっても大人と交流できる場だと思います。	2/20/2021 6:54 PM
19	自分が体験したことのない活動に参加することが様々なことに挑戦するきっかけになることを知ることができました。ありがとうございました。	2/20/2021 6:11 PM
20	今回の経験を通して、ちょっとしたものではありませんが、青森ならではの自然を利用した体験ができることが分かりましたので、八甲田や大自然に向かう前のイントロとして、この大学を活用すると良いかと思います。	2/20/2021 5:49 PM

Q9 最後に、本日の勉強会のテーマを含めて、青森大学ならびに青森山田学園ならではの教育の質向上に関する貴方のお考えやご提案について、以下の欄に自由に述べていただけると幸いです。

Answered: 19 Skipped: 6

青森大学SDGs研究センター第7回勉強会「野外の遊びと学びの接点を探る」に関する参加者アンケート

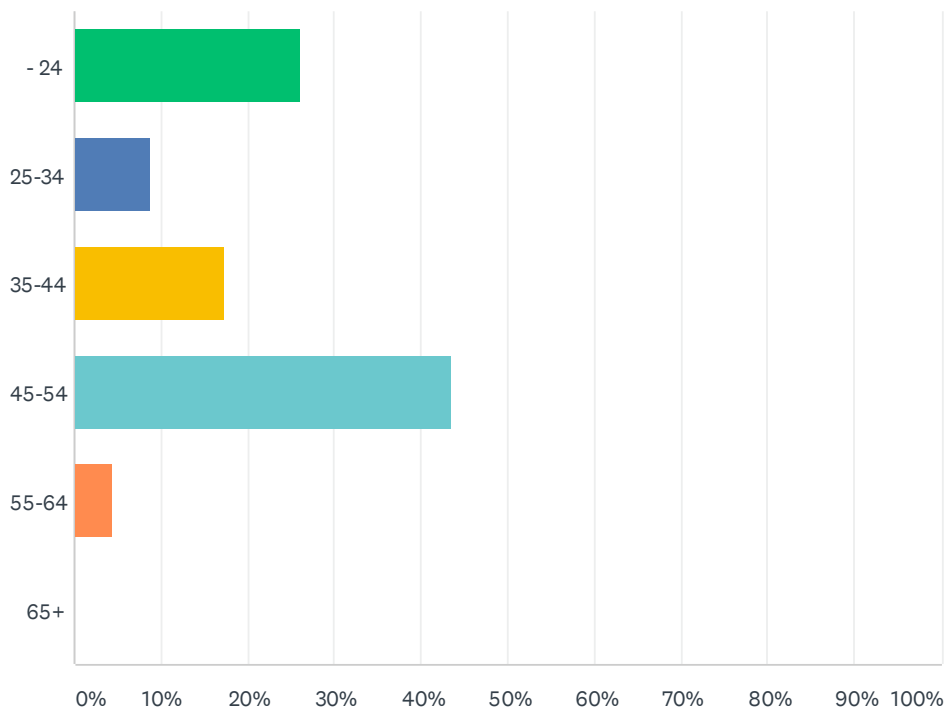
#	RESPONSES	DATE
1	大学の所有する多くの設備・環境を活かしてほしい。	2/23/2021 11:33 PM
2	東京やむつキャンパスなど目立つものだけでなく、女子トイレや学修支援、耐震など今いる学生の満足度・安全に直結する投資を行う風潮になって欲しい。	2/23/2021 4:18 PM
3	青森のフィールドを使った自然体験プログラムは何処にも真似できない物になると考えています。青森は海、川、里、山、湖など全てがコンパクトで優しい地形なので、多種多様に多くの人を受け入れるフィールドであると思います。	2/23/2021 3:30 PM
4	総合研究所（地域貢献センター）の事務職員を増員し、各先生方がサークル、ゼミ等の指導の一環として行っている地域貢献活動に関して、（担当の先生の了承が得られたものについては、）地域貢献センター主催という冠をつけてマスコミに報道されるようにしかければ、これに魅力を感じる高校生の入学が増え、大学が活性化すると思います。	2/22/2021 5:57 PM
5	貴重な体験の場をご提供いただきありがとうございました。特に午後の時間は勉強になりました。	2/22/2021 5:40 PM
6	前項のような取り組みが、やがて学校横断となり、結果的に地域貢献となるような方向を望みます。	2/22/2021 4:42 PM
7	多くの知識をもっている教職員がいる青森大学なので、様々な分野のセミナーが開講されることによって、学生だけではなく、教職員も参加することによって、教育の質がより高められると感じた。今回の勉強会に参加し、初めて雪板を体験したが、遊びの中で、慣れていない動きをすることによって、身体能力が向上し、さらに仲間と楽しくコミュニケーションを図れるとても良い教材になると感じた。	2/22/2021 1:06 PM
8	このテーマは“遊び”または“授業”の一環か、個々によっては様々だと思う。	2/22/2021 11:00 AM
9	まだ、高校にはパフォーマンス評価（ルーブリック評価）は、なじみがないようです。今後、青森大学の推薦入試の調査票として高校側が提出するパフォーマンス評価の導入を検討すると、「テストの点数」だけでない評価を考慮するエビデンスになると思う。（ただ、すべてall 高評価だと評価系そのものが第三者的に信頼されない可能性あり）	2/22/2021 10:34 AM
10	体育の授業の中に取り入れてみては？と思います。青森山田高校出身の私は、青森の特徴を生かしたスポーツをやらせてもらえませんでした。すべて、県外から来たスポーツコースの人たちがスキーやスケートをやっていたので…。普段の授業にある体育に取り入れればいいのかと思います。	2/22/2021 10:15 AM
11	冒険教育、体験教育、体験活動が本学園の教育の大きな柱の一つとして取り組んで行ければと思います。	2/22/2021 9:59 AM
12	元来、魅力というものは、突き詰めれば「人に宿るもの」と考えております。したがって、本学園の関係者各人が有している魅力を最大限発揮する、また発揮できるよう支援することが重要だろうと考えています。そのような意味で、今回参加させていただいた試みは、様々な専門領域を有する方々が参加されており、自由に、楽しそうに活動されている印象を受け、感銘を受けました。まさしく、特徴ある大学（学園）のコンテンツになると思っております。こうしたコンテンツを増やしていくことに成功したとき、唯一無二の選択される大学（学園）になれるのだと考えています。	2/22/2021 9:47 AM
13	学生の意見の中に、「大学に入って大人と話す機会が増えた」というのがあったが、大学は社会人になる準備する場と考えるので、学内外の大人とつながりコミュニケーションをとる機会を増やすことが必要だと思う。もちろんバイトでもそのような機会はあると思うが、大学は専門的な知識を持った人たちとのつながりを提供できる。	2/22/2021 9:42 AM
14	法人外部の方も含めて、定期的な勉強会や交流会を開催していくことが、教職員や学生への教育の機会提供につながっていくと思います。	2/22/2021 8:38 AM
15	青森大学および青森山田学園には、いろいろ活用できるフィールドがあります。活用されていない場所もたくさんあり、そこを有効活用しながら、学生の学びの視点と自主的に課題を解決する能力を養うキッカケを提供できるかと思われますので、まずは教職員がこれらの活動を体験した上で、正課内外教育へとつなげていければ、県内・県外の他大学と差別化できる取組みとなるのではないかと思います。また、青森山田学園には幼稚園、中学校、高等学校、高等学校専攻科、専門学校、大学、東京キャンパスといろいろな教育機関があるので、機関内接続や学園内の高大接続へのいいキッカケとなる活動になるのではないかと期待しており、それぞれに機関における教育の質向上につながるのではないかと考えます。	2/21/2021 4:34 PM
16	教職員が事実に基づいた結果から、現状把握をした上で課題解決のために共通認識を持つことが必要。	2/20/2021 8:40 PM
17	施設整備です。古い、寒い、Wi-Fiつながらない場所もあることを改善すれば学生のモチベーションも上がるのでは？と期待します。	2/20/2021 6:54 PM
18	体験活動を増やすことで学生が様々なことに挑戦する良いきっかけになるのではないかと考	2/20/2021 6:11 PM

えた。

19	このような勉強会を、教員研修の一環で行ってもよろしいのではないかと思います。	2/20/2021 5:49 PM
----	--	-------------------

Q10 貴方の年代 (無回答可)

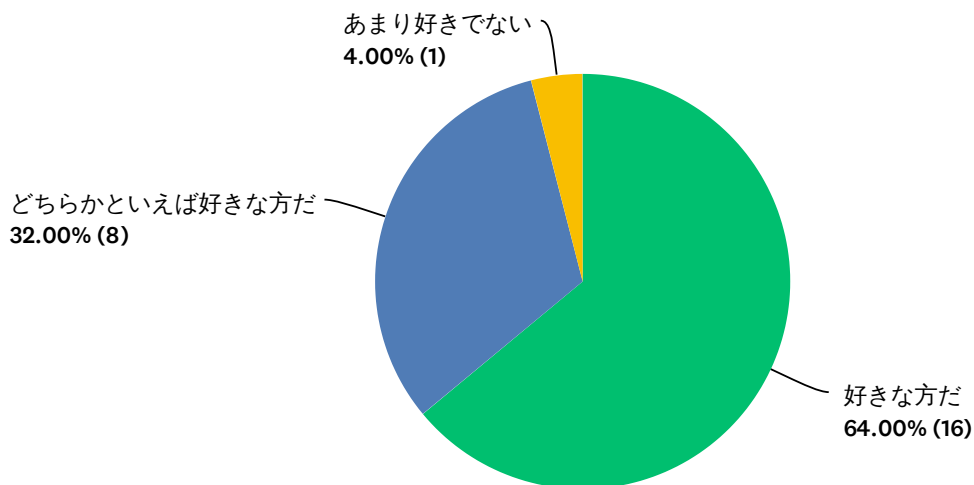
Answered: 23 Skipped: 2



ANSWER CHOICES	RESPONSES	
- 24	26.09%	6
25-34	8.70%	2
35-44	17.39%	4
45-54	43.48%	10
55-64	4.35%	1
65+	0.00%	0
TOTAL		23

Q11 ご自身は野外で時間を過ごすことが好きな方でしょうか？

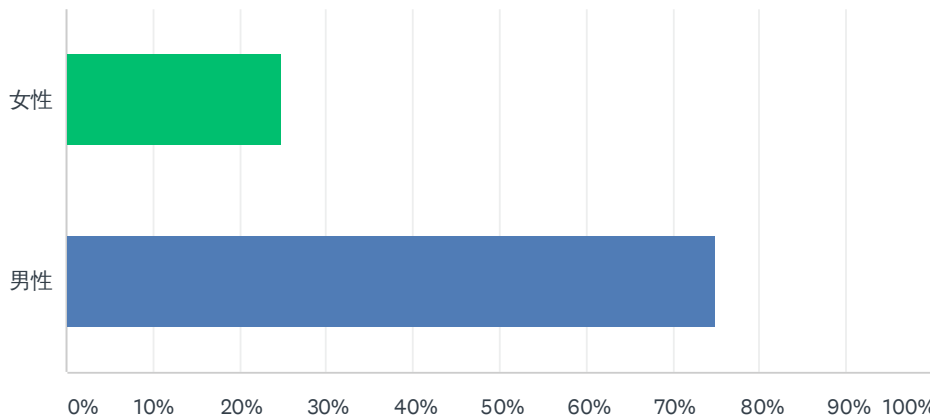
Answered: 25 Skipped: 0



ANSWER CHOICES	RESPONSES	
好きの方だ	64.00%	16
どちらかといえば好きの方だ	32.00%	8
あまり好きでない	4.00%	1
好きでない	0.00%	0
TOTAL		25

Q12 性別（無回答可）

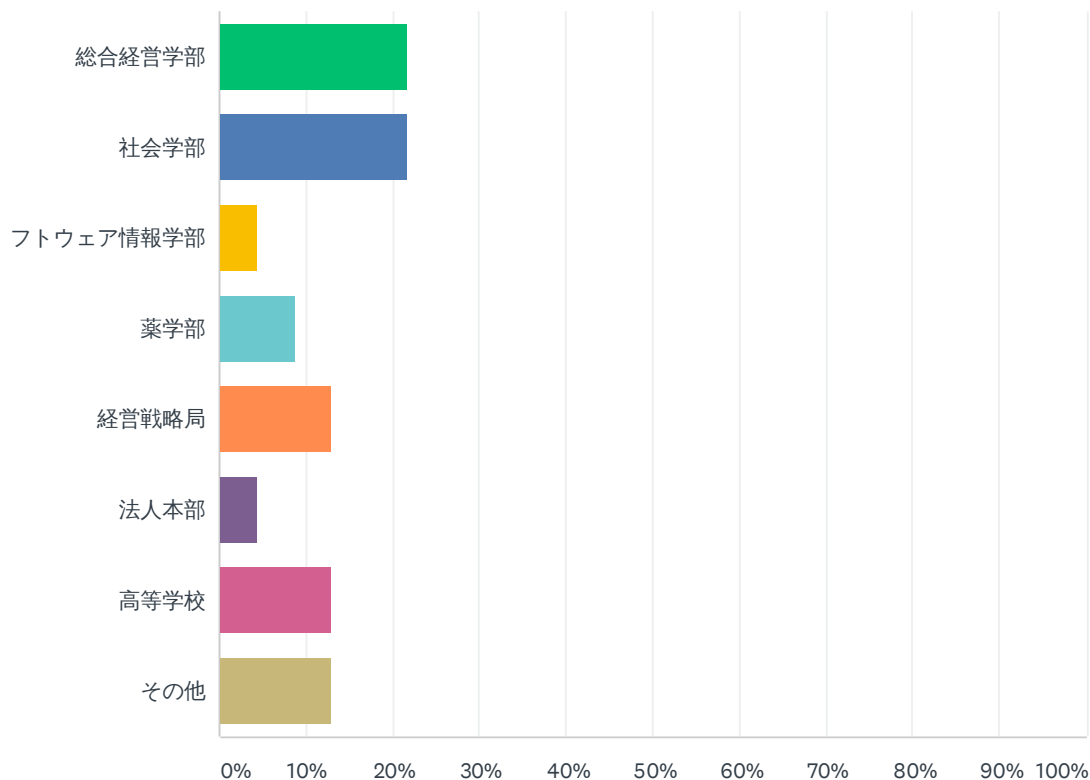
Answered: 24 Skipped: 1



ANSWER CHOICES	RESPONSES	
女性	25.00%	6
男性	75.00%	18
Total Respondents: 24		

Q13 貴方のご所属（無回答可）

Answered: 23 Skipped: 2



ANSWER CHOICES	RESPONSES	
総合経営学部	21.74%	5
社会学部	21.74%	5
ソフトウェア情報学部	4.35%	1
薬学部	8.70%	2
経営戦略局	13.04%	3
法人本部	4.35%	1
高等学校	13.04%	3
その他	13.04%	3
TOTAL		23

9. 高校生科学研究コンテスト

第8回 高校生科学研究コンテスト SDGs部門賞 スコアシート

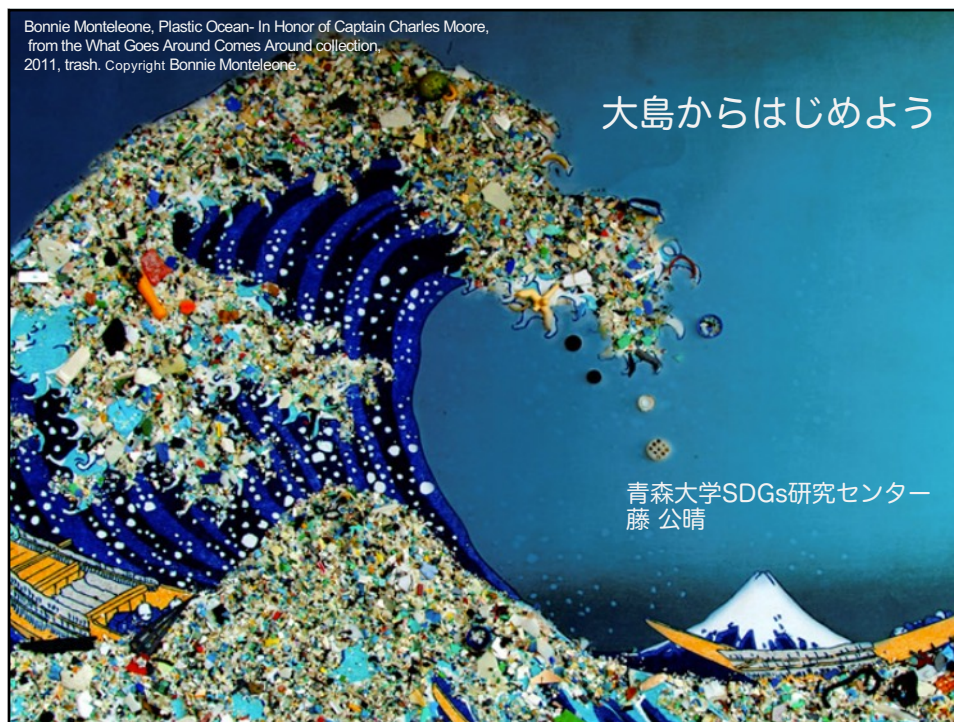
チーム名あるいは整理番号： _____

1) 研究の展開可能性 (SDGsの明示性に関係なく、当該研究の課題設定と調査結果の記述内容を踏まえた展開可能性のレベル)					
農林水産業の振興	高くない	あまり高くない	少し高い	高い	
身障者や低所得者など社会的弱者支援	高くない	あまり高くない	少し高い	高い	小計
廃棄物や自然再生など環境保全分野	高くない	あまり高くない	少し高い	高い	
貧困や水問題など国際協力	高くない	あまり高くない	少し高い	高い	
その他 (防災など)	高くない	あまり高くない	少し高い	高い	
2) 研究企画の強み					
頑丈さ(修正や改善の施し具合、先行研究との関連づけの豊富さ)	改善の余地あり	良い	優秀	非常に優秀	
着眼点や独創性 (テーマ設定や研究方法におけるユニークさ)	普通	突出するものはない	ユニーク	非常にユニーク	小計
研究結果に対する誠実さ (調査結果の解釈の尤もらしさ)	改善の余地あり	突出するものはない	注意深い内容	汎用性を含めて熟慮した内容	
持続可能性の要素 (予算や技術、支援など継続発展性)	あまり高くない	どちらかといえば高い	高い	非常に高い	
3) チームの力 (プレゼンテーションや質疑応答から垣間見える)					
コミュニケーション力 (伝える力、聞く力、表情、身振り、手振り)	改善の余地あり	良い	優秀	非常に優秀	小計
役割のバランス (メンバー同士で支え合っているか)	改善の余地あり	良い	優秀	非常に優秀	
課題対処の積極性 (能動的な姿勢)	改善の余地あり	良い	優秀	非常に優秀	

審査員名あるいはイニシャル： _____

合計点 _____

10. 大島からはじめよう 発表スライド



1

はじめに

1. 環境学の学徒として、何をすべきか、何ができるか
2. 地域の教育機関として、何をすべきか、何ができるか
 1. 講義やゼミで参画、その他に？
3. 青森県の環境政策に関わるものとして、何をすべきか、何ができるか
4. SDGs(持続可能な開発目標)との関連づけ

1. 青森県海岸漂着物対策推進地域計画
2. 海洋漂着ごみを集める人たちができること

2

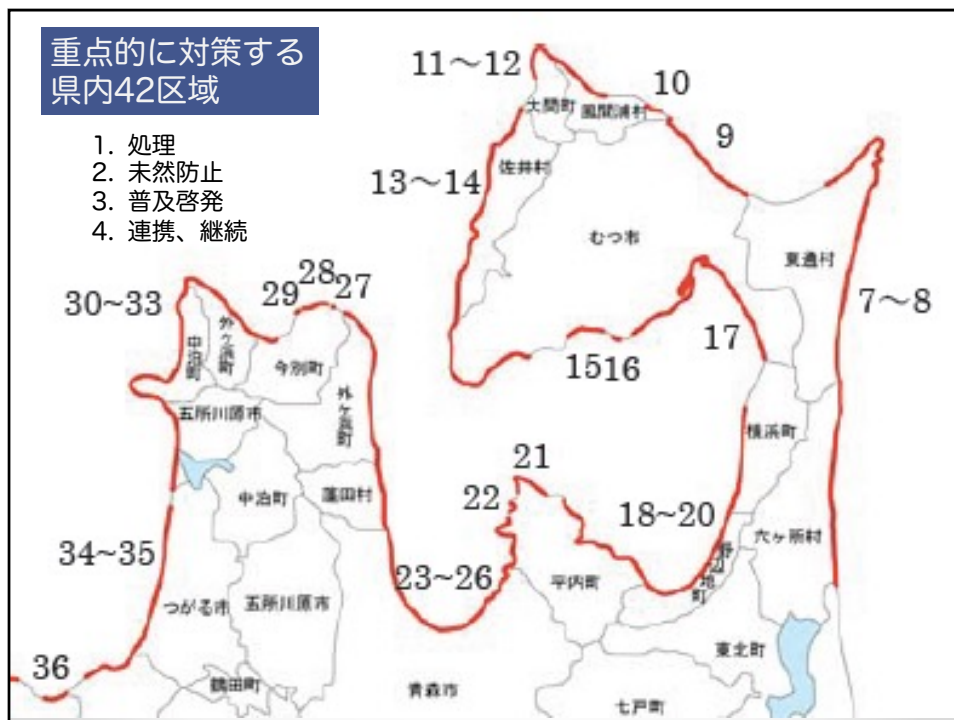


3

青森県海岸漂着物対策推進地域計画 平成23年3月

- 2010年調査：県沿岸 10 地点（春5地点、秋5地点）で調査実施。調査方法は、10m×10m の調査枠内に含まれる容量、重量、種別、原産国を把握 → 総量 約 7,100m³（約890t）
- 海岸漂着物対策を重点的に推進する区域の設定
 - 42区域（陸奥湾沿岸部の大半）
 - 処理、未然防止、普及啓発、連携、継続
- 第4次青森県循環型社会形成推進計画や第6次青森県環境計画と相補関係
- 改定、更新されていない

4



5

現場の私たちができること

1. ことばやイメージの創出

かっこよさ、心地良さ、発見、かかわり・連帯感、未来への展望、人々の幸福感と結びつける

2. 仕組みや手順の立案

「手間」の軽減に向けた働きかけや工夫（収集、処理のデータをとる）

3. 情報発信、交渉者、つなぎ役として

個人レベルから組織（企業・事業者、教育機関、漁協、政府など）様々な関係者への働きかけ（発信、協働、提案、提言）

4. SDGsとの関連づけ

絵具としての17のゴールと169のターゲット

新たな文化の創出

6

SDGsとゴミ問題の関係

「風が吹けば桶屋が儲かる」的な発想と関連づけ

4 質の高い教育をみんなに



すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する。

4.7 2030年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得できるようにする。

12 つくる責任 つかう責任



持続可能な生産消費形態を確保する。

12.5 2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。

12.8 2030年までに、人々があらゆる場所において、持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようになる。

14 海の豊かさを守ろう



15 陸の豊かさも守ろう



レジ袋や漁具など廃棄物発生の未然防止は環境保全につながる

8 働きがいも経済成長も



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



17 パートナリシップで目標を達成しよう



● 地産地消の推進は や にもつながる

7



8

環境配慮行動の創出にかかる 社会的ジレンマの構造

		他者の配慮行動	
		配慮する	配慮しない
個々の 配慮行動	配慮する 協調行動	手間はかかる けど、環境保 全につながる	手間がかかり環境 保全につながら ない（効果なし）
	配慮しない 利己的行動	手間がかか らないし環境保 全にもつな がる	手間がかからない が環境保全にも つながらない

11. 教育の質向上に関する提案書

令和2年12月3日

学長 金井 一頼様

青森大学の教育の質向上に関する提案書 SDGs 研究センター

2019年度から本研究センターは「SDGs時代の地方創生における高等教育機関の役割に関する調査研究（公益財団法人青森学術文化振興財団助成）」などを通して、青森大学のような地方の小規模の大学がSDGsの運用を通して、教育の質の向上を図る方策について検討を進めてきました。

今回、こうした提言書の急遽提出に至った背景には、過去5年間増加し続けている本学の退学者数問題の解消策を含めた教育の質の向上と、2期目の任期を迎える金井学長が就任後唱え続けてきた「尖った大学」の具現化に向けた布石という、2つの側面があります。また、本提言は2021年度早々の着手を想定しており、実現可能性を勘案し、①初年度教育の充実化と②正課外教育の機会拡充、③内なる国際化の3分野に絞って以下にまとめました。それぞれ関係教職員や学外の関係者を広く巻き込んだ準備調整と学内の機運の醸成を2020年度内に着手する必要があるため、ご検討の程よろしくお願い申し上げます。

① 初年度教育の充実化

これまで全学教務委員会を中心に地域貢献演習やキャリア特別実習などの基礎スタンダード科目で、学生の向学心、地域貢献への意欲を高める取り組みを行ってきました。本提言ではこれらの発展形として、雪解け後の4月、学内外各地域で目立つゴミのポイ捨て・漂着ごみ収集活動を新生が行う仕組みの導入を提案したい。その理由として、①身近で身体を動かし達成感を得ることのできる点、②活動を通して教職員や同級生と親交を深めることができる点、③わかりやすい地域貢献活動である点、④学内のポイ捨ての未然防止を含む学生の倫理観向上につながる点、⑤種類ごとに計量し成果の可視化を通じたPRやSDGsと関連づけた学習材料（学習意欲の向上）にもつながる点が挙げられる。例えば「地域貢献演習」や「学問のすすめ」などの既存の科目の一部に組み入れることも可能かと思われます。

今後、詳細な計画を学内の関係者ととも固める必要があるが、たたき台として以下の5地区での実施（各地区30～40名の学生と2名の教員）を提案したい。

4月中（午前3～4時間）

- 幸畑地区 1グループ
- 大学内 1グループ
- 平内町 1グループ
- 雲谷地区 1グループ
- 浅虫地区 1グループ

また、10年程前まで各学部で実施していた宿泊型のオリエンテーションについては、COVID-19の感染状況や予算、体制などを勘案しつつ、2022年度の入学者を対象に復活させることを検討していただきたい。2021年度については、上述のポイ捨て・漂着ごみ収集活動の振り返りや学内の交流行事などの実施を通して学生同士、教職員との親交を深める機会とするのが現実的と考えます。

② 正課外教育の機会拡充

2019年度の「SDGs時代の地方創生における高等教育機関の役割に関する調査研究（公益財団法人青森学術文化振興財団助成）」の成果報告書のまとめで、正課外活動を通じた自然体験や社会参画が非認知能力や社会情動的スキルを育む機会になるため、機会の拡充を述べた。また、2020年度行なった学生の自然体験系の正課外活動支援では高い満足度だけでなく、向学心の育成にもつながった。

とりわけ自然体験・野外活動には、アウトドアスキルや地域の自然環境の知識の習得だけでなく、健康増進や地域住民との交流、リスクマネジメントや非認知能力、観光人材の育成、主観的幸福感や満足度の向上など、多面的な効果がある点を踏まえて、本学の遊休化状態にあるアウトドアギアの整理と修理、貸出などを学生や教職員に提供できるよう組織的整備を行っていただきたいです。

2021年1月以降、該当備品の確認と表の作成、新規ギア購入の業者との折衝、貸与システムの構築を行い、2021年のゴールデンウィーク前に一部利用できるよう整備を進めていただきたい。実際の運営につきましては、学友会や関連サークル、青森山田サービスなどの関係機関に担っていただく可能性があるかと推察します。

③ 内なる国際化のさらなる推進

今年度のグローバル英語では、台湾の協定大学 実践大学との交流の実績を活かし、オンラインによる学生同士マンツーマン英語学習に取り組んでおり、一定の成果が見込まれる。これまでも進めてきた外国人留学生の受け入れだけでなく、協定大学との交流をオンライン等で積極的に進めつつ、下記6分野の推進を通して「尖った大学」を実現していただきたいです。

- i. 海外の協定大学で日本語を学ぶ学生らと、本学の日本語教員を目指す学生や語学支援に取り組む学生と交流する機会を設ける。
- ii. 8単位相当の英語科目の一部を各学部主導でデザインし、各学部の専門性を語学教育のコンテンツに盛り込む。特に現行の英語カリキュラムでは8単位が必須で全ての学生への影響があるにもかかわらず、ライティングや会話、各学部の専門性（薬学を除く）を組み入れた体系化が進んでいないことも含めて改善させるべきである。
- iii. また、海外の協定大学の学生らと英語で会話し、交流できる機会を設ける。内容によっては、オンラインによる英語コミュニケーションを上述の8単位のコンテンツの一部に組み込む。
- iv. 教育の国際化にかかる教職員の研修実施や派遣。
- v. 国内留学生の募集を青森メインキャンパスに迎えるよう積極的にPRを行う。
- vi. 青森県国際交流協会との連携協定を活かして、市内および県内在住の在日外国人と交流する機会を積極的に設ける（例えば、同協会主催のあおりグローバルアカデミーなど）。

以上

令和2年度 青森学術文化振興財団助成事業

SDGs時代の地方創生における
高等教育機関の役割に関する調査研究②
事業

成果報告書

発行年月日 2021年3月26日

発行者 青森大学附属総合研究所 SDGs研究センター
〒030-0943 青森市幸畑2丁目3-1
電話: 017-738-2001 (代表) FAX: 738-0143